

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
国語			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	山崎 梓
科目概要			
<p>基本的な国語の能力を高め、表現と理解を通して自我意識を覚醒し、社会的な認識の拡充をはかる。現代文では、論理的文章の構成に留意し、語句を正しく把握しながら正確に読解することを目的とする。古典文藝においては読解に際し必要不可欠な基本的知識を理解し、中古・中世文藝の特質を学ぶ。漢文では訓点・用字法・句法を学び、古代中国思想の特質を理解することを目的とする。</p>			
キーワード： 思考力 読解力 記述力 分析批評			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「新精選国語総合」久保田淳 明治書院 「常用国語便覧」浜島書店		「書き込み式漢字ベーシック」 明治書院	科目：国語 、 、日本語スキルズ 資格：日本語検定
評価方法			
評価項目	%	成績は定期試験・小テスト・提出物、漢字小テスト等の課題・学習態度・出席状況を総合的に判断して評価する。課題は内容、提出状況が悪い場合は減点とする。出席不良や授業態度が不良の場合も減点対象とし、評価する。学年末の成績は前期と後期の平均とする。	
期末試験	50		
中間試験	30		
課題	10		
出席・態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートは板書したものだけでなく、口頭説明も適宜書くようにすること。 ・ 課題は必ず実行すること。 ・ 語彙を増やして表現力を高めるため、辞書はこまめに引くこと。 ・ 出席や態度も評価に含むので、授業へ積極的に参加することを期待する。 ・ さまざまな書物に触れるよう心がけること。 			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階104室(教員室)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス	ガイダンス/読解・分析の方法論を理解できる。	
	第 2 週	評論「水の東西」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 3 週	評論「水の東西」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 4 週	評論「水の東西」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 5 週	評論「言葉の力」	作品の構成と展開を理解できる。	
	第 6 週	評論「言葉の力」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 7 週	評論「言葉の力」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 8 週	評論「言葉の力」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	古典の基礎知識	古文読解に必要な基本的知識を理解できる。	
	第 10 週	「伊勢物語」	「伊勢物語」の概要が理解できる。	
	第 11 週	「伊勢物語」 (芥川)	芥川(第六段)前半を正確に読解できる。	
	第 12 週	「伊勢物語」 (芥川)	芥川(第六段)後半を正確に読解できる。	
	第 13 週	「伊勢物語」 (東下り)	東下り(第九段)前半を正確に読解できる。	
	第 14 週	「伊勢物語」 (東下り)	東下り(第九段)後半を正確に読解できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検	
後 学 期	第 16 週	「徒然草」	中世文藝の特質を理解できる。	
	第 17 週	「徒然草」	「つれづれなるままに」を正確に読解できる。	
	第 18 週	「徒然草」	「名を聞くより」を正確に読解できる。	
	第 19 週	「徒然草」	「花は盛りに」を正確に読解できる。	
	第 20 週	小説「羅生門」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 21 週	小説「羅生門」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 22 週	小説「羅生門」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 23 週	小説「羅生門」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	漢文の基本事項	漢文訓読の基本を理解できる。	
	第 25 週	漢文の基本事項	漢文訓読の基本を理解できる。	
	第 26 週	唐詩	「春暁」「贈汪倫」を正確に読解できる。	
	第 27 週	唐詩	「月夜」を正確に読解できる。	
	第 28 週	十八史略	十八史略の概略を理解できる。	
	第 29 週	十八史略	「先従隗始」を正確に読解できる。	
第 30 週	十八史略	「先従隗始」を正確に読解できる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と就学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
歴史			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	宮野純光
科目概要			
<p>日本の歴史・文化について学習することにより、我々が生まれ育った日本に関心を持ち、理解を深めるとともに、日本人としての自覚を身につけることを目的とする。時代ごとにポイントを絞り、その時代の特徴をつかみ、時代の移り変わりを理解できるように留意しながら授業を進めていく。特に、前学期は平安から鎌倉時代、後学期は鎌倉から安土桃山時代を中心に学習する。</p>			
<p>キーワード： 日本文化，摂関政治，院政，武家政治，群雄割拠，織豊政権</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「最新日本史」，村尾次郎ほか，明成社 「山川 詳説日本史図録（第5版）」，詳説日本史図録編集委員会，山川出版社</p>			<p>科目：歴史 資格：歴史能力検定1級日本史， 歴史能力検定2級日本史</p>
評価方法			
期末試験	35	<p>期末試験、中間試験によって到達度を量るが、成績は課題、学習態度、出席状況を加味し、総合的に評価する。学習態度、出席状況は不良のものについて減点していく。年に数回のノート提出を課し、学習態度の一部として評価する。学年末の評価は各学期の成績合計の平均とする。</p>	
中間試験	25		
課題	20		
学習態度	15		
出席状況	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>課題は必ず提出すること。 ノートはしっかりととり、自己の学習に利用すること。 わからないこと、興味を持ったことがあれば（授業中・授業外とも）気軽に質問すること。 少しでも日本の歴史と文化に興味をもち、学習すること。 オフィスアワーは特に設けない。ただし、放課後は部活等に行くことも多いので、事前に予約すると確実である。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階104室（教員室）	

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前	第 1 週	日本史学習のための基礎知識	日本史を学習上の基礎知識を理解することができる。	
	第 2 週	律令政治の再建	奈良から平安への推移を理解できる。	
	第 3 週	弘仁・貞観文化	弘仁・貞観文化の特色を理解できる。	
	第 4 週	摂関政治とその推移	摂関政治の仕組みと変遷を理解できる。	
	第 5 週			
	第 6 週	国風文化の隆盛	国風文化の特色を理解できる。	
	第 7 週	院政と源平の盛衰	院政の仕組みについて理解できる。	
	第 8 週		平氏政権の特色を理解できる。	
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	鎌倉幕府の成立	鎌倉幕府成立の過程と仕組みを理解できる。	
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週	北条氏の台頭	北条氏の勢力伸長過程を理解できる。	
	第 13 週	承久の乱と執権政治	承久の乱の意義と執権政治の仕組みについて理解できる。	
	第 14 週	元寇と得宗専制の確立	元寇の影響と得宗専制のしくみについて理解できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
第 15 週	自己点検 鎌倉時代の文化	答案返却・解説および自己点検。 鎌倉文化の特色を理解できる。		
後	第 16 週	鎌倉時代の文化	鎌倉仏教の特色を理解できる。	
	第 17 週	鎌倉幕府の滅亡	鎌倉幕府滅亡の背景と過程を理解できる。	
	第 18 週			
	第 19 週	建武の新政	建武の新政の過程を理解できる。	
	第 20 週	南北朝の動乱	南北朝の動乱の流れをつかむことができる。	
	第 21 週	室町幕府の確立	室町幕府の成立過程を理解できる。	
	第 22 週	室町幕府の政治機構と財政基盤	室町幕府の政治機構と財政基盤を理解できる。	
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	幕府の衰退と下剋上	幕府権力の推移を理解できる。	
	第 25 週		各種の一揆や応仁の乱の経緯と影響を理解できる。	
	第 26 週	室町時代の文化	室町文化の特色を理解できる。	
	第 27 週	戦国大名の支配	戦国大名の支配の仕組みを理解できる。	
	第 28 週	織田信長の統一事業	信長による統一政策を理解できる。	
第 29 週	豊臣秀吉の天下統一	秀吉による統一政策を理解できる。		
第 30 週				
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
文化・芸術・思想			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 1	後	小高有普
科目概要			
<p>「モノを考え、生み出し、形にする」エンジニアとしての一連の作業を文化・芸術・思想をキーワードとし、「ものづくり」を学ぶ。本講義では、テーマに従い自分の発想をペーパーモデルに表現する。作成するモデルは4ステップ4モデルとし、最終モデルは構造とフォルムを考え表現する。一年次にものづくりの楽しさを体感することを目標とする。</p>			
キーワード： エンジニアリングデザイン、デザインシンキング、ものづくり過程（創造、設計、製作）			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし。必要に応じプリントを配布		なし	科目： 資格：
評価方法			
評価項目	%	1. 各自の発想とそれを表現したモデルにより、評価をする。 2. 未提出の課題が1つでもある場合は、当該科目の単位を認定しない。 3. 提出期限から遅れて提出された課題は減点となる。	
演習・課題	85		
学習態度	15		
合計	100		
受講上のアドバイス			
1. 発想、モデル作成方法等、迷いや不明な点は授業中に質問し解決する。 2. モデル作成に必要な道具（カッター、はさみ、定規、のり、コンパス）を準備すること。			
関連する本校の学習・教育目標			B
問い合わせ・質問先			2階209室小高まで

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前 学 期	第 1 週			
	第 2 週			
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週			
	-			-
	第 9 週			
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週			
-			-	
第 15 週				
後 学 期	第 16 週	構造デザイン 基礎	テーマに添ったアイデアをペーパーモデルで表現 提出	
	第 17 週	構造デザイン 基礎	テーマに添ったアイデアをペーパーモデルで表現	
	第 18 週	構造デザイン 基礎	2 週目の続きを完成する 提出	
	第 19 週	構造デザイン 基礎	立方体の箱をテーマに従い作る	
	第 20 週	図の理解と表現	基礎 提出・合評 エンジニアの構造図を選択する	
	第 21 週	図の理解と表現	展開図作成 全体構造の決定と部品への分解	
	第 22 週	図の理解と表現	モデル作成	
	第 23 週	図の理解と表現	モデル作成	
	-			-
	第 24 週	図の理解と表現	モデル作成	
	第 25 週	構造デザイン 応用	構造デザイン 基礎を応用し、モデルに表現する	
	第 26 週	構造デザイン 応用	モデル作成	
	第 27 週	構造デザイン 応用	モデル作成 発表、アドバイス	
	第 28 週	構造デザイン 応用	アドバイスを活かしてモデル修正	
	第 29 週	構造デザイン 応用	モデル修正 仕上げ	
	第 30 週	プレゼンテーション	最終課題の合評	
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	授業と修学成果を自己点検する		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
基礎数学			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	中泉俊一
科目概要			
<p>数学的に事象を考察し、処理するための土台となる集合と場合の数、確率、論証、平面図形についての知識を習得し、その理解を深めることを目的とする。とくに、場合の数における順列・組合せ及び確率を求める際の計算には正確性が必要となる。よって、これらの計算に習熟するための問題演習を多く行うものとする。</p>			
キーワード： 集合、場合の数、確率、論証、平面図形			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「数学A」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍 「数学」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍		「改訂版ニューアシスト新編数学 + A」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：線形代数 資格：
評価方法			
評価項目	%	試験： 試験（100点満点）の平均の7割を評価に加える。 小テスト： 単元ごとの理解度を測定するために実施する。 課題・家庭学習： 長期の休みには課題を出し、その内容によって評価を行う。 授業態度： 授業態度が不良の者については評価からの減点を行う。さらに、授業における内容の理解度や演習量を把握するために、授業用プリントを回収し、授業態度の一部として評価する。	
試験	70		
小テスト 課題 家庭学習	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
(1) 自ら学ぶ姿勢を身に付けること！ (2) 質問は遠慮なくすること！ただし、単に「わからない」ではなく、「自分が理解できたところはどこまでなのか」、「どの部分からが、理解できないのか」が伝わるように質問すること。 (3) 授業ノートは散逸を防ぐため、ルーズリーフではなく大学ノートを使用すること。また、問題演習用の配布プリントを整理し、試験の際に有意義に活用するため、フラットファイルを準備すること。 (4) 授業中に終了しなかった問題は、その日のうちに家庭学習にて終了させる努力をすること。 (5) 小テスト後は、自分の苦手な分野・理解不十分と思われる内容が明確になるので、間違えた部分や自信がなかった問題を重点的に復習すること。			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	集合 (数学 A)	集合に関する用語・記号を理解し、適切に使える。さらに集合の包含関係・共通部分、和集合・空集合・補集合とド・モルガンの法則について理解する。	
	第 2 週	集合		
	第 3 週	有限集合の要素の個数	有限集合の和集合の要素の個数を求められる。	
	第 4 週	樹形図と場合の数	樹形図等を利用して、和の法則・積の法則を理解する。	
	第 5 週	順列	順列の意味と記号を理解し、その計算ができる。	
	第 6 週	順列	順列を用いてさまざまな場合の数を求められる。	
	第 7 週	組合せ	組合せの意味と記号を理解し、その計算ができる。	
	第 8 週	組合せ と二項定理	組合せを用いてさまざまな場合の数を求められる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	事象と確率	不確定な事象が数量的に表現できることを理解する。	
	第 10 週	確率の基本性質	積事象・和事象・排反事象と確率の基本性質、確率の基本定理、和事象・余事象の確率について学び、集合と確率を関連付けて理解する。	
	第 11 週	確率の基本性質		
	第 12 週	独立な試行の確率	独立な試行の意味を理解し、その確率を求められる。	
	第 13 週	反復試行の確率	反復試行の意味を理解し、組合せを用いて、その確率を求められる。	
	第 14 週	反復試行の確率		
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	複雑な事象の確率	条件つき確率と乗法定理を学び、複雑な事象を考察する。	
	第 17 週	期待値	期待値の求め方を通して、確率の活用方法を理解する。	
	第 18 週	期待値		
	第 19 週	命題と条件・論証	論証に必要な用語・概念について理解する。	
	第 20 週	三角形と比	三角形の比に関するさまざまな定理を理解・復習する。	
	第 21 週	三角形の重心・外心・垂心・内心	重心・外心・垂心等の関係について理解する。	
	第 22 週	三角形の比の定理	チェバの定理・メネラウスの定理について理解する。	
	第 23 週	前項目までのまとめ	前項目までの内容のまとめを行い、理解度を確認する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	円周角の定理	円の基本的な性質と円周角の定理を理解・復習する。	
	第 25 週	円に内接する四角形	円に内接する四角形がもつ図形の性質を理解する。	
	第 26 週	円と直線	円と直線の性質を用いて、さまざまな値を求められる。	
	第 27 週	接線と弦のつくる角	接線と弦のつくる角の定理を理解する。	
	第 28 週	方べきの定理	円と点の位置関係に関わらず方べきの定理を利用できる。	
第 29 週	2つの円	2つの円の位置関係と、そこに表れる性質を理解する。		
第 30 週	図形の計量 (数学 I)	平面図形の面積比、立体図形の体積比を計算できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
基礎数学			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 4	前・後	松本昇久
科目概要			
<p>数学の中で最も基礎的な部分である数と式、方程式と不等式、2次関数、図形と計量についての知識を習得し、その理解を深めることを目的とする。図形と計量に関しては1年生の段階で三角比の概念を三角関数にまで拡張し、専門の授業内容への対応を図るものとする。さらに、基礎として習得しておくことが望ましい内容においては問題演習を多く取り入れ、計算力の向上を目指すものとする。</p>			
キーワード： 数と式、方程式と不等式、2次関数、三角比、三角関数			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「数学」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍 「数学」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍		「改訂版ニューアシスト新編数学 + A」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：微分積分 資格：
評価方法			
評価項目	%	試験 ：授業における講義内容と演習の成果を総合的に判断することを主とする。試験（100点満点）の 平均の7割 を評価に加える。 小テスト ：單元ごとの理解度を測定するために実施する。苦手な分野、理解が十分でない内容を早期に見つけ対応することを目的とする。 課題・家庭学習 ：長期の休みには課題を出し、その内容によって評価を行う。また、家庭学習のノートを用意し、学生の自学自習を促す。その評価は、試験の際に提出させるノートの内容によって行う。 授業態度 ：授業態度が不良の者については評価からの減点を行う。また、授業における内容の理解度や演習量を把握するために、授業用プリントは毎時間回収し、授業態度の一部として評価する。	
試験	70		
小テスト 課題 家庭学習	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
(1) 自ら学ぶ姿勢を身に付けること！ (2) 質問は遠慮なくすること！ただし、単に「わからない」ではなく、「自分が理解できたところはどこまでなのか」、「どの部分からが、理解できないのか」が伝わるように質問すること。 (3) 授業ノートは散逸を防ぐため、ルーズリーフではなく大学ノートを使用すること。また、問題演習用の配布プリントを整理し、試験の際に有意義に活用するため、フラットファイルを準備すること。 (4) 授業中に解答できなかった問題は、その日のうちに家庭学習にて解答できるよう努力をすること。 (5) 小テスト後は、自分の苦手な分野・理解不十分と思われる内容が明確になるので、間違えた部分や自信がなかった問題を重点的に復習すること。			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	整式 (数学)	整式に関する用語やその性質を理解する。	
	第 2 週	整式の加法・減法・乗法	計算法則や展開公式を用いて式の計算ができる。	
	第 3 週	因数分解	公式や文字の置き換えを用いて因数分解ができる。	
	第 4 週	実数	自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解する。	
	第 5 週	平方根を含む式の計算	平方根の計算と分母の有理化ができる。	
	第 6 週	不等式とその性質	不等式の性質を理解し、大小関係を不等式で表せる。	
	第 7 週	1 次不等式の解法と応用	1 次・連立 1 次不等式が解ける。	
	第 8 週	2 次方程式の解法と解の公式	平方完成や解の公式を用いて 2 次方程式が解ける。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	2 次方程式の実数解の個数と応用	2 次方程式の実数解の個数と判別式の関係を理解する。	
	第 10 週	2 次関数とそのグラフ	2 次関数の性質を理解し、そのグラフをかける。	
	第 11 週	2 次関数の決定	与えられた条件から 2 次関数を定められる。	
	第 12 週	2 次関数の最大と最小	2 次関数の最大・最小を理解し、その値を求められる。	
	第 13 週	2 次関数のグラフと共有点	x 軸との共有点と判別式の関係を理解する。	
	第 14 週	2 次不等式とその応用	2 次不等式の解の意味を理解し、その解を求められる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	直角三角形と正接	正接の意味を理解し、その値を求められる。	
	第 17 週	正弦・余弦	正弦・余弦の意味を理解し、その値を求められる。	
	第 18 週	三角比の相互関係と座標	三角比の相互関係を理解し、鈍角にまで拡張できる。	
	第 19 週	三角比の性質	三角比の相互関係を活用して、三角比の値を計算できる。	
	第 20 週	正弦定理	正弦定理を理解し、辺と角の大きさを求められる。	
	第 21 週	余弦定理	余弦定理を理解し、辺と角の大きさを求められる。	
	第 22 週	三角形の面積	正弦定理や余弦定理を用いて三角形の面積を求められる。	
	第 23 週	前項目までのまとめ	前項目までの内容のまとめを行い、理解度を確認する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	一般角と三角関数 (数学)	一般角と弧度法を用いて三角関数を理解する。	
	第 25 週	三角関数の性質	三角比の拡張が三角関数となることを理解する。	
	第 26 週	三角関数のグラフ	三角関数のもつ周期や対称性を理解し、グラフをかける。	
	第 27 週	三角関数を含む方程式・不等式	三角関数を含む方程式や不等式が解ける。	
	第 28 週	加法定理	加法定理を理解し、それを用いて計算ができる。	
	第 29 週	加法定理の応用	2 倍角・半角の公式や和と積の公式を理解する。	
	第 30 週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解し、その合成ができる。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
物理・化学			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	谷口 航
科目概要			
<p>物理学における基本的な考え方を、特殊な問題ではなく身近に体験できる現象として理解し、また、測定値の取り扱い方などを含めて基本的な解法を身につけ、専門科目への導入の足がかりとする。</p>			
<p>キーワード：エネルギー，加速度，重力，運動方程式，摩擦，</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「新編物理基礎」三浦 登他，東京書籍 「物理ドリル」，実教出版編集部，実教出版</p>			<p>科目： 資格：</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>復習プリントが授業時間内に出され、定期的にノート回収を行うので、必ず提出すること。試験後、課題を出すこともある。 また、出席・授業態度の点は大きな割合を占める。 真面目に授業を受け、努力することがよい成績に繋がる。</p>	
定期試験	70		
提出物	15		
出席	10		
授業態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題練習を行ったものを保管しておけるようにファイルを用意すること。 2. 復習問題には納得するまで取り組み、よくわからない問題は問題解説の際にしっかり確認すること。 3. 夏、冬の長期の休暇には宿題を出すので必ず提出すること。 4. 考え方、解き方のわからない問題は授業での解法の説明でしっかり頭に入れること。また、そこで理解できなかったことは後で必ず質問すること。 5. 予習、復習の習慣をつける。 			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室(数理教員室)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	平均の速さ、変位と速度	物体運動と平均の速さが理解できる。速度、変位とは何かを学ぶ。	
	第 2 週	等速直線運動、	等速直線運動の速さが求められる。	
	第 3 週	速度の合成、相対速度	速度が合成でき、相対速度が理解できる。	
	第 4 週	加速度、等加速度直線運動	加速度とは何か、加速度運動の計算ができる。	
	第 5 週	物体に働く重力	重力が理解でき、自由落下運動の計算ができる。	
	第 6 週	鉛直投射	鉛直投げ下ろし、投げ上げの落下運動の計算ができる。	
	第 7 週	放物運動	放物運動が理解できる。	
	第 8 週	総合演習	多くの問題を解くことができる。	
学 期	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	力とは、力のつり合い	力とは何か。力のつり合いについて理解できる。	
	第 10 週	弾性力、フックの法則	弾性力とフックの法則との関係が理解できる。	
	第 11 週	力の合成と分解	力の合成と分解を図示でき、その大きさ計算できる。	
	第 12 週	運動の 3 法則	運動の 3 法則を理解できる。	
	第 13 週	運動の第 2 法則	運動方程式を立て、解くことができる。	
	第 14 週	総合演習	多くの問題を解くことができる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
後 期	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
	第 16 週	運動の第 2 法則	2 物体の運動方程式を立て、解くことができる。	
	第 17 週	摩擦力 静止摩擦力	摩擦力について理解する。静止摩擦力の問題が解ける。	
	第 18 週	動摩擦力	動摩擦力の問題が解ける。	
	第 19 週	摩擦力と運動方程式	摩擦が加わった運動の運動方程式を立て、解くことができる。	
	第 20 週	液体や気体から受ける力	水圧、浮力が理解できる。	
	第 21 週	アルキメデスの原理	アルキメデスの原理を理解し、浮力の計算ができる。	
	第 22 週	抵抗のある運動	気体中の落下運動を理解し、終端速度が分かる。	
	第 23 週	総合演習	多くの問題を解くことができる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	仕事	仕事を理解し問題が解ける。	
	第 25 週	仕事の原理と仕事率	仕事の原理、仕事率を理解し問題が解ける。	
	第 26 週	重力による位置エネルギー	位置エネルギーとその求め方を理解できる。	
	第 27 週	弾性力による位置エネルギー	弾性エネルギーを理解し、問題が解ける。	
	第 28 週	運動エネルギー	運動エネルギーと仕事の関係が分かる。	
第 29 週	力学的エネルギー保存の法則	力学的エネルギー保存の法則が理解でき、問題が解ける。		
第 30 週	総合演習	多くの問題を解くことができる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
保健体育 (体育)			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	2/3	前・後	山口真史
科目概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テスト：背筋力、握力、反復横跳び、垂直跳び、伏臥上体そらし、長座体前屈、踏み台昇降運動 ・ 陸上競技：ハードル、走り高跳び ・ 剣道：礼法、構え、素振り、切り返し、掛かり稽古 ・ 器械運動：マット運動、鉄棒 ・ 球技：ドッジボール 			
キーワード：安全、協調性、生涯スポーツ、ルールの遵守			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		アクティブスポーツ2011	科目：なし 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	実技評価は競技種目ごとに試験を行う。 学習態度は協調性、ルールの遵守、服装、遅刻、見学等についてで、減点とする。 出席状況は欠席の場合減点とする。 尚、保健体育 の評価は実技と保健の相加平均とする。	
実技評価	40		
学習態度	30		
出席状況	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
1、ジャージ、シューズは指定のもの以外は認めない。 2、体調を整えて出席すること。 3、安全に留意すること。 4、スポーツの楽しさを理解するとともに、協調性を学ぶこと。 5、向上心を持って出席すること。 6、生涯スポーツについて理解すること。 7、見学によって学んだことを質問によって、験することがある。 8、体育施設の配置、着替え所要時間を考慮し、授業時限開始10分後に出席点呼をとる。授業終了後の着替え時間を10分とする。			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階・教員室	工大第1体育館教員室 工大第2体育館教員室

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前 学 期	第 1 週	オリエンテーション	5年間の体育についてと保健体育 について理解を深める
	第 2 週	体力測定	自己の体力を把握する
	第 3 週	集団行動	整列、姿勢、準備体操などの集団行動ができる
	第 4 週	球技の練習	各種球技の理解を深める
	第 5 週	陸上競技（ハードル走 ）	ハードルについて理解を深める
	第 6 週	陸上競技（ハードル走 ）	50mハードル走を自己到達目標タイムで走ることができる
	第 7 週	陸上競技（走り高跳び ）	走り高跳びについて理解を深める
	第 8 週	陸上競技（走り高跳び ）	走り高跳びの自己到達目標の高さを跳ぶことができる
中 学 期	-		-
	第 9 週	剣道	特性、礼法、形について理解を深める
	第 10 週	剣道	構え、素振りについて理解を深める
	第 11 週	剣道	上下、斜め、跳躍、正面、左右面、小手の素振りができる
	第 12 週	剣道	正しく防具をつけることができる
	第 13 週	剣道	防具をつけて素振り、相互に基本技ができる
	第 14 週	剣道	剣道の試験を通して理解を深める
	-		-
後 学 期	第 15 週	器械体操（マット運動 ）	前転、後転、倒立、側転ができる
	第 16 週	器械体操（マット運動 ）	開脚前転、開脚後転、倒立、側転、頭はねおきができる
	第 17 週	器械体操（マット運動 ）	倒立前転、後転倒立、はねおき、ハンドスプリングができる
	第 18 週	器械体操（マット運動 ）	倒立前転、後転倒立、はねおき、ハンドスプリングができる
	第 19 週	器械体操（マット運動 ）	マット運動の試験を通して理解を深める
	第 20 週	球技の練習	各種球技の理解を深める
	第 21 週	器械体操（鉄棒 ）	安全に鉄棒を組み立てられることができる
	第 22 週	器械体操（鉄棒 ）	逆上がり、前方支持回転、後方支持回転、横跳び越しおりができる
	第 23 週	器械体操（鉄棒 ）	逆上がり、前方支持回転、後方支持回転、横跳び越しおりができる
	-		-
	第 24 週	器械体操（鉄棒 ）	片ひざ掛け上がり、け上がりができる
	第 25 週	器械体操（鉄棒 ）	鉄棒の試験を通して理解を深める
	第 26 週	ドッジボール	ドッジボールのルールを理解できる
後 学 期	第 27 週	ドッジボール	基本的な技能の投げる、捕るなどができる
	第 28 週	ドッジボール	チームを作り、協調性をもって競技ができる
	第 29 週	ドッジボール	チームを作り、協調性をもって競技ができる
	第 30 週	ドッジボール	ドッジボールの試験を通して理解を深める
	-		-
第 31 週	自己点検自己評価	1年間の授業について振り返り理解を深める	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
保健体育 (保健)			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修1/3	前・後	山口真史
科目概要			
<p>現代社会と健康 : 現代社会における健康問題について学習する。 生涯を通じる健康 : 思春期における心や性の問題について学習する。</p>			
キーワード : 健康問題、生涯スポーツ			
教科書		参考書	関連する科目・資格
『最新保健体育』高石昌弘ほか、大修館書店		なし	科目 : なし 資格 : なし
評価方法			
評価項目	%	成績評価は、評価項目にしたがって評価する。 学習態度が悪い、遅刻、欠席した場合減点する。 尚、保健体育 の評価は実技を保健の相加平均とする。	
定期試験	70		
提出物	10		
学習態度	10		
出席状況	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>保健は、生涯を通しての自らの健康についての基礎知識を学ぶ大切な授業です。 授業を通し、自らの健康を見つめ直して、生涯にわたり健康的な生活を送れるように考えましょう。</p> <p>レポート作成は授業時間内で行います。授業時間内で終わるように集中して取り組みましょう。</p> <p>プリント、レポートは必ず提出すること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階・教員室	工大第1体育館教員室 工大第2体育館教員室

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	健康の考え方	「健康とは何か」という質問に答えられるようになる	
	第 2 週	健康の成り立ちと取り組み	健康に影響を与えているものについて理解を深める	
	第 3 週	私たちの健康のすがた	現在の日本の健康水準をとらえる	
	第 4 週	生活習慣病の予防	現在の行動が将来の生活習慣病を引き起こす原因になっていることについて理解を深める	
	第 5 週	食事と健康	健康に生きるための基礎が毎日の食事ということを理解する	
	第 6 週	運動・休養と健康	健康によい運動・休養とはどのようなものか理解を深める	
	第 7 週	喫煙と健康	喫煙の問題について理解を深める	
	第 8 週	飲酒と健康	飲酒の問題について理解を深める	
	-			-
	第 9 週	薬物乱用と健康	薬物の問題について理解を深める	
	第 10 週	健康についてのレポート	健康について自学調査をし、レポートを作成する	
	第 11 週	健康についてのレポート	健康について自学調査をし、レポートを作成する	
	第 12 週	健康についてのレポート	健康について自学調査をし、レポートを作成する	
	第 13 週	健康についてのレポート	健康について自学調査をし、レポートを作成する	
	第 14 週	前期のまとめ	前期の授業について振り返り、理解を深める	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	テストを返却し、それをもとに前期の学習を復習する		
後 学 期	第 16 週	健康と意思決定・行動選択	意思決定・行動選択についてのイメージしたうえでその重要性を理解する	
	第 17 週	感染症の予防	感染症の状況の変化、予防の大切さを理解する	
	第 18 週	性感染症・エイズの予防	性感染症、エイズの予防の大切さを理解する	
	第 19 週	医薬品と健康	薬を使うときには、どんなことに気をつければよいか理解を深める	
	第 20 週	欲求と適応機制	さまざまな欲求、欲求不満と適応機制について理解を深める	
	第 21 週	心身相関とストレス	心と体のかかわりについて理解を深める	
	第 22 週	交通事故の現状と要因	交通事故の現状と要因を理解する	
	第 23 週	交通事故を防ぐために	交通事故の防ぐための社会活動を理解する	
	-			-
	第 24 週	応急手当の意義	応急手当をおこなうための社会活動を理解する	
	第 25 週	心肺蘇生法の原理と手順	心肺蘇生法の原理と手順を理解する	
	第 26 週	思春期と健康	思春期の体の変化、心の不安や悩みについて理解する	
	第 27 週	性への関心・欲求と性行動の選択	性行動を選択する前に考えるべきことについて理解する	
	第 28 週	妊娠・出産と健康	母体の健康の維持について理解する	
	第 29 週	避妊法の選択と人工妊娠中絶	安全で確実な避妊法を学び正しい選択ができるようにする	
	第 30 週	後期のまとめ	後期の授業について振り返り理解を深める	
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	1年間の授業について振り返り理解を深める		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語 a(講読)			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2 / 5	前・後	向井 守
科目概要			
<p>社会現象、人の性格、食べ物、習慣、伝統、有名人、科学現象、自然、法律といった様々な興味深い内容が200～300語で書かれた英文を一語一語訳しながら読むのではなく、少しずつ情報をつかみながら全体の内容を理解していくリーディング活動を行う。時間をかけてじっくり読むのではなく、少しでも速く読んで英語の読解力を養っていくことを目的とする。</p>			
キーワード： 内容理解、リーディング活動、読解力、速読			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「New Password 1」, Linda Butler, Person Longman		ジーニアス英和辞典」小西支七・南出康也, 大修館	科目：総合英語I b、総合英語II 資格：
評価方法			
評価項目	%	各学期の学習の理解度と学習成果を示す期末試験に重点を置くことにする。各授業での読解のための言語活動での自発的な発表や、各Unit後に行われる単語整理テスト、そして積極的な授業への参加にも評価の対象をおくことにする。	
期末試験	70		
授業での発表	10		
小テスト	10		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 授業中に行われる速読、黙読、その他の活動に慣れていくことが大切です。毎日習慣的に様々な読む活動を行うことで読解力は確実に伸びていく。 日頃から簡単な英文を一定の時間内で読む練習をすることをすすめる。 読解力を高めるためには語彙力も大切である。単語帳を作成し丁寧に根気強い作業が大切である。単語は、意味だけでなく文の中でその語彙がどのように使われるかを知るために例文を調べたり自分で作成することをすすめる。 			
関連する本校の学習・教育目標			C
問い合わせ・質問先			1階301室(教員室)

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	Mayda Learns to Swim	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 2 週	Mayda Learns to Swim	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 3 週	Finding Time for Everything	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 4 週	Finding Time for Everything	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 5 週	単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。	
	第 6 週	The Job of a Food Critic	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 7 週	The Job of a Food Critic	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 8 週	Who Likes Cereal?	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	-			-
	第 9 週	Who Likes Cereal?	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 10 週	単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。	
	第 11 週	The Food Pyramid	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 12 週	The Food Pyramid	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 13 週	A New and Different Sport	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 14 週	A New and Different Sport	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検・単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。		
後 学 期	第 16 週	Collectors	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 17 週	Collectors	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 18 週	Mystery Shoppers	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 19 週	Mystery Shoppers	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 20 週	単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。	
	第 21 週	Online Shoppers	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 22 週	Online Shoppers	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 23 週	Returns and Exchanges	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	-			-
	第 24 週	Returns and Exchanges	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 25 週	単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。	
	第 26 週	Working Teens	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 27 週	Working Teens	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
	第 28 週	Night Workers	大まかな内容が理解でき、質問に英語で答えることができる。	
	第 29 週	Night Workers	細かな箇所も理解し、質問に英語で書いて答えることができる。	
第 30 週	単語の総復習	学習した単語の練習問題、また自分の例文を作ることができる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語 b(文法)			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3/5	前・後	大原しのぶ・宇都宮隆子
科目概要			
<p>前学期中に英語の基礎となる語順、時制、疑問文、否定形そして基本動詞約140語・不規則動詞の過去形、過去分詞形の復習を徹底し、後期から比較級、最上級、助動詞、受動態へと発展させていく。日本人教員での文法が英会話授業の理解度を深める助けとなるよう、外国人教員と学習内容を合わせて進めていく。</p>			
<p>キーワード： 語順、時制、疑問文、否定形、比較級、最上級、助動詞、受動態、基本動詞、不規則動詞</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
配布プリント		ジーニアス英和辞典、大修館書店	科目：総合英語II 資格：
評価方法			
評価項目	%	定期テスト： 学期毎に学んだ文法事項の理解度、単語習得度の成果を測るものとする。	
定期試験	50	小テスト： 単元毎に行う文法テスト、基本動詞・不規則動詞の意味、それらの過去形・過去分詞形の綴り形容詞の意味の習得度を測るものとする。	
小テスト	35	宿題・提出物： 授業中のプリント、基本動詞、形容詞の宿題プリントとする。	
宿題・提出物	10	学習態度・出席状況： 遅刻、忘れ物、授業中の居眠りに関しては随時減点。(5%以上の減点もありえる)	
学習態度・出席状況	5	*「総合英語(英文法)」(3/5単位)と「総合英語(講読)」(2/5単位)を平均したものを「総合英語」(5単位)とし最終評価とする。ただし両方で50点以上とらなければいけない。	
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>英語を使うことや、間違えることを恐れたり、恥ずかしがることはありません。まずは英語に慣れることから始めて、間違いを恐れることなく、積極的にどんどん英語を使っていく事が上達への道だと思います。</p> <p>この授業では、中学校で学んだ英文法の総復習を主に行います。また英会話のスキルズの授業内容とほぼ並行して進められるため、授業で学んだ事を会話の中で実際に使い、どんどん学んだことを試してみてください。そして英語を使うことを楽しんでください。</p> <p>この授業を受ける上での5つの留意点を記します。</p> <p>積極的に課題、練習問題に取り組むこと。</p> <p>配布される宿題の単語プリントを学習し、翌週の単語小テストに備える。</p> <p>小テストに欠席した場合、原則としてその小テストを受けることはできない。ただし公欠の場合は別とする。</p> <p>ハンドアウトをファイルに整理すること。</p> <p>質問は遠慮なくすること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標			C
問い合わせ・質問先			1階 教員室 (31-103)

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	Diagnosis Test / Word Order	診断テスト実施。英語と日本語の語順の違いを理解できる。	
	第 2 週	Simple Present	現在形の用法を理解し活用することができる。	
	第 3 週	Simple Past	過去形の用法を理解し活用することができる。	
	第 4 週	Yes-No questions	Yes-No疑問文の用法を理解し活用することができる。	
	第 5 週	Negative Sentences	否定文の用法を理解し活用することができる。	
	第 6 週	Yes-No Questions & Negative	否定文とYES/NO疑問文を活用することができる。	
	第 7 週	Wh-Questions	Wh疑問詞の用法を理解し活用することができる。	
	第 8 週	Wh-Questions		
-			-	
後 学 期	第 9 週	Present Progressive	現在進行形の用法を理解し活用することができる。	
	第 10 週	Simple Present vs Present	現在形と現在進行形の違いを理解し使い分けることができる。	
	第 11 週	Future	未来形の用法を理解し活用することができる。	
	第 12 週	Future		
	第 13 週	Present Perfect	現在完了形の用法を理解し活用することができる。	
	第 14 週	Present Perfect		
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検 / Present Perfect	現在完了形と過去形の違いを理解し、使い分けることができる。	
後 学 期	第 16 週	Comparisons	同等比較・比較級の用法を理解し活用することができる。	
	第 17 週	Comparisons		
	第 18 週	Superlatives	最上級の用法を理解し活用することができる。	
	第 19 週	Comparisons and Superlatives	同等比較・比較級・最上級それぞれの使い分けができる。	
	第 20 週	Prepositions of places	場所を示す前置詞を活用することができる	
	第 21 週	Modals Ability and Possibility	能力と可能性を表す助動詞を理解し活用することができる。	
	第 22 週	Modal Necessity and Prohibition	必要性と禁止を表す助動詞を理解し活用することができる。	
	第 23 週	Modal Advice	助言を表す助動詞の用法を理解し活用することができる。	
	-			-
	第 24 週	Modals Permission etc.	許可、丁寧な依頼、勧誘を表す助動詞を理解し活用できる。	
	第 25 週	Modals Polite Request etc.		
	第 26 週	Passive Voice Forms	受動態の用法を理解し、活用することができる。	
	第 27 週	Passive Voice Forms		
	第 28 週	Passive Voice v.s.Active 1	受動態と能動態の違いを理解し、使い分けることができる。	
第 29 週	Passive Voice v.s.Active 2			
第 30 週	Passive Voice with Modals / Diagnosis Test	助動詞を用いた受動態の文を理解し活用できる。診断テスト。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検・自己評価	年間の授業および各自の成果についての自己評価。		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
English Skills			Global Information Technology 1 st year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 3	1 & 2	Ian Stevenson, Karina Lopez, Lee Knowlton
Course Overview			
<p>Students will develop English skills and vocabulary in order to have everyday conversations in which they can: introduce themselves; describe their daily routine; ask for and give information; describe and compare people and things; talk about present ongoing, past, and future activities; discuss abilities and possibilities.</p> <p>In addition to practicing the aforementioned language functions, students will be exposed to different aspects of American culture through a variety of sources including film, music, holiday traditions, etc.</p>			
Keywords : Conversation, Comprehension, Culture			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<i>Smart Choice Student Book 1, 2nd Edition</i> K. Wilson and T. Healy Oxford <i>Smart Choice Workbook 1, 2nd Edition</i> K. Wilson, T. Falla, and P. Davis Oxford		Handouts	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	The teacher will evaluate students on their tests, class work, projects, and participation. The tests will mainly focus on the students' speaking performance, but written tests will also be given. The class work includes any speaking, listening, and written activities done in class. Each student's participation (including willingness to speak English, attendance, and punctuality) will continuously be assessed to determine their participation grade.	
Quizzes / Tests	30		
Class work	50		
Participation	20		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come to class on time and prepared with your books, a pencil and a good attitude. • Be friendly and respectful with the teacher and the other students. • Do not worry about making mistakes when you speak English, but try to learn from them. • Say <i>hello</i> and <i>goodbye</i> to the teacher in and outside of class. • Keep eye contact when you are talking with the teacher. 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Unit 0	Name games, class rules and grading, meeting and greeting	
	Week 2	Unit 1, Introducing Yourself	The present tense of 'be' part 1; Yes-No questions with 'be'	
	Week 3	Unit 1, Introducing Yourself	Pronunciation: Sentence Stress; Listening to people talk about themselves	
	Week 4	Unit 2, Personal Information	The present of tense of 'be' part 2; Wh- questions	
	Week 5	Unit 2, Personal Information	Talk about jobs; Using 'really?' to show doubt/disagreement; Pronunciation: Reduction of 'do you..?'	
	Week 6	Unit 3, Food	Talk about food likes, dislikes, and favorites; Simple present	
	Week 7	Unit 3, Food	Question Intonation; Food vocabulary; Simple present, third person '-s'	
	Week 8	Unit 4, Frequency Adverbs	Leisure activity likes, dislikes; frequency adverbs; Sports do/play/go	
	-			-
	Week 9	Unit 4, Frequency Adverbs	Ask and answer 'How often do you...?' questions; Listening to people talk about activities	
	Week 10	Unit 4, Frequency Adverbs	Pronunciation: Final 3 rd person '-s' sounds	
	Week 11	Unit 5, Present Progressive	Talk about what people are doing at home and at work	
	Week 12	Unit 5, Present Progressive	Ask Y-N and Wh- questions about what people are doing	
	Week 13	Unit 12, Future	Use 'be going to' + verb to talk about where and how you are going to go	
	Week 14	Unit 12, Future	Review transportation vocabulary and vacation places	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Semester 1 Review with games or a project		
2 nd Semester	Week 16	Unit 7, Adjectives-shopping for clothes	Use comparative forms of adjectives; describe clothes and differences	
	Week 17	Unit 7, Adjectives-shopping for clothes	New clothing vocabulary; Describe what people are wearing	
	Week 18	Unit 8, People Adjectives	Describe appearance and personality using 'looks like'; and 'be like'	
	Week 19	Unit 8, People Adjectives	Use superlative forms of adjectives; describe people and differences	
	Week 20	More Adjectives	New adjectives and their comparative and superlative forms	
	Week 21	Unit 9, Can/Can't Possibility and Ability	Talk about the ability to do things; possibility of doing things	
	Week 22	Unit 9, Can/Can't Possibility and Ability	Places in town where one can do certain things	
	Week 23	Unit 10, Things Around Town	Use 'there is /there are' to talk about places in town	
	-			-
	Week 24	Unit 10, Things Around Town	Places in town vocabulary	
	Week 25	Giving Directions	Places in town vocabulary and how to get there	
	Week 26	Giving Directions	Use imperative of verbs 'cross', 'turn', etc.; prepositions of location 'across from', 'next to'	
	Week 27	Unit 6, Past Tense of 'be'	Use past time markers and past 'be' to talk about location	
	Week 28	Unit 6, Past Tense of 'be'	Use past tense time markers and past be to talk about past condition	
	Week 29	Unit 11, Irregular Past Tense	Talk about past events; Use many regular and irregular past tense verbs	
	Week 30	Unit 11, Irregular Past Tense	Watch <i>Back to the Future</i> or another movie and review	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing			

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
人間と自然			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 1	集中講義	山崎 梓・菅原光彦
科目概要			
<p>穴水湾自然学苑において、海洋活動、講話、クラスミーティングなどを一体的に行う。団体活動を通じ、思いやりの心の必要性や協力し合うことがいかに重要かを理解する。海洋活動などのグループ活動によりチームワークの大切さを体験し、仲間作りのきっかけを得る。また、朝・夕べの集いにおける国旗の掲揚・降納、国歌の斉唱を通じ、日本人としての自覚を深める。</p>			
キーワード： 体験，人間力			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		学生便覧2012	科目：人間と自然 ， 人間と自然 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	<p>研修3日間のうち、2日目16：30まで出席した者について、本科目を履修したものと認め、成績評価を行う。出席状況は、2日目16：30までの出席で30点および3日間出席で満点の50点を付与する。</p> <p>海洋活動は受講態度が良好でない者は、10点を上限として減点する。研修レポートは穴水湾自然学苑で作成・提出するものとし、研修の理解度、取り組みの程度、表記の誤り、締め切り時刻後の提出などにより7点を上限とし減点する。また生活態度が良好でない者は、7点を上限として減点する。研修期間中の活動に体調不良等で出席できなかった場合は、海洋活動では午前、午後各3点、その他授業明細の項目については各1点を減点する。なお、見学は出席とする。</p> <p>学生便覧2012規則集中の金沢工業高等専門学校学則および諸規則中の生活規定等の規則に違反をした場合には退苑させることがあり、評定2（不可）とする。</p>	
海洋活動	20		
研修レポート	15		
生活態度	15		
出席状況	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>別に配布する穴水湾自然学苑研修の資料をよく読み、忘れ物のないように注意する。 健康管理に十分留意し、体調を整えて研修に臨むこと。もし、体調がおもわしくない場合は、本校集合時に必ず申し出ること。 健康保険証のコピーを必ず持参すること。 団体生活を通じ、仲間を大いに増やしてください。 穴水湾自然学苑周辺の大自然に大いに親しんでください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		<p>(授業開講時) 穴水湾自然学苑1階教員室・菅原まで (それ以外) 1階31・104教員室・山崎まで</p>	

	授業項目	到達目標または行動目標	点検
1	オリエンテーション	緊急時における非常口の場所など安全の確保に関することおよび研修期間中における基本的なルールなどについて理解できる。	
2	朝の集い	国歌の斉唱と国旗・校旗の掲揚を行い、掲揚時のマナーについて理解できる。	
3	夕べの集い	国歌の斉唱と国旗、校旗の降納を行い、降納時のマナーについて理解できる。	
4	校長講話	講話を通じ、学生生活上の指針を理解できる。	
5	海洋活動	カッター漕艇、調査研究船アルタイルによる港湾見学、ロープワークおよびカッターレースを行なう。これらのグループ活動を通して、チームワークの重要性を理解できる。	
6	団体生活	団体生活を通して、人間的な触れ合いや思いやりの心の大切さを知るとともに、協力し合うおよび挨拶や時間を守るという基本的な生活規範を身に付けることができる。	
7	クラスミーティング	自己紹介を通じクラスの団結を深め、これからの学生生活への意欲を高めることができる。	
8	学年ミーティング	校歌練習および学生生活ガイダンスを通じ、金沢高専生としての自覚を深めることができる。	
9	科長講話	講話を通じ、学生生活上の指針を理解できる。	
10	研修レポートの作成	「人間と自然」で学んだ以下の項目について、文章として表現できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・チームワークの大切さについて。 ・団体生活での思いやりの心の大切さおよび挨拶や時間を守ることについて。 ・海洋活動(カッター漕艇、港湾見学、ロープワーク)について。 ・校長講話および科長講話について。 	

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
English Computer Literacy			Global Information Technology 1 st Year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Bruce Gaylord, Takako Utsunomiya, Omihito Matsushita
Course Overview			
<p>In this class, students will complete a variety of tasks and activities introducing them to the English Microsoft Word, PowerPoint and Excel programs. Each application begins with simple exercises and move step-by-step through more difficult activities. The tasks and activities generally correspond to the language being taught in the students' skills classes. They will learn English application and operating system terminology. They will learn to use English search engines to find images and information on the Internet. They will make oral presentations in English.</p>			
<p>Keywords : Word, PowerPoint, Excel, Internet, Search Engine, Email, Oral Presentation</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
None		Instructor-designed handouts, electronic documents and online resources.	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Evaluation methods include: <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Word exercises and activities • PowerPoint exercises and activities • Excel exercises and activities • Oral presentations • Internet searches • User Interface Test • Participation and attitude 	
Skills exercises, Activities, Internet Searches and Oral Presentations	80		
Tests	10		
Participation and Attitude	10		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>This course will be taught by an English teacher and a Japanese teacher. Instructions will be given in simple, easy-to-understand English. Students who do not understand the English instructions will be able to ask the Japanese instructor questions.</p> <p>This is an English computer class and students are expected to try their best to communicate in English and they are expected to use the English operating system at all times.</p> <p>Students are expected to complete work on time. If a student misses a class, he or she is expected to make up missed work. Students are encouraged to use a computer in the computer room after school to complete unfinished or missed activities. A teacher will be available to help if needed.</p> <p>Students must keep an up-to-date file and bring it and a pencil/pen to every class.</p>			
Course Objectives		C	
Office		Bruce Gaylord - 31.211; Takako Utsunomiya - 31.103; Omihito Matsushita - 31.315	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Class syllabus, mechanics & goals	Student understands the syllabus and how class will be taught.	
	Week2	Getting Started on the Computer	Student is comfortable at the computer in the computer room.	
	Week3	Introduction to MS Word	Student can use toolbars and icons; save and move a file.	
	Week4	Word Activity #1	Student can start a new document; input information.	
	Week5	Word Activity #2	Student can insert/format a text box, clip art, WordArt, images.	
	Week6	Oral presentation #1	Student can use a positive body language.	
	Week7	Introduction to Search Engines	Student can find information using an English search engine.	
	Week8	Word Activity #3	Student can plan and start a document.	
	-			-
	Week9	Word Activity #3	Student can open and edit a document.	
	Week10	Oral presentation #2	Student can use positive body language.	
	Week11	Word Activity #4	Student can start a new document; input information.	
	Week12	Introduction to MS PowerPoint	Student is comfortable moving around the PowerPoint Window	
	Week13	Basic PowerPoint Functions	Student can use toolbars and icons and save and move a file.	
	Week14	PowerPoint Activity #1	Student can start a new presentation; input information.	
-	Test	User Interface	-	
Week15	Self-evaluation			
2nd Semester	Week16	Search Engine activity	Student can find information using an English search engine.	
	Week17	PowerPoint Activity #2	Student can insert/format an image; insert WordArt; insert shapes.	
	Week18	Oral Presentation #3	Student can make good eye contact.	
	Week19	PowerPoint Activity #3	Student can add custom animation.	
	Week20	Information search #3	Student can find information using search engines.	
	Week21	PowerPoint Activity #4	Student can plan	
	Week22	PowerPoint Activity #4	Student can open and edit a presentation.	
	Week23	Oral Presentation #4	Student can make good oral presentation.	
	-			-
	Week24	Introduction To MS Excel	Student can use toolbars and icons; save and move a file.	
	Week25	MS Excel - Tables/Charts	Student can open a new worksheet; input information.	
	Week26	MS Excel - Tables/Charts	Student can make a table; enter data; make a chart.	
	Week27	MS Excel - Math	Student can use toolbars and icons; save and move a file.	
	Week28	MS Excel - Math	Student can start a new worksheet and input formulas.	
	Week29	MS Excel - Math	Student can do basic math operations using Excel.	
	Week30	Last Day	School and teacher surveys.	
-	Test	User Interface	-	
Week31	Self-evaluation/Closing	Prepare for new year's class.		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報処理 a			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2 / 4	前・後	坂倉忠和
科目概要			
<p>コンピュータを利活用するための基礎的なスキル修得を目指し、コンピュータの基本操作やネットワークの接続方法、スライドの作成方法などを学ぶ。また、情報技術の基礎を学習し、それによって今後の情報工学専門科目の履修をスムーズにすることを旨とする。</p>			
キーワード： 情報リテラシ、ネットワークリテラシ、情報技術			
教科書		参考書	関連する科目・資格
指定しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		「ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシ」、杉本くみ子、吉田栄子、実教出版	科目：情報処理 b 資格：ITパスポート
評価方法			
評価項目	%	<p>成績は「情報処理 a」と「情報処理 b」を総合的に評価して「情報処理」として評価する。</p> <p>貸与パソコンを学内に接続するためには、「INFOS S情報倫理」の修了テストに合格しなければならない。他の授業の支障とならないように時間内に合格するよう努めること。</p> <p>演習に対して、積極的に取り組むことが前提となっているため、取り組みに関する評価項目を設定しない。そのような取り組み姿勢が見られない場合には、全体の評価から減点する。</p>	
期末試験	40		
中間試験	40		
課題・演習	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>ここから本格的なコンピュータとのお付き合いが始まります。コンピュータとの良い関係を築いていけるように、着実に基本的なスキルを身に付けていきましょう。なお、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <p>配布プリントを綴じるためのファイルを用意すること。 課題の提出期限は必ず守ること。 課題には必ず納得するまで取り組むこと。 質問は遠慮なくすること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		3階315室(光学演習室)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	ガイダンス	授業の進め方、および到達目標が分かる。	
	第 2 週	基本操作	コンピュータの基本操作について理解できる。	
	第 3 週	情報倫理	「INFOS 情報倫理」の第 1 章～第 3 章の内容が分かる。	
	第 4 週		「INFOS 情報倫理」の第 4 章～第 6 章の内容が分かる。	
	第 5 週		「INFOS 情報倫理」の修了テストに合格する。	
	第 6 週	日本語入力	日本語の入力ができる。	
	第 7 週	ネットワーク演習 (1)	ウィルス対策ソフトの概要について理解できる。	
	第 8 週		メールソフトの設定方法、および基本操作が分かる。	
-	前期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	ペイント	ペイントの基本操作、画像フォーマットの概要が分かる。	
	第 10 週	PowerPoint 2010	基本的な操作によってスライドを作成できる。	
	第 11 週		アニメーション効果を設定できる。	
	第 12 週		プレゼンテーション用スライドを作成できる。	
	第 13 週	ネットワーク演習 (2)	基本的なタグを理解できる。	
	第 14 週		簡単な Web ページを作成できる。	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	学期末試験の結果などにより、達成度を把握する。	
後 学	第 16 週	基数の基礎	数値表現における桁の役割が理解できる。	
	第 17 週	2 進法	2 進法での数値表現が理解できる。	
	第 18 週	16 進法	16 進法での数値表現が理解できる。	
	第 19 週	総合演習 (1)	第 16 週から第 18 週までの内容を定着させる。	
	第 20 週	2 進数の計算	2 進数同士の加算および減算ができる。	
	第 21 週	16 進数の計算	16 進数同士の加算および減算ができる。	
	第 22 週	コンピュータ上での数の表現	2 の補数を用いて負の整数を表現できる。	
	第 23 週	総合演習 (2)	第 20 週から第 22 週までの内容を定着させる。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	コンピュータの基本構成	コンピュータの基本構成要素が分かる。	
	第 25 週	メモリや周辺装置	メモリや周辺装置の概要が分かる。	
	第 26 週	ソフトウェアと OS	ソフトウェアおよび OS の概要が分かる。	
	第 27 週	総合演習 (3)	第 24 週から第 26 週までの内容を定着させる。	
	第 28 週	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みの概要が分かる。	
第 29 週	インターネット技術	インターネット技術の概要が分かる。		
第 30 週	総合演習 (4)	第 28 週および第 29 週の内容を定着させる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報処理 b			グローバル情報工学科 1年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2 / 4	前・後	館 宜伸
科目概要			
<p>コンピュータを利活用するための基本的な知識と技術の修得を目的とする。コンピュータでの文書作成などの作業効率を向上させる技術の一つとしてタッチタイプ、日本語入力などを学習する。また、コンピュータの活用法として、3DCGと簡単な動作制作の演習を行う。3DCG演習では、3DCGの基礎となるモデリング技術を学ぶ。具体的には、モデリングツールであるメタセコイアの操作方法を学び、独創的な作品の制作を行う。簡単な動作制作演習では、命令が記されたブロックを組み合わせることで動作制作を行う。具体的にはブロック組合せによる作成が簡単なScratchの操作方法を学び、独創的な作品の制作を行う。これらの演習を通じて、コンピュータを活用して「アイデアを形にする」過程を体験し、楽しむ。</p>			
<p>キーワード： タッチタイプ, 3DCG, メタセコイア, プログラミング基礎, Scratch</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「新メタセコイアからはじめよう!」, 原田大輔, 技術評論社 「スクラッチアイデアブック」, 石原正雄, カットシステム</p>			<p>科目: 資格: CGクリエイター検定ベーシック</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>タッチタイプの達成度も課題として測る。 作品(3DCG, Scratch)、課題のよって、左の割合で評価する。 なお、欠課1回(50分)につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な教科書やノートパソコンなどの忘れ物も1点減点とする。</p> <p>成績は、「情報処理 a」と「情報処理 b」を合わせて「情報処理」として評価する。</p>	
定期試験	50		
課題	25		
報告書	15		
発表	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>これから長く付き合うコンピュータのことですから、時には浅く、時には深い関係を築いていきましょう。そして、着実に知識と技術を学び、いつでも役立てられるように見つけていきましょう。 受講上の注意を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアの使い方など教科書に+の内容を記録できるようにノートを用意すること 2. 課題の提出期限は必ず守ること 3. 演習・課題には納得するまで取り組むこと 4. 遠慮なく質問すること 5. 無断で席や教室から離れないこと 			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		2階207室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス・基本操作	授業の目的を理解する	
	第 2 週	タッチタイプ	タッチタイプ練習ソフトの利用方法が分かる	
	第 3 週		タッチタイプの基礎を身につける	
	第 4 週	インストール・基本操作	メタセコイアの基本操作を行うことができる	
	第 5 週	モデリング基礎	基本操作を応用して、キャラクターを作成できる	
	第 6 週	テクスチャ・レンダリング	テクスチャを用いてキャラクターを作成し、レンダリングで画像を出力できる	
	第 7 週	モデリング応用(1)	基本図形に対して面取りを行うことができる	
	第 8 週	モデリング応用(2)	パーツの切れ目のないキャラクターを作成できる	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	モデリング応用(3)	やや複雑なモデリングを行うことができる	
	第 10 週	作品の制作	作品のアイデアをまとめることができ、作品として表現できる	
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週	発表準備	自分の作品をわかりやすく説明できる	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	作品発表、相互評価および、自己点検		
後 学 期	第 16 週	インストール	スクラッチの基本的な動作ができる	
	第 17 週	スプライト	スプライト(キャラクター)を動かせる	
	第 18 週	繰り返し	繰り返すスクリプトを作れる	
	第 19 週	見た目の変更	スプライトの見た目を変更できる	
	第 20 週	スクリプトの実行方法	スクリプトを開始する方法がわかる	
	第 21 週	ここまでの復習	繰り返しなどを用いたスクリプトを作れる	
	第 22 週	条件判定	条件を満たした時だけ処理するスクリプトを作れる	
	第 23 週		条件によって動作を変えるスクリプトを作れる	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	複雑な条件判定	複雑な条件判定を用いた条件判定ができる	
	第 25 週	変数(1)	変数を用いたスクリプトを作れる	
	第 26 週	変数(2)	リストを用いたスクリプトを作れる	
	第 27 週	変数(3)	複雑な変数を用いたスクリプトを作れる	
	第 28 週	スクラッチプログラムの作成	提出課題プログラムの作成を行う	
	第 29 週			
	第 30 週	提出課題プログラムの発表	提出課題プログラムのプレゼンテーションを行う	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業の修学成果について、自己点検評価する		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Creative Experiments I			Global Information Technology 1 st Year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Bruce Gaylord, Keisuke Inoue, and Omihito Matsushita Robert Songer and Mitsuo Motoki
Course Overview			
<p>At the beginning of the school year, students will be divided into two groups. Students in both groups will spend one semester learning to use a video camera and movie editing software to create a desk top movie and one semester learning to design, assemble and program a LEGO robot. Projects have been carefully chosen to provide students an opportunity to experience the fun being creative and the satisfaction of completing projects they planned. Both classes will be taught in English and Japanese. Instruction will be given in simple, easy-to-understand English. Students who do not understand the English instructions will be able to listen to an explanation in Japanese.</p>			
<p>Keywords : Video Recording, Movie Editing Software, LEGO, Robot Assembly, Robot Programming</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
None		Instructor-designed materials in traditional and electronic formats made available through the use of hand-outs, whiteboard or projector and screen.	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	DTV - students will be evaluated on their ability to:	
DTV Assignments - 25% Reports - 10% Attendance - 10% Attitude - 5%	50	<ul style="list-style-type: none"> • plan a movie using a storyboard • record images using a video camera • produce a movie using movie editing software • add special effects and music to a movie • summarize a project in a MS Word report 	
LEGO Assignments - 25% Report - 10 % Attendance - 10% Attitude - 5%	50	<p>LEGO - Students will be evaluated on their ability to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • assemble a robot following instructions • program a robot's behavior using various sensors • write a program to control lights, sounds and motor operation • assemble and program an original robot • summarize experiments in PowerPoint reports 	
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>Students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> • try their best to talk to their teachers and classmates using English • have fun doing interesting projects • come to class with a positive attitude • come to class on time and avoid being absent • finish work on time • ask questions if they don't understand • ask for permission to leave the classroom • handle computers, cameras, robots and other equipment with care • keep their workspace clean and neat • wear their lab jacket to class 			
Course Objectives		B , E	
Office		Bruce Gaylord - 31.211; Keisuke Inoue - 31.210 Robert Songer - 31.209; Mitsuo Motoki - 31.211	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Class syllabus; goals, mechanics	Understand syllabus and how class will be taught.	
	Week2	Practice using video camera	Can use a video camera and video-making skills.	
	Week3	Introduce Movie Project 1	Can use a video camera and video-making skills.	
	Week4	Introduce movie editing software	Can use movie editing software user interface.	
	Week5	Finish editing video	Can use movie editing software editing tools.	
	Week6	Introduce Movie Project 2	Can create a story using a storyboard.	
	Week7	Finish storyboard	Can create a story using a storyboard.	
	Week8	Start shooting video	Can use a video camera and video-making skills.	
	-			-
	Week9	Shoot video	Can use a video camera and video-making skills.	
	Week10	Review movie editing software	Can use movie editing software user interface and editing tools.	
	Week11	Edit Video	Can use movie editing software editing tools.	
	Week12	Finish shooting video	Can use a video camera and video-making skills.	
	Week13	Finish editing video	Can use movie editing software editing tools.	
	Week14	Introduce and start report	Can use MS Word to write a report.	
-			-	
Week15	Finish report; Share movies	Can use MS Word to write a report		
2nd Semester	Week16	Robot Construction & Conduct	Explain class progression and important points, prepare laptop.	
	Week17	Constructing an Automated Robot	Take inventory of LEGO parts and assemble the robot.	
	Week18	A Racing Robot Experiment	Program the robot to race along an oval path, and write a report.	
	Week19	Line Tracer Robot	Build and program a robot to follow a line.	
	Week20		Line tracer robot time race competition, and write a report.	
	Week21	Building a Crosswalk Signal	Use switches and conditionals to create light and sound.	
	Week22		Build a pedestrian crosswalk signal, and write a report.	
	Week23	Obstacle Avoiding Robot	Understand and use an ultrasonic sensor to avoid obstacles.	
	-			-
	Week24	Obstacle Avoiding Robot	Use multiple sensors to avoid obstacles and answer questions.	
	Week25	Original Creation Conception	Think of ideas for an original robot.	
	Week26	Original Creation Design	Design from the ideas of an original robot.	
	Week27	Original Creation Implementation	Build from the design of an original robot.	
	Week28	Original Creation Operation	Test run and improve the original robot.	
	Week29	Presentation Preparation	Prepare a PowerPoint of the original robot.	
	Week30	Presentations	Present and evaluate classmates' robot presentations.	
-			-	
Week31	Self-evaluation/Closing	Prepare for next year's class.		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
国語			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	大崎富雄
科目概要			
<p>歴史や人間への認識を深め、表現力・認識力を伸ばす。現代文においては人間や自然に関する深い洞察力に基づく思考内容を、明快な文章構成や語彙力で表現できることを目的とする。古典文芸では、作品内容を構成や展開に即して的確に捉え、底に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取ることを目的とする。</p>			
キーワード： 思考力 読解力 記述力 分析批評			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「精選現代文」, 小町谷照彦ほか, 東京書籍 「新精選古典」, 久保田淳ほか, 明治書院 「改訂版常用国語便覧」 浜島書店		「書き込み式漢字ペーシック」 明治書院	科目：国語、国語、日本語スキルズ 資格：日本語検定
評価方法			
評価項目	%	成績は定期試験・小テスト・宿題・レポート・学習態度等を総合的に判断して評価する。	
期末試験	50		
中間試験	30		
宿題・レポート	15		
学習態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートは板書したものだけでなく、口頭での説明も書くようにすること。 ・ 宿題は必ず実行すること。 ・ 辞書は必ず用意すること。また、辞書を常に引くように心がけ、知らない言葉を確認し、着実に身に付けること。 ・ 対象作品は徹底的に読み込むこと。 ・ 様々なジャンルの書物を読むよう心がけること。 			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階104室（教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	読解・分析について	ガイダンス/読解・分析の方法論を理解できる。	
	第 2 週	小説 山月記(中島敦)	作者の年譜的事実を把握し、理解できる。	
	第 3 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 4 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 5 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 6 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 7 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 8 週	小説 山月記(中島敦)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
学 期	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	作者の年譜的事実を把握し、理解できる。	
	第 10 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	作者の年譜的事実を把握し、理解できる。	
	第 11 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 12 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 13 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 14 週	詩 永訣の朝(宮澤賢治)	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
後 期	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
	第 16 週	古典の基礎知識 (中古文藝)	古文読解に必要な基本的知識を理解できる。	
	第 17 週	古典の基礎知識 (中古文藝)	古文読解に必要な基本的知識を理解できる。	
	第 18 週	和歌(古今・新古今和歌集)	和歌の方法を理解できる。	
	第 19 週	和歌(古今・新古今和歌集)	収録和歌の鑑賞を通して古今和歌集の特徴を理解する。	
	第 20 週	和歌(古今・新古今和歌集)	収録和歌の鑑賞を通して古今和歌集の特徴を理解する。	
	第 21 週	和歌(古今・新古今和歌集)	収録和歌の鑑賞を通して新古今和歌集の特徴を理解する。	
	第 22 週	和歌(古今・新古今和歌集)	収録和歌の鑑賞を通して新古今和歌集の特徴を理解する。	
	第 23 週	和歌(古今・新古今和歌集)	収録和歌の鑑賞を通して新古今和歌集の特徴を理解する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	枕草子	枕草子の文藝史的意義を理解できる。	
	第 25 週	枕草子	「春はあけぼの」を正確に読解できる。	
	第 26 週	枕草子	「春はあけぼの」を正確に読解できる。	
	第 27 週	枕草子	「木の花は」を正確に読解できる。	
	第 28 週	枕草子	「木の花は」を正確に読解できる。	
第 29 週	枕草子	「二月つごもりころに」を正確に読解できる。		
第 30 週	枕草子	「二月つごもりころに」を正確に読解できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
線形代数			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	中泉俊一
科目概要			
<p>線形代数は、理工系学生にとっては微分積分と並んで習得しなければならない数学の分野であり、その基本概念である「ベクトル」を理解するために、はじめに平面における点と直線・円について学習する。さらに、これらの内容を発展させる形で平面ベクトル・空間ベクトルへと進み、線形代数の分野において重要となる「平面および空間の幾何学」への理解を深めるものとする。また、ベクトルと合わせて「数列」についてもその基本概念を習得し、数列に関する計算に習熟するものとする。</p>			
キーワード： 点と直線、円、軌跡と領域、ベクトル、数列			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「数学」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍 「数学B」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍		「改訂版ニューアシスト新編数学 + B」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：線形代数 資格：
評価方法			
評価項目	%	試験 ：授業における講義内容と演習の成果を総合的に判断することを主とする。試験（100点満点）の平均の7割を評価に加える。 小テスト ：單元ごとの理解度を測定するために実施する。苦手な分野、理解が十分でない内容を早期に見つけ対応することを目的とする。 宿題・家庭学習 ：長期の休みには課題を出し、その内容によって評価を行う。また、家庭学習のノートを用意し、学生の自学自習を促す。 授業態度 ：授業態度が不良の者については評価からの減点を行う。さらに、授業における内容の理解度や演習量を把握するために、授業用プリントを回収し、授業態度の一部として評価する。	
試験	70		
小テスト 課題 家庭学習	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>基礎を固める意味で、授業は講義と問題演習を連動して行う。 教科書の問題を演習の中心とするが、進捗・習熟度に応じた授業用プリントを作成し、それを用いて問題演習を行う場合もある。</p> <p>そこで、次の～を心がける。 授業用プリントを整理し、試験の際に有意義に活用するために、フラットファイルを準備すること。 授業中に終了しなかった問題は、その日のうちに家庭にて終了させる努力をすること。 小テスト後は、自分の苦手な分野・理解不十分と思われる内容が明確になるので、間違えた部分や、自信のない部分を重点的に復習すること。 質問は遠慮なくすること。ただし、単に「わからない」では、教員もどうアドバイスすればよいか判断に困るので「自分が頑張った・理解できたところはどこまでなのか」「どの部分が、納得がいかないのか」「困っているのか」といったことを伝えること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	2点間の距離 (数学)	2点間の距離を計算で求めることができる。	
	第 2 週	内分点・外分点	内分点・外分点、さらに、重心等の座標を求めることができる。	
	第 3 週	直線の方程式	与えられた条件を活用して直線の方程式を求めることができる。	
	第 4 週	2直線の関係(1)	平行・垂直条件を理解し、活用して問題を解くことができる。	
	第 5 週	2直線の関係(2)	2直線の交点上の直線、点と直線の距離を求めることができる。	
	第 6 週	円と直線	円と直線の共有点、接線、弧の長さを求めることができる。	
	第 7 週	軌跡の方程式	与えられた条件を満たす軌跡を、方程式で表すことができる。	
	第 8 週	不等式の表す領域	不等式、連立不等式の満たす領域を図示することができる。	
学 期	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	数列 (数学B)	数列の定義や用語を理解することができる。	
	第 10 週	等差数列	等差数列の定義を理解し、その一般項を求めることができる。	
	第 11 週	等差数列の和	等差数列の和の求め方を理解し、その値を求めることができる。	
	第 12 週	等比数列	等比数列の定義を理解し、その一般項を求めることができる。	
	第 13 週	等比数列の和	等比数列の和の求め方を理解し、その値を求めることができる。	
	第 14 週	和の記号	和の記号の性質を用いて、数列の和を計算することができる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
後 期	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
	第 16 週	いろいろな数列	等差・等比数列ではない数列の一般項を求めることができる。	
	第 17 週	漸化式	漸化式で表現された数列の一般項を求めることができる。	
	第 18 週	数学的帰納法	数学的帰納法を用いた簡単な証明を理解することができる。	
	第 19 週	ベクトルの意味	ベクトルの定義や用語を理解することができる。	
	第 20 週	ベクトルの加法・減法・実数倍	ベクトルの代数的な演算(加法・減法・実数倍)ができる。	
	第 21 週	ベクトルの成分	成分で表示されたベクトルを用いて、さまざまな計算ができる。	
	第 22 週	ベクトルの内積	ベクトルの内積の定義を理解し、その計算ができる。	
	第 23 週	前項目までのまとめ	前項目までの内容のまとめを行い、理解度を確認する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	位置ベクトル	位置ベクトルを理解し、それを図形の問題に活用できる。	
	第 25 週	図形のベクトル方程式	方向ベクトルと法線ベクトルを用いて直線を表すことができる。	
	第 26 週	ベクトルの図形への応用	図形の計量や性質を調べるために、内積を活用できる。	
	第 27 週	空間座標	空間において点を座標を用いて表現することができる。	
	第 28 週	空間におけるベクトル(1)	空間におけるベクトルの定義を理解することができる。さらに、ベクトルを成分で表示し、さまざまな計算ができる。	
第 29 週	空間におけるベクトル(2)	空間におけるベクトルの内積の計算ができる。		
第 30 週	位置ベクトルと空間の図形	空間における位置ベクトルを図形の問題に活用できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
微分積分			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	木原 均
科目概要			
<p>1年次に学習した方程式の内容を引き継ぎ・発展させる形で、整式の除法、複素解を含む2次方程式、因数定理、恒等式について学習し、さらには新たな関数として指数関数・対数関数についての知識を習得する。2年次の後半では、工学においてさまざまな現象を解析する上で不可欠な微分・積分の概念、および基本性質を理解し、整式での微分・積分の基本的な計算に習熟することを目的とする。ここでの学習内容は、あとに学習する『微分積分』『応用数学』や、専門科目で活用される数学の基礎として極めて重要である。</p>			
キーワード： 方程式、式と証明、指数関数、対数関数、微分、積分			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「数学」、飯高茂 / 松本幸夫編、東京書籍		「改訂版ニューアシスト新編数学 + B」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：基礎数学，微分積分 資格：
評価方法			
評価項目	%	定期試験： 授業における講義内容の理解と演習の成果を総合的に判断することを主とする。定期試験の平均の65%を評価に加える。 課題： 毎時限の授業用プリントの内容によって評価を行う。また、長期の休みには宿題を出し、その内容によって評価を行う。 授業態度： 授業態度や出席状況が不良の者については評価からの減点を行う。	
定期試験	65		
小テスト 課題 授業態度	35		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>授業は講義と問題演習を連動して行います。問題演習では、教科書の問題を中心とした授業用プリントを毎時限行い、授業終了後提出してもらいます。</p> <p>この科目を受講する上で、以下のことを守ってください。 ノートは大学ノートを使用すること。ルーズリーフは極力使用しないでください。 授業用プリントを整理し、試験の際有意義に活用するために、フラットファイルを準備すること。 質問は何時でも遠慮なくしてください。よくわからないことがあったら、必ず質問して、そのままにしないよう心がけてください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前	第 1 週	整式の除法	整式の割り算が出来る。	
	第 2 週	分数式とその計算	分数式の約分・通分・加減乗除の計算が出来る。	
	第 3 週	複素数とその計算	複素数の性質を理解し、その計算が出来る。	
	第 4 週	解の公式	2次方程式を解の公式を利用して求めることが出来る。 また、判別式を利用して、2次方程式の解を判別することが出来る。	
	第 5 週			
	第 6 週	解と係数の関係	2次方程式の解と係数の関係を用いて、因数分解が出来る。	
	第 7 週			
	第 8 週	問題演習	これまでの内容に習熟する。	
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	剰余の定理	剰余の定理を用いて、割り算の余りを求めることが出来る。	
	第 10 週	因数定理	因数定理を用いて、因数分解が出来る。	
	第 11 週	簡単な高次方程式	簡単な高次方程式を解くことが出来る。	
	第 12 週	恒等式	恒等式の係数を比較することが出来る。	
	第 13 週	不等式	不等式の基本的な性質を理解し、計算することが出来る。	
	第 14 週	不等式の証明	等式や不等式の証明が出来る。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
後	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
	第 16 週	指数法則	指数法則を理解し、その計算が出来る	
	第 17 週	累乗根	累乗根の性質を理解し、その計算が出来る。	
	第 18 週	指数の拡張	有理数を指数とする数の計算が出来る。	
	第 19 週	指数関数のグラフ	指数関数のグラフを描くことが出来る。	
	第 20 週			
	第 21 週	対数とその性質	対数と指数との関係を理解し、その計算が出来る。	
	第 22 週	対数関数のグラフ	対数関数のグラフを描くことが出来る。	
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	導関数	平均変化率や微分係数などの定義を理解できる。	
	第 25 週	微分	公式を用いて、導関数を求めることが出来る。	
	第 26 週	増減と極大極小	関数のグラフを描くことが出来る。	
	第 27 週			
	第 28 週	不定積分	不定積分を求めることが出来る。	
第 29 週	定積分	定積分の値を求めることが出来る。		
第 30 週	面積	定積分を用いて、図形の面積を求めることが出来る。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
物理・化学			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	原 孝美
科目概要			
<p>数学同様工学の基礎となる重要な教科である。工学の世界で、その対象の取り扱い方の基本を示すのが物理学であり、そのための手段が数学である。ここでは、工学における基本的な考え方を、特殊な問題ではなく身の回りに起こる物理現象として理解し、1年生で学習したことをもとに基本的問題の解法を身につけ3年生につなげる。</p> <p>同時に、化学は工学を学ぶ者にとっては必要不可欠な学問であるので、その勉強も取り入れる。</p>			
キーワード：仕事、力学的エネルギー、熱容量、波、原子・分子、物質			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「物理」三浦 登ほか、東京書籍 「高校化学基礎」務台 潔ほか、実教出版 「高校化学基礎カラーノート」 実教出版		「ダイナミックワイド図説化学」東京書籍	科目：物理・化学 資格：ガス溶接、ボイラー資格試験
評価方法			
評価項目	%	前期・後期の成績を平均して学年評価とする。 小テストと課題を分けて書いてあるが、両方の合計で25%とする。ただし、小テスト20%、課題5%といったような著しく偏った割合にはしない。 授業態度が著しく悪い学生は、たとえ皆出席でも出席点を取得できない。 化学の問題集は学期に一度集めて課題点とする。授業中やらなかった問題は宿題とするので、自宅で復習し提出期限までにすべてやり終えておく。	
期末試験	35		
中間試験	30		
小テスト	15		
課題	10		
出席・態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>練習問題や小テストを保管しておけるようにファイルを用意すること。</p> <p>演習問題には納得するまで取り組み、よくわからない問題は問題解説の際にしっかり確認すること。</p> <p>ここは覚える！と言ったところは必ず覚えるよう復習する努力をすること。</p> <p>理解できないところを試験まで残しておかないよう、質問は恥ずかしがらずにすること。</p> <p>小テストの際にはノートのみを持込を許可することがあるのでノートを用意し、授業中は黒板を写し、問題などの解答は自分で解き、また解けなかったときは解答を必ず写しておくこと。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室 不在時は同室の他の先生に用事を伝えておく	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	仕事 仕事の原理と仕事率	仕事とその原理、仕事率が理解でき、計算できる。	
	第 2 週	さまざまなエネルギーとその保存の法則	位置のエネルギーと運動エネルギーが計算でき、エネルギーは相互に、また、仕事にも変換できるが総量は保存されることを理解できる。	
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週	熱量 温度と熱容量	熱の移動と熱容量が理解できる。	
	第 6 週	ポイル・シャルルの法則	ポイル・シャルルの法則が理解でき、問題が解ける。	
	第 7 週	内部エネルギーと状態変化	内部エネルギーが理解でき、状態変化が分かる。	
	第 8 週			
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	電圧と電流 電力量	電圧と電流の関係電力量が求められる。	
	第 10 週	熱機関と効率	熱力学の第二法則が理解できる。	
	第 11 週	化学入門と物質の成分と分離	混合物を分離し、混合物・化合物・単体に分類できる。	
	期	第 12 週	物質の構成粒子と原子の構造	物質の構成最小粒子である原子の構造が理解できる。
		第 13 週	原子の電子配置、イオンと物質	原子の構造、陽子・中性子・電子・イオンが理解できる。
		第 14 週	物質と分子・結晶	分子の構造と表し方、分子からなる物質が理解できる。
		-	前学期末試験	(試験)
	第 15 週	自己点検	自己の試験の成績より理解度を自己点検する。	
	後	第 16 週	元素の周期表、原子量・分子量	元素の周期表が理解で、原子量と分子量が分かる。
第 17 週		物質量	物質量が理解でき、気体の体積が求められる。	
第 18 週		分子の数と物質量、気体の体積	分子やイオンの数、気体の物質量や体積が求められる。	
第 19 週		物質量と溶液の濃度	質量パーセント濃度とモル濃度の違いが理解できる。	
第 20 週		モル濃度	モル濃度の計算ができるようになる。	
学		第 21 週	化学反応式	化学反応式が書けるようになる。
		第 22 週	反応式の量的関係	反応式内の量的関係について理解できる。
		第 23 週	化学反応と熱、状態変化	状態変化による熱の出入りを化学反応式に書ける。
		-	後学期中間試験	(試験)
期		第 24 週	熱化学方程式、ヘスの法則	ヘスの法則より総熱量保存の法則を理解し、問題が解ける。
		第 25 週	波とは何か	波を理解し、波の速さ、波長、振動数が理解できる。
		第 26 週	波の重ね合わせ、定常波	波の合成ができ、定常波が理解できる。
		第 27 週	波の性質とその特徴	波の特徴、屈折、うなり、干渉などの現象が理解できる。
		第 28 週	音波と音の三要素と音の特徴	音速が求められ、波と同じ音の性質について理解できる。
	第 29 週	振動する弦、固有振動と共振 気柱の振動	固有振動を理解し、弦や気柱の振動数を求められる。 開管、閉管の基本振動、倍振動について計算できる。	
	第 30 週			
	-	後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	自己の試験の成績より理解度を自己点検する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
保健体育			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修2	前・後	瀧本明弘
科目概要			
<p>体力テスト(背筋力、握力、反復横跳び、垂直跳び、伏臥上体そらし、長座体前屈、踏み台昇降運動) バレーボール(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイク、ルール、戦術、ゲーム) ハンドボール(パス、シュート、ルール、戦術、ゲーム) トレーニング(ウォーミングアップ、筋力トレーニング、トレーニングマシンの使用方法)</p>			
キーワード： 生涯スポーツ、体力、球技、トレーニング			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		アクティブスポーツ2011	科目：なし 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	レポートは1回提出する。課題は、「トレーニング全般について」である。 学習態度は、協調性、ルール順守、服装、遅刻、見学等についてである。 欠席は、出席状況より減点する。	
実技試験	20		
リーグ戦成績	20		
レポート	10		
学習態度	20		
出席状況	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ジャージ、シューズは指定のもの以外は認めない。 2. 体調を整えて出席すること。 3. 向上心を持って出席すること。 4. 安全に留意すること。 5. スポーツの楽しさを理解すること。 6. 体育施設の配置、着替え時間を考慮し、授業時限開始10分後に出席点呼をとる。授業終了後の着替え時間を10分とする。 			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		31・104 第二体育館	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	オリエンテーション	保健体育 全般について理解を深める	
	第 2 週	体力テスト	自分の体力を把握する	
	第 3 週	体力テスト	自分の体力を把握する	
	第 4 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 5 週	バレーボール	三種類のサーブ及び二種類のパスについて理解を深める	
	第 6 週	バレーボール	三種類のサーブ及び二種類のパスができる	
	第 7 週	バレーボール	スパイクについて理解を深める	
	第 8 週	バレーボール	スパイクができる	
-	前期中間試験	(試験)	-	
前 学 期	第 9 週	バレーボール	試合形式の練習でチームプレーについて理解を深める	
	第 10 週	バレーボール	試合形式の練習でチームプレーができる	
	第 11 週	バレーボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	第 12 週	バレーボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	第 13 週	バレーボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	第 14 週	ハンドボール	ビデオを視聴し、概要及びルールについて理解を深める	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	ハンドボール	キャッチボール、シュートについて理解を深める	
後 学 期	第 16 週	ハンドボール	二人組及び三人組のランニングパスからのシュートができる	
	第 17 週	ハンドボール	四人組及び六人組のランニングパスからのシュートができる	
	第 18 週	ハンドボール	試合形式の練習でチームプレーについて理解を深める	
	第 19 週	ハンドボール	試合形式の練習でチームプレーができる	
	第 20 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 21 週	ハンドボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	第 22 週	ハンドボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	第 23 週	ハンドボール	リーグ戦でチームプレーができる	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	トレーニング	トレーニングマシンの使用方法について理解を深める	
	第 25 週	トレーニング	筋力トレーニングについて、講義を通して理解を深める	
	第 26 週	トレーニング	最大筋力の測定を行い、自分の筋力を把握する	
	第 27 週	トレーニング	自分のトレーニングプログラムを作成する	
第 28 週	トレーニング	自分のトレーニングプログラムに従ってトレーニングを体験する		
第 29 週	トレーニング	自分のトレーニングプログラムに従ってトレーニングを体験する		
第 30 週	トレーニング	トレーニングについての課題を通して、理解を深める		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	1年間の授業について振り返り理解を深める		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	向井 守
科目概要			
<p>平明な文章で書かれた英文をより速く、より多く読む訓練を通して読解力、語彙力の増強を図るとともに、教材に取り扱われる自然界での出来事、人々の考え方、行き方、さまざまな国の文化、食習慣などの話題に触れ、今までに意識しなかったことに興味を持ち、知的好奇心を高めることを目的とする。また不定詞、動名詞、関係詞、仮定法などの文法を学習することにより英文の仕組みとそのルールを理解し、今後の英語学習の支柱となるよう演習を通してそれらを身につける。</p>			
<p>キーワード： 読解力、語彙力、知的好奇心、不定詞、動名詞、関係詞、仮定法</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「New Password 2」, Linda Butler, Pearson Longman		「Grammar Spectrum 2」, Mark Harrison, Oxford University Press	科目：総合英語Ⅰ、総合英語Ⅲ 資格：英検準2級
評価方法			
評価項目	%	<p>各学期の学習の理解の結果として期末試験の結果を重視する。日頃の授業は大切である。自発的な発言や積極的な授業への参加も評価の対象とする。各ユニット毎の単語の小テストも評価対象の一部とする。</p>	
期末試験	70		
授業での発表	10		
小テスト	10		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で教科書の英文を時間を決めて読み終える練習をすすめる。5分が4分、3分と段々と読むスピードが速くなり同時に内容理解も確実に伸びるはずである。 ・文法は文法整理ノートを各自で作成することをすすめる。 ・理解確認の練習問題や単語の整理問題はハンドアウトや教科書に書き込むだけでなく丁寧にノートに書くことをすすめる。 ・単語の学習は必ずその単語を用いた英文を自分で作成することを強くすすめる。 ・各英文を理解した後、その要旨を英語でまとめる作業をすすめる。 			
関連する本校の学習・教育目標	C		
問い合わせ・質問先	1階103室（教員室）		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	Chapter1:Daring to Breakdance	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 2 週	Chapter1:Daring to Breakdance	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 3 週	Chapter2: In the Kitchen with Hannah	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 4 週	Chapter2: In the Kitchen with Hannah	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 5 週	Chapter3:A Long-Distance Runner	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 6 週	Chapter3:A Long-Distance Runner	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 7 週	Chapter5: Antarctica	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 8 週	Chapter5: Antarctica	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
-			-	
前 学 期	第 9 週	不定詞 (1)	中学で習った不定詞の確認と整理ができる。	
	第 10 週	不定詞 (2)	to-不定詞の基本的用法を理解できる。	
	第 11 週	動名詞	動名詞の基本的用法を理解できる。	
	第 12 週	Chapter6: Galapagos	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 13 週	Chapter6: Galapagos	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 14 週	Chapter8: Mount Fuji	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検・Chapter8: Mount Fuji	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	Chapter9: Your Sense of Taste	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 17 週	Chapter9: Your Sense of Taste	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 18 週	Chapter10: Bones	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 19 週	Chapter10: Bones	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 20 週	Chapter11: Giving Blood	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 21 週	Chapter11: Giving Blood	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
	第 22 週	仮定法 (1)	仮定法過去を学んで理解できる。	
	第 23 週	仮定法 (2)	仮定法過去完了を学んで理解できる。	
	-			-
	第 24 週	仮定法 (3)	仮定法に関する様々な問題が解けるようになる。	
	第 25 週	関係代名詞 (1)	関係代名詞の基本的用法を理解できる。	
	第 26 週	関係代名詞 (2)	関係代名詞の色々な問題が解けるようになる。	
	第 27 週	Chapter13: Singing for Iraq	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。	
	第 28 週	Chapter13: Singing for Iraq	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。	
第 29 週	Chapter19: Celebrating a New Baby	できるだけ速く英文を読み、内容を理解することができる。		
第 30 週	Chapter19: Celebrating a New Baby	重要単語で英文が作れ、日本語で内容の要約ができる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検・自己評価	年間の授業と修学成果について自己点検評価する。		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
English Skills II			Global Information Technology 2 nd year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 3	1 & 2	Ian Stevenson, Sarah Forbes, Le Nhung
Course Overview			
<p>The purpose of this oral skills class is to 1) motivate students to use English; 2) develop confidence in their ability to understand real-life English; and 3) express themselves more clearly and effectively in everyday situations. The emphasis will be on interaction, through tasks designed to encourage students to negotiate meaning and share real information with the teacher and each other, using role-plays, interviews, games, videos and discussions about topics of interest to Japanese high school students. We will cover grammar, functions, vocabulary and pronunciation. Students will also increase their knowledge of other countries and other cultures.</p>			
Keywords :			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<i>Talk a Lot</i> , Book One, Second Edition, David Martin EFL Press, 2003		<i>Talk a Lot</i> , Book One, Audio CD <i>Postcards 2</i> , Video 1 B. Abbs, C. Barker, I. Freebairn Longman Press, 2003 Teacher Handouts	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> • Oral and written tests and projects (projects graded using rubrics) • In-class work: <ul style="list-style-type: none"> book work worksheets oral skills activities cooperative group-work • Daily Class Participation: <ul style="list-style-type: none"> active speaking/listening attitude effort attendance classroom language & questions 	
Tests/Projects	30		
Class work	40		
Participation	30		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come to class on time with your book, binder and pencil • Say hello and good-bye every class • Ask lots of questions • Don't worry about making mistakes, just talk • Don't be shy • Relax, have fun and smile • Do your best • Be kind and friendly to everyone in your class • Be responsible for making up missed work and finishing assignments 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Orientation & Unit 1 Getting to know each other	Understand syllabus and grading policy; Know classmates' names; Ask for help in English	
	Week 2	Unit 1: Getting to know each other	Introduce yourself; Ask for and give personal information	
	Week 3	Unit 2: Talking about interests	Give opinion on likes and dislikes; Agree and disagree	
	Week 4	Unit 2, Talking about interests	Talk about movies, music, TV, food & drink	
	Week 5	Unit 3: Talking about family	Ask and talk about family; learn names for family members	
	Week 6	Unit 3: Talking about family	Ask and talk about family; Discuss family relationships	
	Week 7	Unit 4: Talking about people	Describe what people look like	
	Week 8	Unit 4: Talking about people	Use Present Progressive (<i>be + -ing</i>) to talk about what is happening (<i>What is s/he doing? What are you/ they doing? </i>)	
	-			-
	Week 9	Unit 7: Talking about sports	Talk about sports using <i>play, go, do</i>	
	Week 10	Unit 7: Talking about sports	Talk about and describe sports and sporting ability	
	Week 11	Unit 5: Telling time	Tell time with <i>past, to, of, half past, quarter to/past, midnight, noon</i>	
	Week 12	Unit 13: Talking about the future	Talk about future events using <i>I will ... and I'm going to ...</i>	
	Week 13	Welcome Back, Unit 6: Talking about past experiences	Talk about your summer vacation; Pronunciation: reduced forms of Wh- + <i>did you</i>	
	Week 14	Unit 6: Talking about past experiences	Talk about summer activities using Past Tense (verb + <i>-ed</i>)	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Watch a movie and tell about it using the past tense		
2 nd Semester	Week 16	<i>Postcards</i> Video – Episode 1	Get to know the characters; Drama or poster project Talk about their hobbies, interests, etc., Units 1, 2, & 4 Review	
	Week 17	<i>Postcards</i> Video – Episode 2 + <i>Talk-a-Lot</i> Unit 14	Talk about school and problems	
	Week 18	<i>Postcards</i> Video – Episode 3	Talk about schedules and telling time review	
	Week 19	<i>Postcards</i> Video – Episode 4	Talk about money and part time jobs	
	Week 20	<i>Postcards</i> Video – Episode 5 & 6	Use <i>I love/I hate (yummy/gross)</i> to describe food Talking about activities we love and hate.	
	Week 21	<i>Postcards</i> Video – Episode 7 + <i>Talk-a-Lot</i> Unit 16	Talk about sickness and health	
	Week 22	<i>Postcards</i> Video – Episode 8	Conclusion	
	Week 23	<i>Postcards</i> Project	<i>Postcards</i> Final Project: Poster, Board game, Skit or Interview	
	-			-
	Week 24	American Christmas	Christmas at “The Gathering”	
	Week 25	Unit 10 Talking about Places	Use Prepositions of Location (<i>next to, at the, on the, just before, just past, etc.</i>)	
	Week 26	Unit 10 Talking about Places	Ask for and give directions using prepositions (<i>Go for 1 block and turn right/left, at the intersection, etc.</i>)	
	Week 27	Unit 9 Talking about experiences	Use the Present Perfect (<i>have + Past Participle</i>) to talk about life experiences (<i>Have you ever ... ?/I have seen ...</i>)	
	Week 28	Unit 9 Talking about experiences	Use the Present Perfect (<i>have + Past Participle</i>) to talk about life experiences with <i>once, twice, a few times</i>	
	Week 29	Unit 8 Talking about other countries	Talk about different countries (nationality, language and food)	
	Week 30	Unit 8 Talking about other countries	Complete a project (travel brochure or postcard) about another country	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Year-in-review: Talkopoly review/Jeopardy		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成 2 4 年度 学習支援計画書

科目名			クラス
計算機システム			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	坂倉忠和・井上恵介
科目概要			
<p>パソコン組み立ての体験を通じて、コンピュータの仕組みを学習する。また、簡単なネットワーク演習により、ネットワークの基礎知識、および実際の設定方法を学習する。これらの知識やスキルを基に、コンピュータやネットワークに関する不具合の対処方法について学ぶ。</p>			
キーワード： パソコン組み立て，ネットワーク構築，トラブル対処			
教科書		参考書	関連する科目・資格
特に指定しない。 講義内容に応じてスクリーン表示、板書等を行う。		「NTTコミュニケーションズ インターネット検定.com Master 2011 公式テキスト」 エヌティティ出版	科目：情報処理、情報処理 資格：NTTコミュニケーションズイ ンターネット検定.com Master、パソコン整備士
評価方法			
評価項目	%	<p>この授業は2つのグループに分かれて、それぞれのテーマに関する演習を行う。テーマは以下の2つである。</p> <p>テーマ1：パソコン組み立て、および関連するトラブル対処 テーマ2：ネットワーク構築、および関連するトラブル対処</p> <p>演習に対して、積極的に取り組むことが前提となっているため、取り組みに関する評価項目を設定しない。そのような取り組み姿勢が見られない場合には、全体の評価から減点する。</p>	
学期末試験	50		
報告書・課題	25		
活動週報	25		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>演習中に発生したトラブルは、不具合の対処を学ぶ絶好の機会です。どこに問題があるのか、何が原因であるのかを自分で調査し、考えてみて下さい。また、その原因や解決方法などが判明したら、それらの内容を記録しておきましょう。これらは、皆さんのスキル向上のための貴重な資料となるはずですが、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <p>演習時には必ず作業服を着用すること。 配布プリントを綴じるためのファイルを用意すること。また、参照しやすいように整理しておき、授業時には必ず持参すること。 授業用のノートを準備し、復習しやすいように丁寧に書くこと。 演習は必ず納得するまで取り組むこと。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	3階315室(光学演習室・坂倉), 210室(井上)		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前	第 1 週	ガイダンス	テーマ 1 の演習内容の全体像を理解する。		
	第 2 週	ハードウェアの組み立て (1)	ハードウェアを構成する部品を理解する。		
	第 3 週	ハードウェアの組み立て (2)	コンピュータの組み立てを行う。		
	第 4 週	ハードウェアの組み立て (3)	ハードウェアの組み立てを完成させる。		
	第 5 週	OS のインストール (1)	OS の仕組みを学ぶ。		
	第 6 週	OS のインストール (2)	OS の設定を行う。		
	第 7 週	OS のインストール (3)	他のソフトウェアをインストールする。		
	第 8 週	PC トラブル対処	コンピュータにおけるトラブル対処の基本を学ぶ。		
学	-		-		
	第 9 週	データのバックアップ (1)	データのバックアップの基本を学ぶ。		
	第 10 週	データのバックアップ (2)	データのバックアップを行う。		
	第 11 週	簡単なトラブル対処	アプリケーションやシステム起動の意味を知る。		
	期	第 12 週	メモリ交換、増設	メインメモリの役割を学び、その交換・増設を行う。	
		第 13 週	ハードディスクのメンテナンス	ハードディスク装置のメンテナンス方法を学ぶ。	
		第 14 週	OS の修復	OS の不具合に対処する。	
		-	前期末試験	(試験)	-
第 15 週	自己点検	学期末試験の結果などにより、達成度を把握する。			
後	第 16 週	ガイダンス	テーマ 2 の演習内容の全体像を理解する。		
	第 17 週	WEB ページの作成 (1)	HTML エディタの使い方を理解する。		
	第 18 週	FTP	ファイルをサーバ上に転送することができる。		
	第 19 週	WEB ページの作成 (2)	オリジナルの WEB ページを作成し、公開できる。		
	第 20 週	IP アドレス	ネットワークに必要な情報の概要が分かる。		
	学	第 21 週	スイッチングハブ	スイッチングハブの役割が分かる。	
		第 22 週	ネットワーク構築 (1)	IP アドレスなどの設定方法が分かる。	
		第 23 週	ネットワーク構築 (2)	ハブを用いた簡単なネットワークを構築できる。	
		-			-
	第 24 週	ネットワーク共有	ネットワーク共有機能を利用できる。		
	第 25 週	ルーター	ルーターの役割が分かる。		
	第 26 週	ネットワーク構築 (3)	ルーターの設定方法が分かる。		
	期	第 27 週	ネットワーク構築 (4)	ルーターを用いたネットワークを構築できる。	
		第 28 週	ネットワーク構築 (5)	無線 LAN 親機の設定ができる。	
第 29 週		ネットワーク実践演習	指定された環境でネットワークを構築できる。		
第 30 週		ネットワーク実践演習	ネットワークで生じたトラブルの原因を推測できる。		
-	学年末試験	(試験)	-		
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
コンピュータ演習			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	藤澤 武
科目概要			
<p>一般的なプログラミング言語の一つであるJavaによるプログラミングの基礎を習得する。授業では実際に各自のパソコンを使用してプログラミングを行う。</p>			
キーワード：Java , プログラミング			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
世界一わかりやすいJavaプログラミングの授業」, 著者 Lepton, ソシム株式会社	Javaプログラミング能力検定試験3級過去問題集, サーティファイ Javaチュートリアル, ピアソンエデュケーション	科目：コンピュータ演習 ・ 資格：JAVAプログラミング能力検定試験3級	
評価方法			
評価項目	%	定期試験は事前に告知した閾値に得点が届かなかった学生を対象に再テストを行うことがある。 演習課題は未提出の場合は0点とし、提出された課題の平均点を演習課題の成績とする。学年成績は、各学期分を平均し総合評価する。 総合評価時やむを得ない場合、準備期間をおいた後、1回のみ再テストを行う。 学習態度の評価として以下の行為1回につき2点の減点を行う。 遅刻 途中退席 指示に従わない 貸与パソコンの不携帯 授業の進行を妨害する行為 その他、授業態度として不適切と判断される態度や行為	
定期試験	40		
演習課題	60		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>講義には必ず各自の貸与パソコンを持参すること。忘れた場合は減点となります。</p> <p>JAVAを理解し簡単なプログラムが作成できることが多くの専門科目の前提となっています。非常に重要な科目ですので、わからないことは必ず質問して解決するようにしてください。</p> <p>どんなに複雑なプログラムも、つきつめれば単純な命令の組み合わせで出来ています。プログラミングは実際にたくさんのプログラムを作らないと身につけません。演習課題を通してプログラムを作りますが、自分でもいろいろと試してください。</p> <p>Java言語は実社会で使われているもっとも一般的なプログラミング言語の一つです。Javaでプログラミングができるようになれば、他の言語の習得も楽になります。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E , B		
問い合わせ・質問先	2階209室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前期	第 1 週	オリエンテーション			
	第 2 週				
	第 3 週	オペレーション演習	実行環境を構築し、サンプルプログラムが実行できるようになる		
	第 4 週				
	第 5 週	オペレーション演習	サンプルプログラムの改造作業を通してプログラムのライフサイクルを理解し、保守と運用ができるようになる		
	第 6 週				
	第 7 週				
	第 8 週				
学	-	前学期中間試験	(試験)	-	
中期	第 9 週	インプリメント演習	サンプルのソースコードを参考に基本的な変数と制御構造を用いたJAVAプログラムが作れるようになる		
	第 10 週				
	第 11 週				
	第 12 週				
	第 13 週	まとめ	変数の型と基本的な制御文について復習し理解を深める。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 14 週				
	学	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検		
後期	第 16 週	インプリメント演習	フローチャートを元にJAVAのプログラムが作れるようになる		
	第 17 週				
	第 18 週				
	第 19 週	インプリメント演習	サンプルのソースコードを参考に配列を用いたJAVAプログラムが作れるようになる		
	第 20 週				
	第 21 週				
	第 22 週				
	第 23 週				
学	-	後学期中間試験	(試験)	-	
後期	第 24 週	デザイン演習	仕様書をもとにクラス図の設計ができるようになるとともに、クラス図からJAVAのプログラムが作成できるようになる		
	第 25 週				
	第 26 週				
	第 27 週				
	第 28 週	まとめ	効率的で保守のしやすいプログラミングの方法について学習する。必要に応じてビデオ教材を用いる。		
	第 29 週				
	第 30 週				
	学	-	後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説及び自己点検			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報処理 a			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	坂倉忠和
科目概要			
<p>情報処理 ではコンピュータの活用ができることを目的として、種々のアプリケーションの使い方を学んできた。情報処理 aでは、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識の修得を目指し、コンピュータ内部でのデータ表現、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、情報セキュリティなどの基礎を学習する。これにより、ITパスポート試験取得のための土台を固める。</p>			
キーワード： ITパスポート試験，基礎理論，コンピュータシステム，技術要素			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「やさしいITパスポート講座」，高橋麻奈，ソフトバンククリエイティブ 必要に応じてプリントを配布する。</p>		<p>「キタミ式イラストIT塾 ITパスポート」，きたみりゅうじ，技術評論社</p>	<p>科目：情報処理 ，情報処理 b， 計算機システム 資格：ITパスポート</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>成績は「情報処理 a」と「情報処理 b」を総合的に評価して「情報処理 」として評価する。</p> <p>演習に対して、積極的に取り組むことが前提となっているため、取り組みに関する評価項目を設定しない。そのような取り組み姿勢が見られない場合には、全体の評価から減点する。</p>	
学期末試験	40		
中間試験	40		
宿題・演習	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>ITパスポート試験は、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を問う資格試験です。この授業では試験範囲の一部を学習します。授業の範囲外についても積極的に勉強し、ITパスポート試験の早期取得をお勧めします。なお、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <p>演習プリントなどを綴じるためのファイルを用意すること。 宿題の提出期限は必ず守ること。 演習には必ず納得するまで取り組むこと。 宿題などは完成させてから提出すること。 質問は遠慮なくすること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E，B	
問い合わせ・質問先		3階315室（光学演習室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	IT とコンピュータを学ぼう	コンピュータの種類が分かる。	
	第 2 週	ビットとバイトを学ぼう	ビットとバイトの概念が分かる。	
	第 3 週	2 進数について学ぼう	2 進数と 10 進数の基数変換の方法が分かる。	
	第 4 週	16 進数について学ぼう	16 進数と 10 進数の基数変換の方法が分かる。	
	第 5 週	2 進数や 16 進数の計算	2 進数同士や 16 進数同士の加算、減算ができる。	
	第 6 週	文字の表現を学ぼう	文字の表現方法が分かる。	
	第 7 週	マルチメディアの表現を学ぼう	マルチメディアの表現方法が分かる。	
	第 8 週	総合演習 (1)	第 1 週から第 7 週までの内容を定着させる。	
学 期	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	数値の表現方法を学ぼう	2 の補数を用いた負の数の表現方法が分かる。	
	第 10 週	ハードウェアを分類しよう	コンピュータの構成要素が分かる。	
	第 11 週	CPU の働きを学ぼう	CPU の働きの概要が分かる。	
	第 12 週	記憶装置について学ぼう	メモリの働きが分かる。	
	第 13 週		ハードディスク装置の働きが分かる。	
	第 14 週	総合演習 (2)	第 9 週から第 13 週までの内容を定着させる。	
	-	前期末試験	(試験)	-
第 15 週	自己点検	学期末試験の結果などにより、達成度を把握する。		
後 期	第 16 週	周辺機器について学ぼう	様々な周辺装置の特徴が分かる。	
	第 17 週	OS について学ぼう	OS の働きが分かる。	
	第 18 週	ネットワークについて学ぼう	クライアントとサーバの関係が分かる。	
	第 19 週	ネットワークに接続しよう	転送速度を計算することができる。	
	第 20 週	LAN を構築してみよう	LAN のトポロジと集線装置の特徴が分かる。	
	第 21 週	インターネットを学ぼう	OS I 参照モデルが分かる。	
	第 22 週		様々なプロトコルの概要が分かる。	
	第 23 週	総合演習 (3)	第 16 週から第 23 週までの内容を定着させる。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	電子メールについて学ぼう	電子メールの仕組みが分かる。	
	第 25 週	Web について学ぼう	Web の仕組みが分かる。	
	第 26 週	IP アドレスについて学ぼう	IP アドレスの役割が分かる。	
	第 27 週		グローバル IP とプライベート IP アドレスの違いが分かる。	
	第 28 週	セキュリティについて学ぼう	ネットワークにおける脅威が分かる。	
第 29 週	暗号技術を学ぼう	暗号化技術の概要が分かる。		
第 30 週	総合演習 (4)	第 24 週から第 30 週までの内容を定着させる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報処理 b			グローバル情報工学科2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	田村景明
科目概要			
<p>職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識の修得を目指し、表計算，データベースの基礎を学習する。また、職業人に必要とされる基礎スキルの修得を目指し、ビジネスソフトウェアであるExcelの基本操作を学習する。これらにより、ITパスポート試験やMOS試験の土台を固める。</p>			
キーワード：表計算，Excel，データベース			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「30時間でマスターExcel2010」，実教出版 「やさしいITパスポート講座」，高橋麻奈，ソフトバンククリエイティブ		科目：情報処理 a 資格：MOS (Excel) 試験 ITパスポート試験	
評価方法			
評価項目	%	情報処理 a と情報処理 b との総合で情報処理 の単位を評価する。 授業態度不良者は減点する。 遅刻，早退それぞれ1回につき，1点減点する。 50分授業1回欠席につき，2点減点する。	
学期中間試験2回，学期末試験2回	65		
小テスト	15		
宿題・課題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
1．前期授業では，パソコンが必要になるため，貸与パソコンを忘れずに持ってくること。 2．まずは、教科書をよく見て，自分で行ってみる。他人にたよらない。 3．提出物は期限までに提出すること。			
関連する本校の学習・教育目標	E，B		
問い合わせ・質問先	2階210号室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前 期	第 1 週	ガイダンス	Excelのセルへの入力，演算，グラフ作成，ファイル入出力等の基本操作ができる。		
	第 2 週	Excelの基礎知識・操作			
	第 3 週	ワークシートの活用（ 1 ）	編集機能を活用して，データを加工できる。		
	第 4 週				
	第 5 週	ワークシートの活用（ 2 ）	絶対参照，関数等を利用できる。		
	第 6 週				
	第 7 週				
	第 8 週	グラフ（ 1 ）	基本的なグラフを作成できる。		
学	-	前学期中間試験	（試験）	-	
後 期	第 9 週	グラフ（ 2 ）	様々なグラフを作成できる。		
	第 10 週				
	第 11 週	データベース	テーブルの基本操作ができる。		
	第 12 週				
	第 13 週	Excelの応用	Excelの応用技術を操作できる。		
	第 14 週	まとめ	M O S（ Excel ）スペシャリスト試験に合格できる。		
	学	-	前学期定期試験	（試験）	-
	第 15 週	自己点検	答案の確認，自己点検		
後 期	第 16 週	表計算ソフト	表計算のしくみを理解できる。 I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 17 週				
	第 18 週	データベースの仕組み	データベースのしくみを理解できる。 I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 19 週				
	第 20 週	演算 データの抽出	データベースの演算，データの抽出方法を理解できる。 I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 21 週				
	第 22 週				
	第 23 週	演習，まとめ	表計算，データベースについてまとめることができる。		
	学	-	後学期中間試験	（試験）	-
	第 24 週	高度なデータの抽出	I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 25 週	S Q L 言語	S Q L 言語のしくみを理解できる。 I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 26 週				
	第 27 週	D B M S	D B M S のしくみを理解できる。 I T パスポートの演習問題を理解できる。		
	第 28 週				
第 29 週	A C C E S S	実際のデータベースACCESSの簡単な操作ができる。			
第 30 週	演習，まとめ	データベースについてまとめる。			
学	-	後学期定期試験	（試験）	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案の確認，自己点検			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
創造実験			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	館 宜伸, 井上恵介, 松下臣仁, Robert Songer
科目概要			
<p>身につけた知識や技術を実社会で応用できるようにする必要がある。本実験では、次の2つのテーマを通じて、問題発見能力や問題解決能力の養成を目指す。</p> <p>テーマ1：「Java言語によるLEGO制御実験」では、LEGO Mindstormsの制御を通して、構造化プログラミングを身につける。</p> <p>テーマ2：「ServletによるWebページ制御実験」では、Webページの制作を通して、HTMLと制御プログラミングを身につける。</p>			
キーワード： 構造化プログラミング, Java言語, Eclipse, HTML, Webページ, クライアント・サーバ			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「これからはじめる すぐにわかる サブレット&JSP入門」, 川崎克巳, 秀和システム	「Java言語プログラミングレッスン上」, 結城浩, SoftBank Creative	科目：創造実験, コンピュータ演習, ビジネスシステム 資格：Javaプログラミング能力認定試験	
評価方法			
評価項目	%	成績は、『テーマ1』と『テーマ2』を合わせて『創造実験』として評価する。各テーマに入る前のプログラミング言語の基礎に関しては、課題のみの評価を行う。 なお、欠課1回(50分)につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な教科書やノートパソコンなどの忘れ物も1点減点とする。	
課題	50		
発表・競技	20		
報告書	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>インストール・作品制作などの演習や実験中に発生したトラブルの対処は、良い経験になります。ただし、なぜトラブルが発生したのか、何が原因だったのか？などを自分で調査・発見にチャレンジしてください。また、原因やその解消方法などが判明したら、発生内容とともに記録しておきましょう。分析せずに適当に解決しただけでは次回同じ現象が発生しても解消できなくなります。</p> <p>受講上の注意を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアの使い方など教科書に+ の内容を記録できるようにノートを用意すること 2. 課題の提出期限は必ず守ること 3. 演習・課題には納得するまで取り組むこと 4. 遠慮なく質問すること 5. 無断で席や教室から離れないこと 			
関連する本校の学習・教育目標	B, E		
問い合わせ・質問先	2階207室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前 学 期	第 1 週	ガイダンス・Java言語とは	授業の目的とJava言語の成り立ちや仕組みを理解できる		
	第 2 週	データ型・演算子	基本型と参照型の違いや各種演算子がわかる		
	第 3 週	条件分岐	条件分岐を使ったプログラムを作成できる		
	第 4 週	繰り返し (for)	for文を使ったプログラムを作成できる		
	第 5 週	繰り返し (while)	while文を使ったプログラムを作成できる		
	第 6 週	繰り返し	繰り返すプログラムを作成できる		
	第 7 週	メソッド	必要な範囲のメソッドを作成し、利用できる		
	第 8 週	配列・オブジェクト生成	配列とオブジェクトの生成について理解できる		
	-		-		
後 学 期	第 9 週	ガイダンス・部品確認	本テーマの目的を理解でき、部品確認ができる		
	第 10 週	ロボット組立とロボットの移動	ロボットを組み立てて、移動するプログラムを作成できる		
	第 11 週	繰り返し	動作を繰り返すプログラムを作成できる		
	第 12 週	メソッド	メソッドを組み込んだプログラムを作成できる		
	第 13 週	タッチセンサを用いた条件判定	タッチセンサを用いた制御プログラムを作成できる		
	第 14 週	液晶ディスプレイへの表示	センサの値を画面に表示するプログラムを作成できる		
		-		-	
	第 15 週	超音波センサを用いた条件判定	超音波センサを用いた制御プログラムを作成できる		
後 学 期	第 16 週	光センサを用いた条件判定	光センサを用いてライントレースのプログラムを作成できる		
	第 17 週	複雑なプログラム作成	競技用のプログラムを作成できる		
	第 18 週				
	第 19 週	競技	競技参加		
	第 20 週	ガイダンス・インストール	本授業の目的を理解し、Javaの開発環境をインストールできる		
	第 21 週	Webページ概要	Webページに関するサーバ・クライアントの役割を理解できる		
	第 22 週	静的Webページ	基本的なHTMLタグを使用したWebページを作成できる		
	第 23 週				
		-		-	
	第 24 週	日本語の文字コードの扱い	文字化けを起こさないようなWebページを作成できる		
	第 25 週	動的Webページ	Servletを用いた動的なWebページを作成できる		
	第 26 週				
	後 学 期	第 27 週	Webページ制作	これまでに学んだ知識を基にWebページを制作できる	
		第 28 週			
第 29 週		発表準備	自分が作成したWebページを説明できる		
第 30 週		発表	自分が作成したWebページに関する発表ができる		
	-		-		
第 31 週	自己点検自己評価	自己点検			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
外国事情			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	2	前・後	吉本恵律子
科目概要			
<p>世界の主要な国、都市について英語で書かれた資料をもとに、文化、人々の暮らし、習慣などをさぐり、日本以外の国に興味を持つことを目的とする。自分が関心を持っている国、都市について情報の入手が可能な手段を通して調査した上でそれらをまとめ、プレゼンテーションを行うことにより、クラス全員で、知識を共有する。</p>			
キーワード： 国、都市、文化、プレゼンテーション			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「BIG CITIES OF THE WORLD[世界の大都市紀行]」、石黒昭博・フィリップ・ウィリアムズ、南雲堂			科目：世界事情Ⅰ，Ⅱ 資格：
評価方法			
評価項目	%	プレゼンテーションの評価 (1)：プレゼンテーションの仕方、事前レポート。 (2)：発表を聞いてのレポート。	
期末試験	60		
プレゼンテーション	30		
授業態度・出席	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材にある世界主要都市の地理、風土、歴史的背景、特徴等をより深く知る努力をする。 2. プレゼンテーションは1人又は2人で行い、何をテーマにするか明確にする。 3. プレゼンテーションは5分程度とし、発表形式は自由。発表前にプレゼンテーションに関するレポートを提出。 			
関連する本校の学習・教育目標		C	
問い合わせ・質問先		1階教員室(103室) 不在時は1階教員室・大原先生まで	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	ロンドン	<ul style="list-style-type: none"> ・都市のイメージを捕える。 ・プレゼンテーションのための準備（興味のある国・都市について調査・研究を進める） 	
	第 2 週	ロンドン		
	第 3 週	パリ		
	第 4 週	パリ		
	第 5 週	ローマ		
	第 6 週	ローマ		
	第 7 週	フランクフルト		
	第 8 週	フランクフルト		都市のイメージを捕える / プレゼンテーション
期	-			-
	第 9 週	アムステルダム	<ul style="list-style-type: none"> ・都市のイメージを捕える ・プレゼンテーション 	
	第 10 週	アムステルダム		
	第 11 週	マドリッド		
	第 12 週	マドリッド		
	第 13 週	ニューヨーク		
	第 14 週	前期総復習		
	-	前期末試験		(試験)
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後 学	第 16 週	ニューヨーク	<ul style="list-style-type: none"> ・都市のイメージを捕える ・プレゼンテーション 	
	第 17 週	ニューヨーク		
	第 18 週	ニューオリンズ		
	第 19 週	ニューオリンズ		
	第 20 週	メルボルン		
	第 21 週	メルボルン		
	第 22 週	ニューデリー		
	第 23 週	ニューデリー		
期	-			-
	第 24 週	バンコク	<ul style="list-style-type: none"> ・都市のイメージを捕える ・プレゼンテーション 	
	第 25 週	バンコク		
	第 26 週	上海		
	第 27 週	上海		
	第 28 週	ソウル		
	第 29 週	ソウル		
	第 30 週	後期総復習		後期学習範囲の理解。
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
電気電子工学			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	表 義憲
科目概要			
<p>コンピュータのハードウェアの基本として、電気電子工学技術の基礎を学ぶ。電気工学の基礎としては、電気回路(直流)の電圧・電流・抵抗の計算、電力と熱エネルギー、正弦波交流と周波数・位相を学習する。また、モーターやダイオード、トランジスタ、LEDなど電気・電子部品についても学ぶ。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「精選電気基礎 新訂版」実教出版 「電子技術」実教出版	「電気基礎」実教出版	科目：電気電子工学、システム制御 資格：第二種電気工事士、基本情報技術者	
評価方法			
評価項目	%	各自がノートを用意し、授業中の筆記を行うと共に、理解の程度を毎回の演習や小テストで確認する。また、課題をノートに解答する。ノートは授業終了時に毎回提出する。宿題は必ず提出し、演習問題や小テストの問題を基本とした定期試験、普段の学習態度や出欠状況を総合して評価する	
定期試験	30		
中間試験	30		
演習・小テスト	20		
課題・態度	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>現象を十分理解した法則などは定着し忘れません。授業中は各自がノートをとれば講義に集中できる。宿題や課題、紙上の実験といわれる演習問題、小テストをノートに解答して、毎回、授業終了時に提出する。受講の心得は以下である。電気的な現象を十分理解する。現象の数学的導入を理解し、数式の意味を理解する。小テストや課題などにより演習問題を十分行い理解を深める。疑問は授業中に積極的に質問する。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	D, E		
問い合わせ・質問先	2階31-218室(非常勤講師室) 不在時は1階教員室・宮野先生まで		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前	第 1 週	電気回路	電気回路とは何か理解できる		
	第 2 週	電流と電圧	電流や電圧、抵抗について理解する		
	第 3 週	オームの法則	オームの法則を利用して計算できる		
	第 4 週	電圧降下	抵抗の電圧降下を理解できる		
	第 5 週	直列接続	抵抗の直列接続について理解できる		
	第 6 週	並列接続	抵抗の並列接続について理解できる		
	第 7 週	直並列接続	抵抗の直並列接続について理解できる		
	第 8 週	まとめと演習	1 ~ 7 週で学習した範囲のまとめと演習ができる		
学	-	前期中間試験	(試験) 学習範囲の試験を行う	-	
	第 9 週	抵抗率	抵抗の抵抗率や導電率が理解できる		
	第 10 週	抵抗の温度係数	温度上昇による抵抗の変化が理解できる		
	第 11 週	電力	電圧・電流による仕事や電力を理解できる		
	期	第 12 週	電力量	電圧・電流による仕事量・エネルギー量が理解できる	
		第 13 週	ジュールの法則	電流によって発生する熱量が理解できる	
		第 14 週	まとめと演習	前期で学習した範囲のまとめと演習ができる	
		-	前期末試験	(試験) 学習範囲の試験を行う	-
	第 15 週	自己点検	前期で学習した範囲の自己点検を行う		
	後	第 16 週	フレミングの左手の法則	フレミングの左手の法則が理解できる	
第 17 週		コイルに働くトルク	コイルに働く回転力を理解できる		
第 18 週		電動機の原理	モーターの原理を理解できる		
第 19 週		正弦波交流	正弦波交流の発生を理解できる		
学		第 20 週	周期と周波数	正弦波交流の周期と周波数を理解できる	
		第 21 週	角周波数	正弦波交流の角周波数を理解できる	
		第 22 週	位相と位相差	正弦波交流の位相と位相差を理解できる	
		第 23 週	まとめと演習	16 ~ 22 週で学習した範囲のまとめと演習ができる	
-		後期中間試験	(試験) 学習範囲の試験をする	-	
期		第 24 週	原子と電子	価電子・自由電子・正孔が理解できる	
		第 25 週	半導体	N形とP形半導体を理解できる	
		第 26 週	ダイオード	ダイオードの動作原理を理解できる	
		第 27 週	トランジスタ	トランジスタの動作原理を理解できる	
		第 28 週	電界効果トランジスタ	FETの動作原理を理解できる	
	第 29 週	半導体素子	LEDやホトトランジスタの動作原理を理解できる		
	第 30 週	まとめと演習	後期で学習した範囲のまとめと演習ができる		
	-	学年末試験	(試験) 学習範囲の試験をする	-	
第 31 週	自己点検自己評価	自己点検自己評価をする			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
日本文化			グローバル情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	向井 守
科目概要			
<p>私達の母国である日本の文化、風習、社会、人々そして世界の人々から見られている日本の状況について学習する。私達日本人が受け継いできた美しい文化や優れた社会習慣などを世界の人々に紹介する意味とその方法についても学習する。そのためにも代表的な日本文化を英語で表現する練習を行う。日本を理解することで日本人としての誇りを身に付け、さらには日本人としてのアイデンティティーをまず高めることを目的としている。</p>			
<p>キーワード： 日本の文化、風習、社会、日本人としての誇り</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「Your Japan, My Japan」, Chris Wilson, NAN'UN-DO			科目：外国事情 資格：
評価方法			
評価項目	%	<p>期末試験では、授業で学んだこと、クラスメートと討議したことを再確認するためのものであるから重点を置く。日頃の授業で様々な日本に関する事柄を話し合う際に活発に意見を述べる態度も評価対象とする。後期最後のプレゼンテーションでは、内容、態度、発表技術、そして準備なども総合的に評価し、最終的な成績の重要な位置を占めることになる。</p>	
期末試験	40		
ディスカッション	20		
プレゼンテーション	30		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 日頃、新聞などを読み日本でおこった面白い事件や出来事、祭りなどの記事をスクラップしておくとうプレゼンテーション時の参考になる。 たまに英字新聞などに目を通すと、日本独特のものの英語表現に出会うことがあるので、英字新聞(学生用)購読をすすめる。 日本語でかまわないから、日本独特のもの、例えばお年玉、お歳暮、お盆などを自分の言葉でノートなどに書きとめておくことをすすめる。 			
関連する本校の学習・教育目標		C	
問い合わせ・質問先		1階103室(教員室)	

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前	第 1 週	日本と文化	日本について客観的に意見を交わし、その国柄と文化を考える。	
	第 2 週	日英鉄道事情	日本と英国の電車事情について意見が述べるができる。	
	第 3 週	安全な国 日本	日本の安全性が本物かどうかを学び意見を述べるができる。	
	第 4 週	景観と環境問題	街の景観や環境について自分の意見を述べるができる。	
	第 5 週	シートベルト	シートベルトの重要性を学び、意見を述べるができる。	
	第 6 週	自動販売機	自動販売機について学び、意見を述べるができる。	
	第 7 週	日本の気候	日本の気候と生活を学び、意見を述べるができる。	
	第 8 週	騒音事情	騒音と日本人の反応について学び、意見を述べるができる。	
学	-			-
	第 9 週	世界一の日本	世界一の日本に関する発表会。日本の優秀さを再発見する。	
	第 1 0 週	恥ずかしい日本	日本の恥ずかしい部分に関する発表会。改善点を話し合う。	
	第 1 1 週	タクシー事情	日本のタクシー事情について学び、意見を述べるができる。	
	第 1 2 週	休息	休みをとらない日本人を学び、意見を述べるができる。	
	第 1 3 週	食事情	変化する食生活の問題点を学び、意見を述べるができる。	
	第 1 4 週	ゴミ捨て問題	ゴミの捨て方に関する問題点を学び意見を述べるができる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
後	第 1 5 週	自己点検・血液型と性格	答案返却・血液型の各国事情を学び意見を述べるができる。	
	第 1 6 週	日本人の精神	わび・さび等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 1 7 週	日本人の精神	本音と建前等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 1 8 週	日本の象徴	天皇、国歌等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 1 9 週	日本の芸能	歌舞伎、能等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 0 週	日本の芸能	落語、狂言等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 1 週	芸術	浮世絵、俳句等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 2 週	芸術	華道、茶道等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 3 週	食べもの	寿司、天ぷら等について日本語・英語で伝えることができる。	
	-			-
	第 2 4 週	社会生活	中元、歳暮等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 5 週	社会生活	町内会、銭湯等について、日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 6 週	娯楽	パチンコ、漫画等について日本語・英語で伝えることができる。	
	第 2 7 週	プレゼンテーション技術	プレゼンテーション技術について学ぶ。	
	第 2 8 週	プレゼンテーションリハーサル	プレゼンテーションの予行を行い、最終チェックを行う。	
第 2 9 週	プレゼンテーション	4グループによる発表、質疑応答、コメント		
第 3 0 週	プレゼンテーション	4グループによる発表、質疑応答、コメント		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 3 1 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
国語			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	山崎 梓
科目概要			
<p>現代文では作品の分析・読解方法を習得し、多角的観点から表現されている思考・感情を理解する。また目的に応じて効果的な形式方法で自己の考えを客観的・論理的に表現する。古典文藝では、近世文藝を読解することで、当時の文化や歴史に対する理解を深め、日本文化の深層部を理解することを目的とする。</p>			
<p>キーワード： 思考力 読解力 記述力 分析批評</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「新精選現代文」中島国彦 明治書院 「新精選古典」久保田淳 明治書院 「常用国語便覧」浜島書店		「書き込み式漢字ベーシック」 明治書院	科目：国語、日本語スキルズ 資格：日本語検定
評価方法			
評価項目	%	成績は定期試験・小テスト・提出物、漢字小テスト等の課題・学習態度・出席状況を総合的に判断して評価する。課題は内容、提出状況が悪い場合は減点とする。出席不良や授業態度が不良の場合も減点対象とし、評価する。学年末の成績は前期と後期の平均とする。	
期末試験	50		
中間試験	30		
課題	10		
出席・態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートは板書したものだけでなく、口頭説明も適宜書くようにすること。 ・ 課題は必ず実行すること。 ・ 語彙を増やして表現力を高めるため、辞書はこまめに引くこと。 ・ 出席や態度も評価に含むので、授業へ積極的に参加することを期待する。 ・ さまざまな書物に触れるよう心がけること。 			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階104室(教員室)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前期	第 1 週	随想「孤独の必然性」	ガイダンス / 作品の構成と展開を理解できる。	
	第 2 週	随想「孤独の必然性」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 3 週	随想「孤独の必然性」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 4 週	随想「孤独の必然性」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 5 週	随想「孤独の必然性」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 6 週	近代文学概説	近代文学の概略・作者について理解できる。	
	第 7 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 8 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 10 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 11 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 12 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 13 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
	第 14 週	小説「舞姫」	文語体の文章を正確に読解し、正確に分析できる。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検		
後期	第 16 週	近世文学概説	近世文学の特徴や出版について理解できる。	
	第 17 週	「雨月物語」	雨月物語の作者、作品の背景、特徴について理解できる。	
	第 18 週	「雨月物語」	翻案について理解できる。	
	第 19 週	「雨月物語」	菊花の約前半を正確に読解できる。	
	第 20 週	「雨月物語」	菊花の約前半を正確に読解できる。	
	第 21 週	「雨月物語」	菊花の約前半を正確に読解できる。	
	第 22 週	「雨月物語」	菊花の約後半を正確に読解できる。	
	第 23 週	「雨月物語」	菊花の約後半を正確に読解できる。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	「雨月物語」	「雨月物語」他篇を鑑賞し、内容が理解できる。	
	第 25 週	「雨月物語」	「雨月物語」他篇を鑑賞し、内容が理解できる。	
	第 26 週	評論「他者の声 実在の声」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 27 週	評論「他者の声 実在の声」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 28 週	評論「他者の声 実在の声」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 29 週	評論「他者の声 実在の声」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
	第 30 週	評論「他者の声 実在の声」	構成、展開の特色を把握し、正確に分析できる。	
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と就学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
歴史			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	宮野純光
科目概要			
<p>我々が生活している世界は、将来どのような方向に進んでいくのか。このことを考え理解するために必要不可欠な、世界の歴史と文化についての理解を深めることを目的とする。この授業ではヨーロッパと東アジアを題材とする。ヨーロッパではオリエント・ローマの繁栄からヨーロッパ世界の成立について、東アジアでは中国を中心とする東アジア世界の変遷について学習する。</p>			
キーワード： 共和政，ローマ帝国，秦漢帝国，三国時代，ビザンツ帝国，カトリック，十字軍			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「世界史B」，尾形勇ほか，東京書籍 「明解世界史図説エスカリエ 四訂版」，帝国書院編集部，帝国書院		「興亡の世界史04 地中海世界とローマ帝国」，木村凌二，講談社 「中国の歴史04 三国志の世界」，金文京，講談社	科目：歴史 資格：歴史能力検定1級世界史，歴史能力検定2級世界史
評価方法			
評価項目	%	期末試験、中間試験によって到達度を量るが、成績は課題、学習態度、出席状況を加味し、総合的に評価する。学習態度、出席状況は不良のものについて減点していく。年に数回のノート提出を課し、学習態度の一部として評価する。学年末の評価は各学期の成績合計の平均とする。	
期末試験	40		
中間試験	30		
課題	10		
学習態度	15		
出席状況	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
課題は必ず提出すること。 ノートはしっかりととり、自己の学習に利用すること。 わからないこと、興味を持ったことがあれば（授業中・授業外とも）気軽に質問すること。 少しでも興味をもったところからヨーロッパ、中国の歴史・文化を学習すること。 オフィスアワーは特に設けない。ただし、放課後は部活等に行くことも多いので、事前に予約すると確実である。			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階104室（教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	ローマ共和政	ローマ文明の成立について理解できる。	
	第 2 週	地中海世界の統一	ローマの共和政の変遷を理解できる。	
	第 3 週	皇帝権力の成立	ローマ帝国の成立について理解できる。	
	第 4 週	ローマの平和	五賢帝時代のローマについて理解できる。	
	第 5 週	ローマ皇帝の変貌	地中海世界の解体について理解できる。	
	第 6 週	ゲルマンの大移動と帝国分裂	ゲルマンの大移動による影響を理解できる。	
	第 7 週	周の封建制	周王朝の興亡と封建制の仕組みを理解できる。	
	第 8 週	春秋戦国時代	春秋・戦国時代の特色を理解する。	
学 期	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	秦帝国の成立	秦の中国統一過程を理解できる。	
	第 10 週			
	第 11 週	始皇帝の政治	始皇帝の政策を理解できる。	
	第 12 週			
	第 13 週	秦の滅亡	秦滅亡の背景を理解できる。	
	第 14 週	楚漢の抗争	項羽・劉邦の争いの流れを理解できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
第 15 週	自己点検 漢帝国の成立	答案返却・解説および自己点検。 漢の政治の仕組みを理解できる。		
後 期	第 16 週	武帝の政治	武帝による政策を理解できる。	
	第 17 週	前漢の滅亡と新の建国	漢滅亡の背景を理解できる。	
	第 18 週	新の滅亡と後漢の成立	新滅亡と後漢成立の流れを理解できる。	
	第 19 週	後漢の衰退と三国時代	三国時代とは何か理解できる。	
	第 20 週	三国志の世界	三国志の英雄の活躍を正しく理解することができる。	
	第 21 週			
	第 22 週	三国時代の終焉と西晋の成立	西晋成立の流れを理解できる。	
	第 23 週	晋の盛衰と分裂時代	西晋の衰退の流れを理解できる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	ビザンツ帝国	ビザンツ帝国の興隆について理解できる。	
	第 25 週	ビザンツの社会	ビザンツ帝国の社会・文化について理解できる。	
	第 26 週	ビザンツ帝国の変容	ビザンツ帝国の変容について理解できる。	
	第 27 週	カトリック世界の発展	キリスト教分裂の流れと教皇の勢力拡大過程を理解できる。	
第 28 週				
第 29 週	十字軍とその影響	十字軍派遣の経緯とその影響を理解できる。		
第 30 週	中世ヨーロッパ文化	中世ヨーロッパ文化の形成過程を理解できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。	-	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
社会科学			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	野木邦夫
科目概要			
<p>我々の日常生活は、国内外における政治や経済の影響を受けていることは言うまでもない。我々が現代社会の一員として社会の中で生きていくには、政治・経済に関する共通の認識を持つことが必要不可欠なのである。本科目では現代社会で生きていくために必要となる基本的な政治・経済の知識の習得を目的とする。前期には政治分野、後期には経済分野を学習する。</p>			
<p>キーワード： 日本国憲法，日本の政治制度，選挙制度，資本主義，市場経済，社会保障</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「政治・経済」，佐々木毅ほか，東京書籍 「政治・経済資料2012」，東京法令出版</p>		<p>随時、参考文献を紹介する</p>	<p>科目：社会科学 資格：</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>中間試験、期末試験によって到達度を量るが、成績は学習態度、出席状況を加味し、総合的に評価する。学習態度、出席状況は不良のものについて減点していく。年に数回のノート提出を課し、学習態度の一部として評価する。学年末の評価は各学期の成績合計の平均とする。</p>	
中間試験	40		
期末試験	40		
学習態度	15		
出席状況	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>ノートはしっかりととり、自己の学習に利用すること。 わからないこと、興味を持ったことがあれば（授業中・授業外とも）気軽に質問すること。 身近なテーマであるから、少しでも興味をもって学習すること。 日々、新聞やニュースに目を向けるように心がけること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		教務室（宮野）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	民主政治の特質	民主政治の特質について理解できる。	
	第 2 週	法の支配と人権の確立	法の支配の意味と人権の変遷が理解できる。	
	第 3 週	世界の主な政治体制	世界の主な国の政治体制を理解できる。	
	第 4 週			
	第 5 週	日本国憲法の制定と基本原理	大日本帝国憲法、日本国憲法の基本原理を理解できる。	
	第 6 週			
	第 7 週	基本的人権の保障	基本的人権の内容を理解できる。 新しい人権の内容を理解できる。	
	第 8 週			
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	平和主義	平和主義の意味を理解できる。	
	第 10 週	国会	国会の仕組みを理解できる。	
	第 11 週			
	第 12 週	内閣	内閣の仕組みを理解できる。	
	第 13 週	裁判所	裁判所の仕組みを理解できる。	
	第 14 週			
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検 選挙と政治意識	答案返却・解説および自己点検。 選挙制度を理解し、問題点を考えることができる。	
後 学 期	第 16 週	資本主義体制の成立と発展	資本主義の成立過程を理解できる。	
	第 17 週			
	第 18 週	資本主義の変容	資本主義の発展・変容について理解できる。	
	第 19 週	現代の資本主義	現代社会における資本主義のあり方を理解できる。	
	第 20 週	経済主体と経済の循環	経済の循環における家計・企業の役割を理解できる。	
	第 21 週	市場経済の機能と限界	市場経済の仕組みを理解できる。	
	第 22 週			
	第 23 週	国民所得と経済成長 資金の循環と金融	国民の経済基準について理解できる。 金融市場・日本銀行について理解できる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	資金の循環と金融	金融政策について理解できる。	
	第 25 週	租税と財政	租税と公債について理解できる。	
	第 26 週		財政政策の目的について理解できる。	
	第 27 週	社会保障と社会福祉	社会保障制度の発展と日本の社会保障制度について理解できる。	
	第 28 週			
第 29 週	日本経済の発展	戦後の日本経済復興の流れを理解することができる。		
第 30 週				
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。	-	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
線形代数			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	宮田一郎
科目概要			
<p>行列についての基本的な性質とその加法・減法・実数倍，さらに行列の乗法とその性質や逆行列について学習し，演習を通して行列の演算に習熟するものとする。また行列の応用として，行列を用いた連立方程式の解法や1次変換についても学習する。これに加えて，放物線・楕円・双曲線などの2次曲線，媒介変数表示と極座標，さらに基本的な確率分布と統計処理についても学習し，1年次と2年次において扱われなかったが，工学の分野において必要とされる内容を習得することを目的とする。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「数学C」、飯高茂 / 松本幸夫 編、東京書籍	「改訂版ニューアシスト 新編数学 + C」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：線形代数、微分積分 資格：	
評価方法			
評価項目	%	定期試験： 授業における講義内容の理解と演習の成果を総合的に判断することを主とする。定期試験の平均の7割を評価に加える。 演習・課題： 毎時限の授業用プリントの内容によって評価を行う。また、長期の休みには宿題を出し、その内容によって評価を行う。 授業態度： 授業態度や出席状況が不良の者については評価からの減点を行う。また、定期試験後にノートを提出してもらい、その内容を評価する。	
試験	70		
演習・課題	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>授業は講義と問題演習を連動して行う。問題演習では、教科書の問題を中心とした授業用プリントを毎時限行い、授業終了後提出するものとする。</p> <p>この科目を受講する上で、以下のことを守ること。 ノートは大学ノートを使用すること。ルーズリーフでのノート提出は認めない。 授業用プリントを整理し、試験の際有意義に活用するために、フラットファイルを準備すること。 質問は何時でも遠慮なくすること。よくわからないことがあったら、必ず質問して、そのままにしないよう心がけること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	D		
問い合わせ・質問先	2階215室（数理教員室）		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	行列とその成分	行列の定義とその成分について理解できる。	
	第 2 週	行列の加法・減法	行列の加法・減法を理解し、その計算ができる。	
	第 3 週	行列の実数倍	行列の実数倍を理解し、その計算ができる。	
	第 4 週	行列の乗法	行列の乗法を理解し、その計算ができる。	
	第 5 週	行列の乗法の性質	結合法則・分配法則、単位行列・零行列・零因子を理解できる。	
	第 6 週		$AB = BA$ とケーリー・ハミルトンの定理を理解できる。	
	第 7 週	逆行列	2次正方行列の逆行列を求めることができる。	
	第 8 週		2次正方行列の逆行列を利用して、さまざまな計算ができる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	連立1次方程式と行列	逆行列を用いて、連立方程式を解くことができる。	
	第 10 週		逆行列を用いて、連立方程式の解の存在判定ができる。	
	第 11 週	点の移動と1次変換	行列の表す1次変換について理解し、点の移動が計算できる。	
	第 12 週		逆変換・合成変換について理解できる。	
	第 13 週	原点のまわりの回転	原点のまわりの回転を、行列を用いて表すことができる。	
	第 14 週		行列を用いて、原点のまわりの回転移動が計算できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	放物線	放物線の定義を理解し、そのグラフを書くことができる。	
	第 17 週	楕円	楕円の定義を理解し、そのグラフを書くことができる。	
	第 18 週	双曲線	双曲線の定義を理解し、そのグラフを書くことができる。	
	第 19 週	2次曲線と直線	2次曲線と直線の位置関係を理解し、その交点が計算できる。	
	第 20 週	2次曲線と平行移動・離心率	2次曲線の平行移動と離心率を理解し、その形を把握できる。	
	第 21 週	媒介変数表示	媒介変数表示を理解し、曲線を媒介変数で表示できる。	
	第 22 週	極座標と極方程式	極座標を理解し、曲線を極方程式で表示できる。	
	第 23 週	いろいろな曲線	媒介変数や極方程式で表されたさまざまな曲線を理解できる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	条件つき確率	条件つき確率における加法定理を理解し、その計算ができる。	
	第 25 週		条件つき確率における乗法定理を理解し、その計算ができる。	
	第 26 週	事象の独立と従属	事象の独立と従属について理解できる。	
	第 27 週	確率と確率分布	確率と確率分布について理解し、その計算ができる。	
	第 28 週	確率変数の平均と分散	確率変数の平均について理解し、その計算ができる。	
第 29 週	確率変数の分散について理解し、その計算ができる。			
第 30 週	二項分布	二項分布について理解できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
微分積分			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 4	前・後	木原 均
科目概要			
<p>線形代数 で学んだ数列をもとに、極限の概念に対する理解を深め、微分積分 で学んだ整式の微分と積分を、三角関数・対数関数・指数関数の微分と積分へと発展させる。演習を通してこの新たな微分と積分の内容を学習し、その計算に習熟するものとする。さらに微分の応用として関数の増減と極大・極小、積分の応用として図形の面積・体積の計算方法についても学習する。この微分積分の概念を用いることで、工学の分野において扱われる現象を解析し、理解できるようになることを目的とする。</p>			
キーワード： 微分法、曲線の凹凸、不定積分、定積分			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「数学」、飯高茂/松本幸夫編、東京書籍		「改訂版ニューアシスト新編数学 + C」、東京書籍編集部編、東京書籍	科目：微分積分 資格：
評価方法			
評価項目	%	定期試験： 授業における講義内容の理解と演習の成果を総合的に判断することを主とする。定期試験の平均の65%を評価に加える。 課題： 毎時限の授業用プリントの内容によって評価を行う。また、長期の休みには宿題を出し、その内容によって評価を行う。 授業態度： 授業態度や出席状況が不良の者については評価からの減点を行う。	
定期試験	65		
小テスト 課題 授業態度	35		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>授業は講義と問題演習を連動して行います。問題演習では、教科書の問題を中心とした授業用プリントを毎時限行い、授業終了後提出してもらいます。</p> <p>この科目を受講する上で、以下のことを守ってください。 ノートは大学ノートを使用すること。ルーズリーフは極力使用しないでください。 授業用プリントを整理し、試験の際有意義に活用するために、フラットファイルを準備すること。 質問は何時でも遠慮なくしてください。よくわからないことがあったら、必ず質問して、そのままにしないよう心がけてください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	関数の極限	極限值を求めることができる	
	第 2 週	三角関数と極限	三角関数の極限值を求めることができる。	
	第 3 週	積・商の微分法	積や商として表される関数の導関数を求めることができる。	
	第 4 週	合成関数の微分法	合成関数の導関数を求めることができる。	
	第 5 週	三角関数の導関数	三角関数の導関数を求めることができる。	
	第 6 週	対数関数の導関数	対数関数の導関数を求めることができる。	
	第 7 週	指数関数の導関数	指数関数の導関数を求めることができる。	
	第 8 週	高次導関数	高次導関数を求めることができる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	接線の方程式	接線や法線の方程式を求めることができる。	
	第 10 週	関数の極大・極小	関数の極値を求めることができる。	
	第 11 週	第2次導関数とグラフ	第2次導関数を用いて、関数の凹凸や変曲点を求めることができる。	
	第 12 週			
	第 13 週	最大・最小	微分法を用いて、最大値や最小値を求めることができる。	
	第 14 週	問題演習	前学期の内容に習熟する。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	方程式、不等式への応用	微分法を方程式や不等式の問題に応用することができる。	
	第 17 週	曲線の媒介変数表示	媒介変数で表された関数を微分することができる。	
	第 18 週	速度・加速度	微分法を用いて、速度や加速度を求めることができる。	
	第 19 週	不定積分	三角関数や指数・対数関数の不定積分を求めることができる。	
	第 20 週	置換積分法	置換積分法を使って、関数の不定積分を求めることができる。	
	第 21 週			
	第 22 週	部分積分法	部分積分法を使って、関数の不定積分を求めることができる。	
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	いろいろな関数の不定積分	分数関数や三角関数の不定積分を求めることができる。	
	第 25 週			
	第 26 週	定積分	様々な関数の定積分の値を求めることができる。	
	第 27 週	定積分の置換積分法	置換積分法を使って、定積分の値を求めることができる。	
	第 28 週	定積分の部分積分法	部分積分法を使って、定積分の値を求めることができる。	
	第 29 週	面積	図形の面積を求めることができる。	
	第 30 週	体積	立体の体積を求めることができる。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
物理・化学			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	原 孝美
科目概要			
<p>物理・化学、で学習したことを踏襲し更なる新しい分野に挑戦する。 また、物理と化学の授業を交互に実施し、可能な限り自分の身近にある物質や起こる現象を参考にして、物理の法則や化学的現象を理解する。</p>			
<p>キーワード：酸・塩基、酸化還元反応、電気分解、ドップラー効果、音波の性質、光とレンズ</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「高校化学」, 井口洋夫ほか, 実教出版 「物理」, 三浦 登他, 東京書籍 「化学 基礎ノート」数研出版編集部, 数研出版			科目：物理化学 資格：ガス溶接
評価方法			
評価項目	%	<p>前期・後期の成績を平均して学年評価とする。 小テストと課題を分けて書いてあるが、両方の合計で25%とする。ただし、小テスト20%、課題5%といったような著しく偏った割合にはしない。 授業態度が著しく悪い学生は、たとえ皆出席でも出席点を取得できない。 化学の問題集は学期に一度集めて課題点とする。授業中やらなかった問題は宿題とするので、自宅で復習し提出期限までにすべてやり終えておく。</p>	
期末試験	35%		
中間試験	30%		
小テスト	15%		
課題	10%		
出席・態度	10%		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>練習問題や小テストを保管しておけるようにファイルを用意すること。 演習問題には納得するまで取り組み、よくわからない問題は問題解説の際にしっかり確認すること。 ここは覚える！と言ったところは必ず覚えるよう復習する努力をすること。 理解できないところを試験まで残しておかないよう、質問は恥ずかしがらずにすること。 小テストの際にはノートのみを持込を許可することがあるのでノートを用意し、授業中は黒板を写し、問題などの解答は自分で解き、また解けなかったときは解答を必ず写しておくこと。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室 不在時は同室の他の先生に用事を伝えておく	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	音と音波の伝わり方復習	2年生で学んだ音と音波の授業を復習し思い出す。	
	第 2 週	固有振動と共振	固有振動と共振を再度理解する。	
	第 3 週	ドップラー効果	ドップラー効果を理解し、音源が動く問題が解ける。	
	第 4 週	ドップラー効果	観測者、音源と観測者の両方が動く場合の問題が解ける。	
	第 5 週	音の単元の仕上げ	音に関する総合問題が解ける。	
	第 6 週	光の速さ波としての光の性質	光の性質とその速さを理解する。	
	第 7 週	鏡とレンズ	凸レンズ仕組みを理解し、作図してその問題が解ける。	
	第 8 週	鏡とレンズ	凹レンズ仕組みを理解し、作図してその問題が解ける。	
学 期	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	反射、全反射	反射の法則、問題が解ける。全反射を理解する。	
	第 10 週	屈折、屈折率	屈折の問題を理解する。	
	第 11 週	屈折、屈折率	屈折の問題が解ける。	
	第 12 週	光の分散・偏光・干渉	偏光、光の分散を知り、ヤングの実験から干渉を理解する。	
	第 13 週	光の干渉・回折	干渉と回折の問題が解ける。	
	第 14 週			
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	自己の試験の成績より理解度を自己点検する。	
	後 期	第 16 週	酸と塩基 酸・塩基の価数と強弱	酸と塩基を理解し、酸と塩基の強弱が分かる。
第 17 週		酸と塩基の水素イオン濃度	酸と塩基の強弱と水素イオン濃度について理解できる。	
第 18 週		水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度からpHを求めることができる。	
第 19 週		中和反応と塩の生成	中和反応を理解し、それによって生成する塩がわかる。	
第 20 週		中和反応の量的関係	中和滴定に関する問題を解けるようになる。	
第 21 週		酸化と還元	酸化・還元と酸素や電子のやりとりについて理解する。	
第 22 週		酸化還元と酸化数	酸化数を求め、酸化還元を酸化数から考えることができる。	
第 23 週		酸化剤と還元剤	酸化剤・還元剤とは何か理解する。	
-		後学期中間試験	(試験)	-
第 24 週		金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向の順番を覚える。	
第 25 週		金属のイオン化傾向と反応性	金属のイオン化傾向とその反応性について理解する。	
第 26 週		電池の仕組み	金属のイオン化傾向と電池の仕組みについて理解する。	
第 27 週		さまざまな電池	さまざまな電池の構造を理解する。	
第 28 週		電気分解	電気分解の原理を理解する。	
第 29 週		電気分解の法則	電気分解の法則で電気量や金属、気体の量が計算できる。	
第 30 週	電気分解の法則 総合問題	総合問題ができるかどうか確認する。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	自己の試験の成績より理解度を自己点検する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
保健体育			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	瀧本明弘
科目概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テスト：背筋力、握力、反復横跳び、垂直跳び、伏臥上体そらし、長座体前屈、踏み台昇降運動 ・ サッカー：正確なキック、強いキック、リフティング、ドリブル、シュート、ルール、戦術、ゲーム ・ バスケットボール：ドリブル、パス、シュート、ルール、戦術、ゲーム ・ ニュースポーツ：ソフトバレーボール、ルール、ゲーム 			
キーワード： 安全、協調性、生涯スポーツ、ルールの遵守、運動量			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		アクティブスポーツ2011	科目：なし 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	実技試験は競技種目ごとに行う。 レポートは2回提出する。課題は「サッカーのルールについて」、「バスケットボールのルールについて」である。 リーグ戦績はリーグ戦によるチームの成績の結果を加点する。 学習態度は協調性、ルール遵守、服装、遅刻、見学等についてである。 欠席は出席状況より減点する。	
実技試験	30		
レポート	10		
リーグ戦績	10		
学習態度	20		
出席状況	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
1、ジャージ、シューズは指定のもの以外は認めない。 2、体調を整えて出席すること。 3、安全に留意すること。 4、スポーツの楽しさを理解するとともに協調性を学ぶ。 5、向上心をもって出席すること。 6、出席状況も評価に関わる。 7、体育施設の配置、着替え所要時間を考慮し、授業時限開始10分後に出席点呼をとる。授業終了後の着替え時間を10分とする。			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		1階・教員室	工大第1体育館教員室 工大第2体育館教員室

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	オリエンテーション	保健体育 について理解を深める	
	第 2 週	体力測定	自己の体力を把握する	
	第 3 週	集団行動	整列、姿勢、準備体操などの集団行動ができる	
	第 4 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 5 週	サッカー	サッカーのルールを理解しレポートを作成する	
	第 6 週	サッカー	さまざまなキック、ドリブルができる	
	第 7 週	サッカー	トラップ、パス、シュートができる	
	第 8 週	サッカー	ヘディング、リフティング、シュートができる	
	-			-
	第 9 週	サッカー	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 10 週	サッカー	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 11 週	サッカー	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 12 週	サッカー	リフティングの試験で目標課題を達成できる	
	第 13 週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解しレポートを作成する	
	第 14 週	バスケットボール	ボールハンドリング、ドリブル、パスができる	
-			-	
第 15 週	バスケットボール	ドリブル、パス、シュートができる		
後 期	第 16 週	バスケットボール	ハーフコートの 3 対 3 の練習を通して理解を深める	
	第 17 週	バスケットボール	練習ゲームを通してゲームの理解を深める	
	第 18 週	バスケットボール	リーグ形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 19 週	バスケットボール	リーグ形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 20 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 21 週	バスケットボール	リーグ形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 22 週	バスケットボール	シュートの試験で目標課題を達成できる	
	第 23 週	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールのルールを理解しレポートを作成する	
	-			-
	第 24 週	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールの基本パスができる	
	第 25 週	ソフトバレーボール	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 26 週	ソフトバレーボール	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 27 週	ソフトバレーボール	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 28 週	ソフトバレーボール	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 29 週	ソフトバレーボール	リーグ戦形式のチーム対抗戦でチームプレーができる	
	第 30 週	ソフトバレーボール	ラリーの試験で目標課題を達成できる	
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	1 年間の授業について振り返り理解を深める		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	吉本恵律子
科目概要			
<p>一般的あるいは身近なテーマを扱った英文を読むことを通して、基本的なリーディングスキルを習得していく。速読の技術（スキミング・スキヤニング）を取り入れ、主題の内容を把握する訓練を行っていく。また英文中に登場する単語は日常の新聞、雑誌などによく見かけるものであり、実社会でも非常に役立つ英単語であるので、単語力増強を図ることも目的としている。</p>			
キーワード： リーディングスタイル、スキミング、スキヤニング、単語力増強			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「Reading Pass 2」, Andrew E. Bennett, 南雲堂			科目：総合英語Ⅰ, Ⅱ 資格：
評価方法			
評価項目	%	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：授業で学習した各ユニットの英文理解を測る。 ・小テスト：2ユニット毎の語彙の習得を測る。ユニットのテーマと関連のあるパッセージを読んでみる。 ・提出物：各ユニットの要約文の提出。 	
期末試験	50		
小テスト	20		
提出物	20		
態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットのパラグラフごとに理解した内容をノートにまとめる。 ・ワークシートに従って整理する。 ・ユニットのテーマに沿った内容のもの（新聞、雑誌）を積極的に見聞きすると良い。 			
関連する本校の学習・教育目標			C
問い合わせ・質問先			1階教員室（103室） 不在時は1階教員室・大原先生まで

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	Green Profits	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 2 週	Green Profits	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 3 週	Well-loved Pets	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 4 週	Well-loved Pets	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 5 週	Review Quiz / More Reading about related topics	小テスト、同じテーマを扱ったパッセージを読む	
	第 6 週	Viral Marketing	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 7 週	Viral Marketing	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 8 週	The NBA Goes Global	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	-			-
	第 9 週	The NBA Goes Global	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 10 週	Review Quiz / More Reading about related topics	小テスト、同じテーマを扱ったパッセージを読む	
	第 11 週	Replanting the World's Forests	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 12 週	Replanting the World's Forests	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 13 週	Adventure Tourism	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 14 週	Adventure Tourism	理解度確認練習問題、本文要約	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後 学 期	第 16 週	Computer Actors	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 17 週	Computer Actors	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 18 週	Fresh Water	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 19 週	Fresh Water	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 20 週	Review Quiz / More Reading about related topics	小テスト、同じテーマを扱ったパッセージを読む	
	第 21 週	Exporting Culture	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 22 週	Exporting Culture	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 23 週	Aging Populations	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	-			-
	第 24 週	Aging Populations	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 25 週	Review Quiz / More Reading about related topics	小テスト、同じテーマを扱ったパッセージを読む	
	第 26 週	The Power of YouTube	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 27 週	The Power of YouTube	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 28 週	Crime-Fighting Scientists	重要単語やフレーズの確認、本文内容理解	
	第 29 週	Crime-Fighting Scientists	理解度確認練習問題、本文要約	
	第 30 週	Review Quiz / More Reading about related topics	小テスト、同じテーマを扱ったパッセージを読む	
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
English Skills III			Global Information Technology 3 rd year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 3	1 & 2	Nathan Lurie, Karina Lopez, Lee Knowlton
Course Overview			
<p>Students will develop English skills and vocabulary in order to have everyday conversations in which they can: talk about personal experiences using present perfect; describe places with adjectives; talk about suggestions and obligation as well as speculating, using modals; make complains; describe preferences and past events and habits.</p> <p>In addition to practicing the aforementioned language functions, students will be exposed to different aspects of different cultures through a variety of sources including film, music, holiday traditions, etc.</p>			
Keywords :			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<i>Smart Choice Student Book 2</i> K. Wilson and T. Healy Oxford <i>Smart Choice Workbook 2</i> K. Wilson, T. Falla, and P. Davis Oxford		Handouts	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	The teacher will evaluate students on their tests, class work, and participation. The tests will be done both in speaking and written form. The class work includes any speaking, listening, and written activities done in class. Each student's participation (including willingness to speak English, attendance, and punctuality) will continuously be assessed to determine their participation grade.	
Quizzes / Tests	30		
Class work	50		
Participation	20		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come to class on time and prepared with your books, a pencil and a good attitude. • Be friendly and respectful with the teacher and the other students. • Do not worry about making mistakes when you speak English, but try to learn from them. • Say <i>hello</i> and <i>goodbye</i> to the teacher in and outside of class. • Keep eye contact when you are talking with the teacher. 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week 1	Unit 0	Greetings, introducing class rules and grading system.	
	Week 2	Unit 1	Talk about vacations; Conversation (discussion about summer activities)	
	Week 3	Unit 1	Talk about vacations; Agreeing and disagreeing	
	Week 4	Unit 2	Giving opinions; Conversation (A survey about movies)	
	Week 5	Unit 2	Giving opinions; Adjectives ending in -ing and -ed	
	Week 6	Unit 3	Talk about personal experiences; Conversation (A survey about activities and experiences)	
	Week 7	Unit 3	Talk about personal experiences; The present perfect	
	Week 8	Review	Review Unit 1~3	
	-			-
	Week 9	Unit 4	Describe places; Conversation (A quiz about world geography)	
	Week 10	Unit 4	Describe places; Superlative adjectives	
	Week 11	Unit 5	Talk about special events; Conversation (A discussion about favorite months)	
	Week 12	Unit 5	Talk about special events; Adverbial clauses	
	Week 13	Unit 6	Talk about suggestions and obligations; Conversation (A survey about living a healthy lifestyle)	
	Week 14	Unit 6	Talk about suggestions and obligations; should and have to	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Games or a project		
2nd Semester	Week 16	Review	Review Unit 4 ~6	
	Week 17	Unit 7	Making complaints; Conversation (A class survey on shopping habits)	
	Week 18	Unit 7	Making complaints; too/not enough, too many/too much	
	Week 19	Unit 8	Describe preferences; Conversation (A class survey on important attributes and qualities)	
	Week 20	Unit 8	Describe preferences; Relative clauses (subject)	
	Week 21	Unit 9	Reporting events; Conversation (A class survey and discussion about dramatic events)	
	Week 22	Unit 9	Reporting events; The past continuous	
	Week 23	Review	Review Unit 7 ~ 9	
	-			-
	Week 24	Unit 10	Speculating; Conversation (A quiz on extreme natural events)	
	Week 25	Unit 10	Speculating; may, might, could, can't, and must	
	Week 26	Unit 11	Talk about past habits; Conversation (A class survey on childhood habits)	
	Week 27	Unit 11	Talk about past habits; used to	
	Week 28	Unit 12	Talk about housing options; Conversation (A class survey and discussion about the perfect place to live)	
	Week 29	Unit 12	Talk about housing options; If clauses with modals	
	Week 30	Review	Review Unit 10 ~ 12	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Games or a project		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
人間と自然			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 1	集中講義	瀧本明弘・菅原光彦
科目概要			
<p>穴水湾自然学苑において、海洋活動、講話、クラスミーティングなどを一体的に行う。海洋活動などのグループ活動を通し、自然への理解を深め、チームワークやリーダーシップを発揮するとともに、団体生活を通し、思いやりの心を実践し生活規範を身に付ける。また、校長講話および苑長講話を聴講し、学生生活のあるべき姿を理解するとともに、日本人としての誇りと自覚を深める。</p>			
キーワード： 体験，人間力			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		学生便覧2012	科目：人間と自然， 人間と自然 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	<p>「人間と自然」の評価基準は以下のとおりである。 研修3日間のうち、2日目16：30まで出席した者について、本科目を履修したものと認め、成績評価を行う。出席状況は、2日目16：30までの出席で30点および3日間出席で満点の50点を付与する。 海洋活動は受講態度が良好でない者は、10点を上限として減点する。研修レポートは穴水湾自然学苑で作成・提出するものとし、研修の理解度、取り組みの程度、表記の誤り、締め切り時刻後の提出などにより7点を上限とし減点する。また生活態度が良好でない者は、7点を上限として減点する。研修期間中の活動に体調不良等で出席できなかった場合は、海洋活動では午前、午後各3点、その他授業明細の項目については各1点を減点する。なお、見学は出席とする。 学生便覧2012規則集中の金沢工業高等専門学校学則および諸規則中の生活規定等の規則に違反をした場合には退苑させることがあり、評定2（不可）とする。</p>	
海洋活動	20		
研修レポート	15		
生活態度	15		
出席状況	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>別に配布する穴水湾自然学苑研修の資料をよく読み、忘れ物のないように注意する。 健康管理に十分留意し、体調を整えて研修に臨むこと。もし、体調がおもわしくない場合は、本校集合時に必ず申し出ること。 健康保険証のコピーを必ず持参すること。 団体生活を通して、他の人への思いやりを体得してください。 穴水湾自然学苑周辺の大自然に大いに親しんでください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標			A
問い合わせ・質問先			(授業開講時) 穴水湾自然学苑1階教員室・菅原まで (それ以外) 1階31・104教員室・瀧本まで

	授業項目	到達目標または行動目標	点検
1	オリエンテーション	緊急時における非常口の場所など安全の確保に関することおよび研修期間中における基本的なルールなどについて理解できる。	
2	朝の集い	国歌の斉唱と国旗・校旗の掲揚を行い、掲揚時のマナーについて理解できる。	
3	夕べの集い	国歌の斉唱と国旗・校旗の降納を行い、降納時のマナーについて理解できる。	
4	苑長講話	講話を聴講し、日本人としての誇りと自覚を理解できる。	
5	海洋活動	カッターによる帆走および洋上オリエンテーリングを行う。これらの活動を通して、チームワークやリーダーシップの重要性を理解できる。	
6	団体生活	団体生活を通して、思いやりの心を実践するとともに、生活規範を体得できる。	
7	クラスミーティング	クラスミーティングによりクラスの団結を深め、これからの学生生活への意欲を高めることができる。	
8	海洋活動反省会	海洋活動を通し感じたことなどをグループで話し合い、発表することができる。	
9	校長講話	講話を通し、学生生活上の指針を理解できる。	
10	研修レポートの作成	「人間と自然」で学んだ以下の項目について、文章として表現できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海洋活動（帆走、洋上オリエンテーリング）でのチームワークやリーダーシップの大切さについて。 ・団体生活での思いやりの心や生活規範の大切さについて。 ・校長講話および苑長講話について。 	

点検(自己評価):よく理解できた A B C D E まったくわからない

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
コンピュータ演習			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	今澤明男
科目概要			
<p>オブジェクト指向言語Javaの基本を身につけ、オブジェクト指向にそったプログラムを作成の基本ができるようにする。まずは、制御構造に慣れ親しみ、条件判断や繰り返し、さらに配列を自由に使えるようにする。そののちにクラスについて学び、オブジェクト指向によるプログラミングの基礎を身につける。</p>			
<p>キーワード： Java、制御構造、オブジェクト指向、クラス、メソッド、インスタンス、継承</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「世界一わかりやすいJavaプログラミングの授業」 Lepton, ソシム株式会社（2年時に「コンピュータ演習」で使用したもの）</p>		<p>「Java」「Java」三谷純、翔泳社 「Javaの絵本」アンク、翔泳社</p>	<p>科目：コンピュータ演習 ・ システム開発演習 資格：Javaプログラミング能力認定試験</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>演習科目ではあるが、定期試験ならびに中間試験も行い評価する。 課題は必ず提出すること。 普段の出欠・演習態度が不良の場合は、最大50点の減点をする。遅刻・早退も減点の対象とする。</p>	
前学期中間試験	20		
前学期末試験	20		
後学期中間試験	20		
後学期末試験	20		
演習課題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>1) まずは「分かった」と実感するまで学ぶこと。さらに「自由に使える」まで粘り強く演習を行うこと。そして、自分なりにいろいろと試して「面白い」と感じるころまで到達すること。以上を当演習の「心」の目標とします。</p> <p>2) 課題には粘り強く取り組むことを望みます。</p> <p>3) 教科書以外に、自分にあったJavaの参考書を最低1冊は持つことを勧めます。</p> <p>4) 適宜プリントを配付します。これを保存するファイル（A4サイズ）を必ず用意してください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		31-206室（今澤）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	授業概要説明	授業の目的・目標・方法を理解する。	
	第 2 週	条件分岐	条件分岐について復習し、その使用について、条件分岐を用いたプログラム作成を通じて習熟する。	
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週	繰り返し	繰り返しについて復習し、その使用について、繰り返しを用いたプログラム作成を通じて習熟する。	
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週	復習	第 7 週までの内容について復習し、理解を深める。	
-	前期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	配列	配列について復習し、その使用について、配列を用いたプログラム作成を通じて習熟する。	
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週	クラスとインスタンスの基礎	クラスとインスタンスについての基本的考え方と簡単な使用方法を理解する。	
	第 13 週			
	第 14 週	復習	第 13 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説をうけてそれまでの学習成果を自己評価する。	
後 学	第 16 週	メソッドとコンストラクタ	メソッドと、その特殊型であるコンストラクタについて、基本的考え方を理解し、その上でプログラム作成を通じて使用方法を理解する。	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週	継承	クラスの継承について、基本的考え方を理解し、その上でプログラム作成を通じて使用方法を理解する。	
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週	継承とコンストラクタ	クラスを継承した際のコンストラクタの扱いを理解する。	
	第 23 週	復習	第 22 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	抽象クラスとインタフェース	抽象クラスならびにインタフェースの基本的考え方と簡単な使用方法を理解する。	
	第 25 週			
	第 26 週	ストリームと入出力	文字列データの入出力方法を理解する。	
	第 27 週			
	第 28 週	プログラム作成	本年度身につけたJavaの知識を活用したプログラムを作成し、知識の応用力を高める。	
第 29 週				
第 30 週	復習	第 29 週までの内容について復習し、理解を深める。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説をうけて学習成果を点検し、自己評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報処理			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	田村景明
科目概要			
<p>現在、パーソナルコンピュータの操作は、高度なグラフィック・ユーザ・インターフェース（GUI）を装備し、一般のユーザにも使いやすいウィンドウズOSを介して行われることが普通である。しかしながら、より高次の機能を必要とする場合ならびに業務用には、OSとしてUNIXが使用されることが多い。そこで当科目では、UNIXの特徴ならびに操作の基本を、講義と実際のコンピュータ操作（Linux）を通じて学ぶ。また、キャラクタ・ユーザ・インタフェース（CUI）を介しての操作に習熟することも目的とする。</p>			
キーワード：OS，UNIX，Linux，CUI			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「Linux標準教科書（Ver.1.1.0）」，岡田賢治他，エルピーアイジャパン		科目：情報システム 資格：基本情報技術者試験 LPIC試験	
評価方法			
評価項目	%	<p>授業はLinux操作および、Linuxの知識を身につける。そのために、小テストおよび定期試験で知識を確認する。宿題、課題はLinuxの操作の習得と、自学自習の習慣をつけるために行う。</p> <p>授業態度不良学生は評価項目に関係なく、減点する。遅刻、早退それぞれ1回につき、1点減点する。欠課1回（50分授業）につき、2点減点する。</p>	
前学期中間試験，前学期末試験	35		
後学期中間試験，後学期末試験	35		
小テスト	10		
宿題・課題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンが必要なので、貸与パソコンを忘れずに持ってくること。 ・まず、操作（コマンド）の意味を理解し、実際に操作し、その結果と自分で想像した内容を比較検討してみることが大事である。 ・ひとつひとつ丁寧に操作すること。 ・ノートを用意すること。板書の内容や実行結果を記録するとよい。 			
関連する本校の学習・教育目標	E，B		
問い合わせ・質問先	2階210号室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス, UNIXの歴史	UNIX, Linuxの歴史を理解する。	
	第 2 週	Linuxのインストール作業	インストールに必要な基礎知識を理解する。	
	第 3 週			
	第 4 週	基本コマンド(1)	基本コマンドの使い方を理解する。	
	第 5 週			
	第 6 週	正規表現とパイプ	正規表現とパイプを理解する。	
	第 7 週			
	第 8 週	基本コマンド(2)	ファイル操作を理解し, 第1週目から第8週目までをまとめる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	中間自己点検	試験返却。中間試験の自己点検	
	第 10 週	エディタ	エディタの使い方を理解する。	
	第 11 週			
	第 12 週	管理者の仕事	管理者の仕事を理解する。	
	第 13 週			
	第 14 週	前期まとめ。	第9週目~第13週目内容をまとめる。	
	-	前学期定期試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	試験返却。定期試験の自己点検。	
後 学 期	第 16 週	ユーザ権限とアクセス権	アクセス権について理解する。	
	第 17 週			
	第 18 週	シェルスクリプト	シェルスクリプトを理解する。	
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週	ネットワークの設定	ネットワークの管理について理解する。	
	第 22 週			
	第 23 週	まとめ	第16週目~第22週目までをまとめる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	自己点検	試験返却。中間試験の自己点検。	
	第 25 週	ネットワークサービス	Webサービス, ファイル共有について理解する。	
	第 26 週			
	第 27 週	X Windows System	X Windows Systemについて理解する。	
	第 28 週	Linuxのファイル管理	Linuxのファイル管理について理解する。	
第 29 週				
第 30 週	まとめ	第25週目~第29週目までをまとめる。		
-	後学期定期試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	試験返却。自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
ビジネスシステム			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	館 宜伸, Robert Songer
科目概要			
<p>システム開発をゼロから行う場面に立ち会える機会よりは、既存のシステムに対して、機能拡張を行ったり、既知の不具合に対応したりすることの方が多いたが現状です。そのために必要なネットワークやデータベースの知識と、サーバサイドプログラムの基礎を習得する。その上で、自らが手掛けていない既存のシステムに対して、機能追加などを行ったり、データベース対応したり、ゼロから作るよりも、改変が主となるような演習を多く行う。</p>			
<p>キーワード： ネットワーク, クライアント・サーバ, Java言語, Eclipse, HTML, Webページ</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「これからはじめる すぐにわかる サブレット&JSP入門」, 川崎克巳, 秀和システム		「Java言語プログラミングレッスン上」, 結城浩, SoftBank Creative	科目：コンピュータ演習, HTMLの科目 資格：ITパスポート、基本情報技術者試験
評価方法			
評価項目	%	<p>成績は、評価項目に従って評価する。 なお、欠課1回(50分)につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な教科書やノートパソコンなどの忘れ物も1点減点とする。</p>	
定期試験	60		
課題	20		
成果物	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>インストール・作品制作などの演習や実験中に発生したトラブルの対処は、良い経験になります。ただし、なぜトラブルが発生したのか、何が原因だったのか？などを自分で調査・発見にチャレンジしてください。また、原因やその解消方法などが判明したら、発生内容とともに記録しておきましょう。分析せずに適当に解決しただけでは次回同じ現象が発生しても解消できなくなります。 受講上の注意を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアの使い方など教科書に+ の内容を記録できるようにノートを用意すること 2. 課題の提出期限は必ず守ること 3. 演習・課題には納得するまで取り組むこと 4. 遠慮なく質問すること 5. 無断で席や教室から離れないこと 			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		2階207室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス・インストール	本授業の目的を理解し、開発環境をインストールできるネットワークについて理解できる	
	第 2 週	ネットワーク基礎	ネットワークについて理解できる	
	第 3 週	インターネットとセキュリティ	プロトコルやセキュリティについて理解できる	
	第 4 週	静的Webページ	基本的なHTMLタグでWebページが制作できる	
	第 5 週			
	第 6 週	文字コード・静的Webページ設計	ブラウザで文字化けしないように文字コード指定ができる	
	第 7 週	静的Webページ制作	設計したWebページを制作できる	
	第 8 週	HTML課題発表	制作したWebページを説明できる	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	サーバサイドプログラム概要	サーバサイドプログラムを理解できる	
	第 10 週	Webページ導入	既存システムを導入し、仕組みを理解できる	
	第 11 週	動的Webページ	Servletを用いた動的なWebページを作成できる	
	第 12 週	動的Webページ設計	Webページの企画・設計ができる	
	第 13 週	動的Webページ制作	動的なWebページが制作できる	
	第 14 週	中間発表	制作したWebページの説明ができる	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後 学 期	第 16 週	利用手順書作成	制作したWebページの利用手順書を作成できる	
	第 17 週	引継・機能追加検討	制作したWebページを引継でき、機能追加の検討ができる	
	第 18 週	機能追加	引き継いだWebページに機能を追加できる	
	第 19 週	システム企画と開発	システム企画と開発について理解できる	
	第 20 週	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムやプログラミングについて理解できる	
	第 21 週	インストール	プリンタドライバやデータベースシステムをインストールできる	
	第 22 週	データベース	データベースについて理解できる	
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	リレーショナルデータベース	リレーショナル(関係)データベースについて理解できる	
	第 25 週	データベースとテーブル	データベースやテーブルを作成できる	
	第 26 週	SQL文	基本的なSQL文を扱うことができる	
	第 27 週	データベース with Java	Javaでデータベースの操作を行うことができる	
	第 28 週	動的Webページ移植	ファイルで管理していたデータをデータベースで管理できる	
	第 29 週			
	第 30 週	発表	データベースを利用したWebページの説明ができる	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
創造実験			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	田村景明・井上恵介
科目概要			
<p>1, 2年生で学習したLEGOロボット, ネットワーク, プログラミング演習によって体験した実験・演習の内容をより深くするために, 個々の要素(情報処理, 機械, 電気)の知識を身につけ, それらを組み合わせることにより, ある機能を持つシステムを製作する。また, 4年次以降に開講される科目へのステップとするものである。</p> <p>実験テーマは, 1.無線ロボットの製作, 2.図形・画像処理システムの制作の2テーマである。</p>			
キーワード: Processing, java, ロボット, 図形・画像処理, Webカメラ			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
配付プリント	「Processingをはじめよう」, Casey Reas, Ben Fry (著), 船田 巧 (翻訳), オライリ・ジャパン	科目: コンピュータ演習 資格: CG検定	
評価方法			
評価項目	%	<ul style="list-style-type: none"> ・内訳(テーマ1, テーマ2共) <ul style="list-style-type: none"> 課題・宿題 30% 週報, 報告書 20% ・出席状況 <ul style="list-style-type: none"> ・欠席1回(50分)に対して, 2点減点 ・遅刻・早退それぞれ1回に対して, 1点減点 ・授業態度不良学生については, 上記評価にかかわらず減点する。 	
テーマ1	50		
テーマ2	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・週報は毎週必ず提出すること。 ・報告書は必ず提出すること。 ・授業中は作業服を着ること。 ・パソコンが必要なので, 貸与パソコンを忘れずに持ってくること。 ・まずは, 指導書をよく見て, 自分で試してみる。はじめから, 友達, 教員に質問しないこと。 ・筆記用具を持参し, 実験結果を記録すること。 ・整理整頓に心がけ, 掃除をしっかりとすること。 			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	2階210号室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス，開発環境の整備	Processing開発ツールを操作できる。	
	第 2 週	テーマ1：車体の制作	ロボット本体の組み立てを理解する。	
	第 3 週	駆動系の製作	ギヤボックスの組み立てを理解する。	
	第 4 週	半田付け作業	半田付け作業を理解する。	
	第 5 週	モータ制御回路の製作	テスタ，電圧，電流，抵抗を理解する。 モータ制御回路を理解する。	
	第 6 週			
	第 7 週	モータ制御プログラム（1）	モータ制御プログラムを理解する。	
	第 8 週			
-	前学期中間試験	（試験）	-	
後 学 期	第 9 週	モータ制御プログラム（2）	ジョイスティックによるロボット制御のプログラムを製作する。	
	第 10 週			
	第 11 週	ロボットの無線化	ロボットに無線装置を追加し，無線制御を理解する。	
	第 12 週	ロボットの調整	競技大会に向けて，ロボットの調整を理解する。	
	第 13 週	競技会開催	ロボット競技大会に参加する。	
	第 14 週	報告書の作成	テーマ1の内容をまとめることができる。	
	-	前学期定期試験	（試験）	-
	第 15 週	自己点検		
後 学 期	第 16 週	テーマ2：Processingの基礎	Processingの図形表示プログラムを理解する。	
	第 17 週			
	第 18 週	アニメーション	アニメーションを理解する。 マウス，キーボード入力を理解する。	
	第 19 週			
	第 20 週	図形処理アプリケーションの制作	インタラクティブなアプリケーションを制作する。	
	第 21 週			
	第 22 週	LANケーブルの製作	LANケーブルの製作を理解する。	
	第 23 週	ネットワーク通信（1）	ネットワーク通信プログラムを理解する。	
	-	後学期中間試験	（試験）	-
	第 24 週	ネットワーク通信（2）	ネットワーク経由で図形を制御する。	
	第 25 週	Webカメラ入力	Webカメラから映像を入力する方法を理解する。	
	第 26 週	デジタルカメラの制作	Webカメラを使ったデジタルカメラを制作する。	
	第 27 週	画像処理	映像の画像処理法を理解する。	
	第 28 週			
	第 29 週	ネットワーク経由の映像受信	Webカメラ映像を受信し，パソコンに表示する方法を理解する。	
第 30 週	報告書の作成	テーマ2の内容をまとめることができる。		
-	後学期定期試験	（試験）	-	
第 31 週	自己点検自己評価			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
英語総合技能Ⅰ			グローバル情報工学科 3年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3	前・後	大原しのぶ
科目概要			
<p>クラス全員が実用英検準2級合格の実力をつけること。さらには実際に受験し、合格することを目標とする。過去問題を数多く解くことで合格のためのテクニックを身につけるだけでなく、更に2級合格につなげるために文法、購読、リスニング、語彙の基礎を確実なものとする。そのため単熟語小テストを必ず毎週1回行う。</p>			
キーワード： 実用英検準2級、2級、単熟語小テスト			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「英検準2級最短合格！総合対策」 ジャパンタイムズ&日本アイアール 編, The Japan Times 過去問題のハンドアウト		英和辞典 「総合英語フォレスト6訂 版」, 石黒昭博監修, 桐原書 店	科目：英語資格技術 資格：実用英検準2級筆記試験、 実用英検2級筆記試験
評価方法			
評価項目	%	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎週行う単語小テストとする。 ・提出物は単語小テストの復習プリントとする。 ・授業態度は忘れ物、居眠りを含み10%以上の減点もある。 	
定期試験	50		
小テスト	30		
提出物	10		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・週3時間のうち1時間はリスニングを行う。 ・毎週単語テストを実施しますので、自宅学習を行い単語テストに臨んで下さい。 ・資格試験のための授業は単調になりがちですが、資格取得は就職等に必ず有利になりますので、自宅学習を積極的にを行い、準2級合格、更には2級合格を目指して頑張ってください。 			
関連する本校の学習・教育目標		C	
問い合わせ・質問先		1階教員室(103室)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	授業概要、過去問題	授業、小テスト、学習方法を理解する。	
	第 2 週	リスニング、大問 1 語法	リスニング 1 部対話の応答問題に正しく答える。 大問 1 に出題される単熟語の意味を理解する。	
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週	リスニング、大問 1 文法	リスニング 1 部対話の応答問題に正しく答える。 大問 1 に出題される時制を理解する。	
	第 7 週	リスニング、大問 1 文法	リスニング 1 部対話の応答問題に正しく答える。 大問 1 に出題される関係詞を理解する。	
	第 8 週	リスニング、大問 1 文法	リスニング 1 部対話の応答問題に正しく答える。 大問 1 に出題される仮定法を理解する。	
	-			-
	第 9 週	リスニング、大問 1 文法	リスニング 1 部対話の応答問題に正しく答える。 大問 1 に出題される前置詞・代名詞を理解する。	
	第 10 週	リスニング、大問 2 会話問題	リスニング 2 部対話の内容一致問題に正しく答える。 大問 2 に出題される会話表現を理解し、正しく答える。	
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週	前期末テスト対策	前期学習範囲の理解。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検。		
後 学 期	第 16 週	リスニング、大問 3 語順整序問題	リスニング 2 部対話の内容一致問題に正しく答える。 大問 3 に出題される熟語・構文を理解し、正しく答える。	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週	リスニング、大問 3 語順整序問題	リスニング 3 部英文内容一致問題に正しく答える。 大問 3 に出題される熟語・構文を理解し、正しく答える。	
	第 20 週	リスニング、大問 4 長文穴埋め問題	リスニング 3 部英文内容一致問題に正しく答える。 大問 4 の物語の流れや大まかの内容を理解し設問に正しく答える。	
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-			-
	第 24 週	リスニング、大問 5 長文読解問題	リスニング 3 部英文内容一致問題に正しく答える。 大問 5 の内容を段落ごとに大まかに内容を把握することと問題を解くのに必要なポイントを見つけ出せるようになる。	
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
	第 28 週	過去問題と解説	合格ラインの 60% 以上の解答を目標とする。	
	第 29 週	過去問題	年度初めのとの伸長を計る。	
第 30 週	後期末テスト対策	後期学習範囲の理解。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
日本語スキルズ			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 1	前・後	大崎富雄
科目概要			
<p>国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高め、思考力を伸ばし、最終的には自分自身の考えを広げ深め、理想とするありかたを文章化することができる「言語感覚」を磨く。必要な情報を効果的に伝えることを目標として発表し、進んで表現する姿勢を身に付ける。さらには、社会生活に役立つ表現力、理解力と社会生活を充実させる態度を身に付ける。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
なし。必要に応じプリントを配布		科目：国語、国語、国語 資格：日本語検定	
評価方法			
評価項目	%	成績は小論文を中心に学習態度・出席状況を総合的に判断して評価する。	
期末試験	50		
中間試験	30		
学習態度	10		
出席状況	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>文章の構成法を理解することができる。 文章の論理展開法を理解することができる。 課題文に対する批判的検討から始め、最終的には自分自身の考えを広げ深め、理想とするあり方を文章化できる。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	A		
問い合わせ・質問先	1階104室（教員室）		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前期	第 1 週	ガイダンス	1年間の指導方針	
	第 2 週	文章とは何か ()	思考の伝達方法について理解できる。	
	第 3 週	文章とは何か ()	思考の伝達方法・文章の目的について理解できる。	
	第 4 週	文章構成 ()	三段型 (序論・本論・結論) について理解できる。	
	第 5 週	文章構成 ()	四段型 (起・承・転・結) について理解できる。	
	第 6 週	論理展開 ()	類推法について理解できる。	
	第 7 週	論理展開 ()	帰納法について理解できる。	
	第 8 週	論理展開 ()	演繹法について理解できる。	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	論理展開 ()	アブダクションについて理解できる。	
	第 10 週	修辞技法 ()	比喩・逆接・引用・強調などについて理解できる。	
	第 11 週	修辞技法 ()	比喩・逆接・引用・強調などについて理解できる。	
	第 12 週	修辞技法 ()	比喩・逆接・引用・強調などについて理解できる。	
	第 13 週	記述技法 ()	原稿用紙を中心にした使い方を理解できる。	
	第 14 週	記述技法 ()	推敲の方法について理解できる。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後期	第 16 週	小論文 ()	小論文の方法について理解できる。	
	第 17 週	小論文 ()	小論文の方法について理解できる。	
	第 18 週	小論文 ()	小論文の方法について理解できる。	
	第 19 週	小論文演習 ()	テーマ型小論文の方法について理解し、作成することができる。	
	第 20 週	小論文演習 ()	テーマ型小論文の方法について理解し、作成することができる。	
	第 21 週	小論文演習 ()	テーマ型小論文の方法について理解し、作成することができる。	
	第 22 週	小論文演習 ()	テーマ型小論文の方法について理解し、作成することができる。	
	第 23 週	小論文演習 ()	テーマ型小論文の方法について理解し、作成することができる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	文章の読解 ()	文章の読解の方法について理解できる。	
	第 25 週	文章の読解 ()	文章の読解の方法について理解できる。	
	第 26 週	文章の読解 ()	文章の読解の方法について理解できる。	
	第 27 週	小論文演習 ()	論文読解型小論文について理解し、作成することができる。	
	第 28 週	小論文演習 ()	論文読解型小論文について理解し、作成することができる。	
	第 29 週	小論文演習 ()	論文読解型小論文について理解し、作成することができる。	
	第 30 週	小論文演習 ()	論文読解型小論文について理解し、作成することができる。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
社会科学			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	野木邦夫
科目概要			
<p>現代の世界や日本の地域で生起する様々な事象や問題（課題）をグローバルに捉えるとともに、地域の視点から考察する方法を身につける。地域の生活、産業、環境の問題点などの背景には、自然、技術とそれを活用する人間の問題がある。学生が工業系であることを考慮し、できるだけ技術の問題に触れ、社会に出てから現実の課題の解決に少しでも役立つように、生きた知識や論理的な考え方を養うことを目的とする。</p>			
<p>キーワード： 地理的視野の拡大，自然災害，領土問題と民族問題，エネルギー問題，環境問題</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
自作プリント		随時、参考文献を紹介する	科目：社会科学 資格：
評価方法			
評価項目	%	<p>中間試験、期末試験によって到達度を量るが、成績は学習態度、出席状況を加味し、総合的に評価する。学習態度、出席状況は不良のものについて減点していく。年に数回のノート提出を課し、学習態度の一部として評価する。学年末の評価は各学期の成績合計の平均とする。</p>	
中間試験	40		
期末試験	40		
学習態度	15		
出席状況	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>ノートはしっかりととり、自己の学習に利用すること。 わからないこと、興味を持ったことがあれば（授業中・授業外とも）気軽に質問すること。 身近なテーマであるから、少しでも興味をもって学習すること。 日々、新聞やニュースに目を向けるように心がけること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		教務室（宮野）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	世界的視野の拡大と世界像の変遷		
	第 2 週			
	第 3 週			
	第 4 週	自然災害	自然災害の種類とその防災方法について理解できる。	
	第 5 週			
	第 6 週	国家・国家の領域	国家・国家の領域・国境とは何かを理解できる。	
	第 7 週	領土問題	世界・日本の領土問題の原因・経緯について理解できる。	
	第 8 週			
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
期	第 9 週	国家間のむすびつき	国家間の結びつきについて、意義と内容が理解できる。	
	第 10 週			
	第 11 週	人種と民族	人種と民族の違いについて理解できる。	
	第 12 週	民族と宗教	宗教の特徴と信仰について理解できる。	
	第 13 週	民族問題	世界・日本の民族問題の原因・経緯を理解について理解できる。	
	第 14 週			
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検 工業の発達と立地条件	答案返却・解説および自己点検。 工業の発達と立地条件について理解できる。	
後 期	第 16 週	世界の工業	世界の工業の特徴について理解できる。	
	第 17 週			
	第 18 週	鉱産資源の利用	鉱産資源の種類と生産・消費について理解できる。	
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週	エネルギー利用の現状と課題	世界・日本のエネルギー利用の現状と課題が理解できる。	
	第 22 週			
	第 23 週			
-	後学期中間試験	(試験)	-	
学 期	第 24 週	地域開発	世界・日本の地域開発の現状と課題について理解できる。	
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週	環境問題と環境保全	世界・日本の環境問題の原因と、環境保全の取り組みについて理解できる。	
	第 28 週			
	第 29 週			
	第 30 週			
	-	後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。	-	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
文化・芸術・思想			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	小高有普
科目概要			
<p>文化・芸術を通し、ものづくりの思想について考え、それらを踏まえて新しい創造をすることを習得する。発想の原点であるモノとコトを考え発想・意思決定する力を身につけると同時にものづくりのプロセスを手を使いながら習得する。</p> <p>発想するために石川の文化・芸術を基に歴史と現状調査を経て、テーマを基にアイデア展開し、ペーパーモデルとして表現する。個々の発想したものは、最終的にパネルとしてまとめあげる。</p>			
キーワード： エンジニアリングデザイン、デザインシンキング、商品プロセス			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
なし。必要に応じプリントを配布	なし	科目： 資格：	
評価方法			
評価項目	%	1. 文化・芸術を形にする を演習課題として評価する。 2. 最終モデルを成果課題として評価する。 3. パネルを作品として評価する。 4. 提出なき課題は無評価とする。	
演習課題	20		
成果課題	25		
作品	40		
学習態度	15		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・発想法 発想の仕方について相談があれば授業中にアドバイスし、解決する。 ・モデル 授業中にモデル作成に対しての相談があればアドバイスし、解決する。 ・アウトプット パネル作成に対してのグラフィックアドバイスをし、解決していく。 パネル作成ソフトの質問に対し説明、解決する。 			
関連する本校の学習・教育目標	B		
問い合わせ・質問先	2階209室小高まで		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	身近な文化・芸術について	文化・芸術・思想についてのオリエンテーション	
	第 2 週	調査	課題についての調査をする	
	第 3 週	調査	調査 を踏まえ再調査をする	
	第 4 週	調査まとめ	調査をまとめる	
	第 5 週	発表	調査内容を発表する	
	第 6 週	文化・芸術を形にする	課題テーマについてアイデア出しをする	
	第 7 週	文化・芸術を形にする	アイデアをまとめる	
	第 8 週	文化・芸術を形にする	アイデアを形にする	
	-			-
	第 9 週	文化・芸術を形にする	アイデアを形にする	
	第 10 週	発表	アイデアを発表し、改善案を話し合う。	
	第 11 週	文化・芸術を形にする	個々のモデルを改善する	
	第 12 週	文化・芸術を形にする	個々のモデルを改善する	
	第 13 週	文化・芸術を形にする	新たな課題をペーパーモデルで作る	
	第 14 週	文化・芸術を形にする	新たな課題をペーパーモデルで作る	
-			-	
第 15 週	自己点検	今までの課題内容のプロセスチェック		
後 学 期	第 16 週	文化・芸術を形にする	新たな課題をペーパーモデルで作る	
	第 17 週	色彩学	色彩を理解する	
	第 18 週	パソコン基礎演習	グラフィックソフトの基礎を習得する	
	第 19 週	パソコン基礎演習	グラフィックソフトの基礎を習得する	
	第 20 週	パソコン基礎演習	グラフィックソフトの基礎を習得する	
	第 21 週	パソコン基礎演習	グラフィックソフトの基礎を習得する	
	第 22 週	パソコン基礎演習	課題を参考に画像データ処理を習得する	
	第 23 週	パソコン基礎演習	課題を参考にレイアウトの仕方を習得する	
	-			-
	第 24 週	パネル作成	文字校正、写真レイアウト検討	
	第 25 週	パネル作成	パネルに展開する。レイアウト検討	
	第 26 週	パネル作成	パネルデータ化作業	
	第 27 週	パネル作成	パネルデータ化作業	
	第 28 週	パネル作成	パネルデータ化作業	
	第 29 週	パネル作成	データを出力し、パネルにする	
	第 30 週	成果発表	作品をプレゼンする	
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	授業と修学成果を自己点検する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
保健体育			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修2	前・後	瀧本明弘
科目概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト(背筋力、握力、反復横跳び、垂直跳び、伏臥上体そらし、長座体前屈、踏み台昇降運動) ・ソフトボール(キャッチボール、トスバッティング、ピッチング、フリーバッティング、連係プレー、ゲーム) ・テニス(ストローク、サーブ、ボレー、スマッシュ、ゲーム) ・バドミントン(試合の進め方、ルール、シングルス、ダブルス、ゲーム) 			
キーワード： 生涯スポーツ、体力、球技、ルール			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし		アクティブスポーツ2011	科目：なし 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	実技試験は、リーグ戦による成績の結果とする。 レポートは、1回提出する。課題は、「ソフトボールのルールについて」、「テニスのルールについて」、「バドミントンのルールについて」である。 学習態度は、協調性、ルール順守、服装、遅刻、見学等についてである。欠席は、出席状況より減点する。	
実技試験	30		
レポート	10		
学習態度	30		
出席状況	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 服装は、運動に適したものであること。 2. シューズは外履き、内履きの区別をすること。 3. 体調を整えて出席すること。 4. 向上心を持って出席すること。 5. 安全に留意すること。 6. スポーツの楽しさを理解すること。 7. 体育施設の配置、着替え所要時間を考慮し、授業時限開始10分後に出席点呼をとる。授業終了後の着替え時間を10分とする。 			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		31・104 第二体育館	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	オリエンテーション	保健体育 全般について理解を深める	
	第 2 週	ソフトボール	ソフトボールの用具について理解を深める	
	第 3 週	ソフトボール	キャッチボール、捕球、トスパッティングが出来る	
	第 4 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 5 週	ソフトボール	ゴロの捕球、送球、ピッチングについて理解を深める	
	第 6 週	ソフトボール	ゴロの捕球、送球、ピッチングができる	
	第 7 週	ソフトボール	内外野の連係プレーについて理解を深める	
	第 8 週	ソフトボール	内外野の連係プレーができる	
学	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	ソフトボール	チームプレー、試合運営について理解を深める	
	第 10 週	ソフトボール	リーグ戦形式の対抗戦で、チームプレーができる	
	第 11 週	テニス	ラケットとボールの特性について理解を深める	
	第 12 週	テニス	グランドストロークについて理解を深める	
	第 13 週	テニス	バックハンドについて理解を深める	
	第 14 週	テニス	サーブについて理解を深める	
	-	前期末試験	(試験)	-
後	第 15 週	テニス	ボレーについて理解を深める	
	第 16 週	テニス	練習ゲームを通してルールを理解し試合運営ができる	
	第 17 週	テニス	リーグ戦を通して、これまでの学習内容を復習する	
	第 18 週	テニス	リーグ戦を通して、これまでの学習内容を復習する	
	第 19 週	バドミントン	シングルの試合のルール及び進め方について理解を深める	
	第 20 週	球技の練習	各種球技の理解を深める	
	第 21 週	バドミントン	シングルの練習ゲームを通して技術向上を図る	
	第 22 週	バドミントン	シングルのリーグ戦を通して技術を発揮できる	
	第 23 週	バドミントン	シングルのリーグ戦を通して技術を発揮できる	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	バドミントン	シングルのリーグ戦を通して技術を発揮できる	
	第 25 週	バドミントン	ダブルスの試合のルール及び進め方について理解を深める	
	第 26 週	バドミントン	ダブルスの練習ゲームを通して技術向上を図る	
	第 27 週	バドミントン	ダブルスのリーグ戦を通して技術を発揮できる	
	第 28 週	バドミントン	ダブルスのリーグ戦を通して技術を発揮できる	
第 29 週	バドミントン	ダブルスのリーグ戦を通して技術を発揮できる		
第 30 週	体力測定	自分の体力を把握する		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	1年間の授業について振り返り理解を深める		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
英語表現技法			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	宇都宮隆子
科目概要			
<p>今まで学んできた英文法や英文構造に関する知識を整理しつつ、英語の句読法についても再度確認していく。語と語、語句と語句、文と文の接続法を学び、より自然な英語の文体を書くことを学習する。英語のライティングを、センテンスレベルからパラグラフレベル、さらにはエッセーレベルに持っていくことを目標とする。パラグラフライティングを学ぶ際、パラグラフ構成の元となるトピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクールドセンテンスの書き方も学ぶ。</p>			
<p>キーワード： 英文法、英文構造、トピック・サポート・コンクールドセンテンス、パラグラフ</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「Get Ready To Write: A First Composition Text」Karen Blanchard・Christine Root, Pearson Longman		英和・和英辞書	科目：英語科目全般 資格：TOEIC Speaking/Writing Tests
評価方法			
評価項目	%	<p>期末試験：前期・後期末にそれぞれ実施する。各単元のターゲット英文法、語彙を含め、時間内にいかに効率よくパラグラフライティングが書けるかを確認する。</p> <p>小テスト：各単元で学習する文法、語彙、パラグラフ構成の理解度を測るために実施する。前期・後期を通して計10回の小テストを実施する。</p> <p>英作文課題：[パラグラフ・ライティング] 各単元に関連するトピックについての練習を行う。[Email] 前期2回、後期3回。与えられたトピックに関して英文メールを作成。</p> <p>学習態度：辞書を使っているか。クラスメイトとのトピックに関する意見交換ができるか。また、パラグラフライティングの学習過程における積極性も見る。もちろん、遅刻、忘れ物、授業中の居眠りに関しては随時減点。</p>	
期末試験	50		
小テスト	10		
英作文課題	30		
学習態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>辞書の利用：使いこなせる英語の語彙・表現には限りがある。辞書の活用を心がけること。</p> <p>熟考：様々なトピックに対し、常に自分の意見を持つようする。また同時に、その考えを掘り下げること。なぜそのような意見を持つように至ったかを、自身で考える習慣つける。</p> <p>構成：考えがうまくまとめられているライティングは、内容に首尾一貫性があり、読み手に自分の考えが伝わりやすい。テキストのconnecting wordsをしっかりと学習し、パラグラフの構成にも気を配りながらライティングを進めること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標			C
問い合わせ・質問先			1階103室(教員室)

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	Chapter 1	パラグラフの形式を理解し、自己紹介文を作成できる。	
	第 2 週	Chapter 1	be動詞と一般動詞の違いを理解し、人物紹介文を作成できる	
	第 3 週	Chapter 2	家族に関する語彙、代名詞を用いて家族の紹介文を作成できる。	
	第 4 週	Chapter 2	接続詞、性格表す語を用いて友人についての作文を作成できる。	
	第 5 週	Chapter 2	未来の家族についての作文を作成できる。	
	第 6 週	Chapter 3	趣味を表す語彙や現在形を用い、主語書き換え文を作成できる。	
	第 7 週	Chapter 3	自分の趣味や休みの過ごし方の作文を作成することができる。	
	第 8 週	Chapter 3	運動、健康に関する作文を作成できる。	
	-			-
	第 9 週	Chapter 4	適切な前置詞・副詞を使い、時系列通り並び替えることができる。	
	第 10 週	Chapter 4	順序を表す文章の主語書き換え文を作成することができる。	
	第 11 週	Chapter 4	自分の一日の行動に関する作文を作成することができる。	
	第 12 週	Chapter 5	人物描写に使う形容詞を用いて文を作成することができる。	
	第 13 週	Chapter 5	サポートセンテンスを理解し、人物描写の文を作成できる。	
	第 14 週	Chapter 5	人物表現の語彙を用いて自分の性格を表す作文を作成できる。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検・Chapter 5	答案返却および解説・特産品の描写作文が作成できる。		
後 期	第 16 週	Chapter 6	場所を描写する形容詞、前置詞を用いた文章を作成できる。	
	第 17 週	Chapter 6	場所を表す前置詞を用いて自分の部屋を表す作文を作成できる。	
	第 18 週	Chapter 6	場所を描写する語彙を用いて、故郷についての文を作成できる。	
	第 19 週	Chapter 7	指示・順序を表す語句、名詞を含む作文を作成できる。	
	第 20 週	Chapter 7	指示、順序を含む作文を作成できる。	
	第 21 週	Chapter 8	ナレーションの流れにそった文章の並び替えができる。	
	第 22 週	Chapter 8	過去形、時間の流れを表す表現を用いた作文が作成できる。	
	第 23 週	Chapter 8	自分の思い出を作文として作成できる。	
	-			-
	第 24 週	Chapter 8	自分の思い出を作文として作成できる。	
	第 25 週	Chapter 9	自分の意見をサポートする英文構成を理解し書くことができる。	
	第 26 週	Chapter 9	because副詞節を用い、自分の意見を述べる作文を作成できる。	
	第 27 週	Chapter 9	英文に首尾一貫性を持たせながらパラグラフを作成できる。	
	第 28 週	From Paragraph to Essay	パラグラフとエッセイの違いを理解できる。	
	第 29 週	エッセイ作成	主題の役割、エッセイの構成要素について理解することができる。	
第 30 週	エッセイ作成	自身で選んだ主題についてエッセイを書くことができる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について自己評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	大原しのぶ
科目概要			
<p>日本人教員による授業。英語で書かれたなぞなぞ、パズル、ジョーク、世界ランキング、心理クイズ、バースデーカード、などを教材にその内容把握とそこで使用されている単語を語源に注目しながら学び、それらと同じ語源を持つ単語を出し合うことで語彙力アップを図る。また様々な題材から日本との文化の違いを学習する。</p>			
キーワード： 単語、語源、語彙力、文化			
教科書		参考書	関連する科目・資格
ハンドアウト		「語源耳」, ホリム・ハン、松澤喜好, アスキー・メディアワークス	科目： 資格：
評価方法			
評価項目	%	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎週行う単語テストとする。 ・提出物は4週間ごとの英作文とする。 ・授業態度は居眠りも含み、5%以上の減点もある。 	
定期試験	50		
小テスト	30		
提出物	15		
授業態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・題材が、心理クイズやパズル、なぞなぞなど楽しめる内容なので、興味を持って英語に接して下さい。 ・語源の説明の時は、各自のイメージを最大限に活用して語彙力アップに努めて下さい。 ・学習した単語は意味だけでなく、その単語を使って英作出来る位まで使いこなすことを意識して下さい。 			
関連する本校の学習・教育目標			C
問い合わせ・質問先			1階教員室(103室)

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	授業概要、語源の説明	語源の内容を理解する。	
	第 2 週	英語で書かれた心理クイズの内容を理解し、回答する。 語源の説明。	vis, vid, view, vey (= 見る, 視) を含む単語を理解し習得する。	
	第 3 週		voc (= 呼ぶ, 声) を含む単語を理解し習得する。	
	第 4 週		dic, dict (= 言う, 言) を含む単語を理解し習得する。	
	第 5 週		spect (= 見る, 見) を含む単語を理解し習得する。	
	第 6 週	4 週間分の復習	既習の単語の定着を図り、習った単語を使用して英作する。	
	第 7 週	英語で書かれたなぞなぞを理解し、回答する。	log (= 言葉, 言) を含む単語を理解し習得する。	
	第 8 週	語源の説明。	manu, man (= 手, 手段) を含む単語を理解し習得する。	
-			-	
期	第 9 週	英語で書かれたジョークを理解する。	cap, chief (= かしら, 頭) を含む単語を理解し習得する。	
	第 10 週	語源の説明。	cor, cord (= 心臓, 心, 中心) を含む単語を理解し習得する。	
	第 11 週	4 週間分の復習	既習の単語の定着を図り、習った単語を使用して英作する。	
	第 12 週	英語で書かれたパズルの内容を理解し、解く。	ment, mon, min (= 心, 記憶, 思い) を含む単語を理解し習得する。	
	第 13 週	語源の説明。	cap (= 取る, 握る, 持つ) を含む単語を理解し習得する。	
	第 14 週	前期末テスト対策	前期学習範囲の理解。	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検。	
後 学	第 16 週	英語で書かれた Logical Puzzle の内容を理解し、回答する。	act (= 行う) を含む単語を理解し習得する。	
	第 17 週	語源の説明。	mov, mot, mob, mo (= 動く, 動) を含む単語を理解し習得する。	
	第 18 週	4 週間分の復習	既習の単語の定着を図り、習った単語を使用して英作する。	
	第 19 週	英語で書かれた世界ランキングの内容を理解し、回答する。 語源の説明。	ven, vent (= 来る) を含む単語を理解し習得する。	
	第 20 週		cede, cede, cess (= 行く) を含む単語を理解し習得する。	
	第 21 週		cept (= 取る, 受ける) を含む単語を理解し習得する。	
	第 22 週		se, sect, seg (= 分ける, 切り離す) を含む単語を理解し習得する。	
	第 23 週	4 週間分の復習	既習の単語の定着を図り、習った単語を使用して英作する。	
	-			-
	第 24 週	英語で書かれたクロスワードパズルを理解し、回答する。	tain (= 保つ) を含む単語を理解し習得する。	
	第 25 週	語源の説明。	fac, fec, fic (= 作る) を含む単語を理解し習得する。	
	第 26 週	英語で書かれたパースデーカードの内容を理解する。	sta (= 立っている, 立ち続ける) を含む単語を理解し習得する。	
第 27 週	語源の説明。	sist (= 立ちあがる, 立たせる) を含む単語を理解し習得する。		
第 28 週	4 週間分の復習	既習の単語の定着を図り、習った単語を使用して英作する。		
第 29 週	英語で書かれた迷信の理解と語源	ject (= 投げる) を含む単語を理解し習得する。		
第 30 週	前期末テスト対策	前期学習範囲の理解。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
4 th year Advanced English (CLE ²)			4 th Year Global Information Technology
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 4	1 & 2	Sarah Forbes & Nathan Lurie
Course Overview			
<p>In this course, students will gain important professional and English skills that will help them in their future careers as engineers. The course will combine hands-on projects lead by KTC students at local Junior High Schools and in-class projects and activities to improve students' English communication, comprehension and teamwork skills. At the end of the course, they will be able to define what it means to be a global engineer, present projects/presentations in an engaging manner, and reflect and improve on their own and their classmates' work. They will also be able to write written reflections in paragraph form outlining their learning.</p>			
<p>Keywords : teamwork, collaboration, project, engineering, constructive feedback, engage, reflection</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
N/A		Teacher Packet "Junior High School Projects" Hand-outs Online resources	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> • Journals will be assessed for depth and length, and rewritten entries for grammar and spelling using a rubric. • In-class activities will vary, being graded both by rubrics and through total questions/items completed. • Projects will be evaluated using rubrics, rubrics high-light teamwork, effort, preparation, physical skills, and final products. • Participation is graded from informal teacher observations throughout each semester, and communicated to students via rubric at the beginning of each semester. • There will also be self-assessments of effort and assignment completion. 	
Journals	20		
In-class activities	20		
Projects	40		
Participation/ Attitude/Effort	20		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Be on time and prepared • Be responsible and independent. You will have a lot of group projects, and you need to make sure you contribute to your group and make up missed work. • Ask questions when you don't understand: <i>"What do you mean?" "What should I do?" "Could you help me with this?"</i> • Be an active listener: make eye contact with the teacher, respond to class questions, and don't be afraid to speak up! • Support your classmates by helping them understand assignments and concepts. Give encouragement and helpful advice to classmates. • Enjoy yourself, have fun with learning! 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

	Week	Contents	Achievement Goals	Check
1st Semester	Week 1	Syllabus & Introductions	Introductions, team building activities, syllabus information hunt	
	Week 2	The Big Ideas & Weekly Journals	Why is engineering important? Why is English important? Discussion and introduction to journals	
	Week 3	Junior High School Projects	Introduction to the projects and KWL chart/ Weekly Journal	
	Week 4	Project Component: Hook	Forces and shapes project & choosing a good project hook / Weekly Journal	
	Week 5	Project Component: Prototype	Hands-on project to explain energy and prototypes & green energy extension/ Weekly Journal	
	Week 6	Project Component: Procedure	How can we give effective instructions to a human robot? How about an audience of Junior High School students?	
	Week 7	Project Component: Wrap-up	Complete hands-on project with a focus on conclusions.	
	Week 8	Project Component: Planning	Complete a project with a focus on project plan writing.	
	-			-
	Week 9	Project Component: Reflecting on Learning	Focus on reflecting on project experience to improve on project and learn from mistakes / Mini-lesson, English paragraphs	
	Week 10	Project Component: Exploring options.	Analyze various projects for their usability and interest levels	
	Week 11	Your Turn to Teach	Choose a “how-to” topic and prepare a lesson for your Classmates / Practice teaching language and techniques	
	Week 12	Junior High School (JHS) Projects	Determine project teams and choose projects/Introduce yourselves to the class	
	Week 13	JHS Projects: Review Concepts	Get into project teams and complete a review project jigsaw	
	Week 14	JHS Projects: Project Planning	Outline project plan: introduction, procedure and conclusion	
-			-	
Week 15	Self-evaluation/JHS Planning	Work towards a more detailed first draft of project plan		
2nd Semester	Week 16	JHS Planning	Hand in drafts of project plans for review, meet with teachers about plans	
	Week 17	JHS Planning: Materials	Organize materials, write out key words for speaking parts, practice	
	Week 18	JHS Planning: Rehearsal	Begin intensive speaking practice with teammates	
	Week 19	JHS Planning: KTC Trial	Teach your project to 1 st year KTC students for practice	
	Week 20	JHS Planning	Reflect on your trial run, adjust project plans	
	Week 21	JHS Planning	Final team practice	
	Week 22	JHS Visits	Visit a local junior high school and present your project!	
	Week 23	JHS Wrap-Up	Written reflections of learning on JHS projects	
	-			-
	Week 24	Introduction to Global Engineering	Complete activities to explore the meaning of “global engineer”	
	Week 25	Global Engineering Review	Review ideas of global engineering	
	Week 26	Global Engineering Project	Final project ideas and activities	
	Week 27	Global Engineering Project	Research and preparation	
	Week 28	Global Engineering Project	First drafts completed for review, begin note cards/practice	
	Week 29	Global Engineering Project	Revisions based on feedback, practice and rehearsal	
	Week 30	Global Engineering Expo	Open expo to teachers and classmates, present and host	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Complete questionnaire about this course		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Advanced English I (Computer)			4 th Year Global Information Technology
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	4	1 & 2	Bruce Gaylord
Course Overview			
<p>In this class, students will complete Microsoft Word, Microsoft PowerPoint and Microsoft Excel English activities and projects using the English programs. Students will start each application with simple exercises and progress step-by-step through increasingly difficult activities and projects. They will learn to use English search engines. They will make and present a hands-on project both semesters. They will do interactive online English activities. They will be introduced to several online “student tools.” They will make a personal English website.</p>			
<p>Keywords : Word, PowerPoint, Excel, Internet, Search Engine, Hands-on, Email, Oral Presentation</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
None		Instructor-designed handouts, electronic documents and online resources.	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Evaluation methods include: <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Word, PowerPoint and Excel activities and projects • Hands-on projects • Presentations • Internet searches • Web-based activities • Website design • Participation and attitude 	
Activities, Searches and Presentations	45		
Projects	45		
Participation and Attitude	10		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>This is an English computer class and students are expected to try their best to communicate in English and they are expected to use the English operating system at all times.</p> <p>Students should come to class with a positive attitude, ready to work to the best of their ability. Students are expected to finish assignments on time. If a student misses a class, he or she is expected to make up missed work. Students are encouraged to use a computer in the computer room after school to complete unfinished or missed activities.</p> <p>Students must keep an up-to-date file and bring it and a pencil/pen to every class.</p>			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-211	

Week	Contents	Achievement Goals	Check
Week1	Class syllabus, goals, mechanics	Student understands the syllabus and how class will be taught.	
Week2	Introduction to MS Word	Student can use toolbars and icons; save and move a document	
Week3	Word Activity	Student can start a new document and input information. Student can complete assigned activity.	
Week4	Introduction to Search Engines	Student can find information using an English search engine.	
Week5	Word Project	Student work in a group to plan and complete a project.	
Week6	Online Activity	Student can use educational, interactive online resources.	
Week7	Hands-on Activity	Student can work in a group and plan and complete a project.	
Week8	Introduction to MS Excel	Student can toolbars and icons and make a table and chart.	
-			-
Week9	Word Project	Student work in a group to plan and complete a project.	
Week10	Word Project Presentation	Student can plan and present a project to classmates.	
Week11	Word Project	Student can plan and complete a project.	
Week12	Word Project		
Week13	Online Tool Activity	Student can use educational on-line resources.	
Week14	Search engine Activity	Student can find information using search engines.	
-			-
Week15	Self-evaluation		
Week16	Introduction to MS PowerPoint	Student can use toolbars and icons; save and move a document	
Week17	PowerPoint Intro Activity	Student can start a new presentation and input information.	
Week18	PowerPoint Activity	Student can complete assigned activity.	
Week19	PowerPoint Project	Student work in a group to plan and complete a project.	
Week20	Online Activity	Student can use educational, interactive online resources.	
Week21	Hands-on Activity	Student can work in a group and plan and complete a project	
Week22	PowerPoint Project	Student work in a group to plan and complete a project.	
Week23	PowerPoint Project Presentation	Student can plan and present a project to classmates.	
-			-
Week24	Website Project	Student can research and design a personal website.	
Week25	Website Project		
Week26	Online Student Tool Activity	Student can use the User Interface and create content.	
Week27	Activity		
Week28	Online Student Tool Activity	Student can use the User Interface and create content.	
Week29	Activity		
Week30	Last day	School and teacher surveys.	
-			-
Week31	Self-evaluation/Closing		

1st Semester W

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Advanced English I (Conversation)			4 th Year Global Information Technology
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 3	1 & 2	Karina Lopez
Course Overview			
<p>This course is designed to give students many opportunities to listen to authentic English and to speak English through paired and small-group activities. Students can share their experiences, opinions and ideas with each other on a variety of interesting topics in order to improve fluency. Playing a number of TV game show-style games will provide fun fluency practice.</p>			
Keywords : English conversation course			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<i>Let's Chat</i> John Pak EFL Press		<i>Let's Chat</i> Class CD John Pak EFL Press	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Quizzes/ Tests: Written and/or oral vocabulary and grammar quizzes Class work: Book work, project work, and most importantly, genuine interaction with classmates and teacher Participation: Your contribution to a dynamic and positive classroom atmosphere (attendance, preparedness, effort, attitude, etc.)	
Quizzes / Tests	20		
Class work	50		
Participation	30		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come on time and prepared for every class. • Try to speak English and avoid using Japanese as much as you can. • Work well with your classmates – help each other out. • Ask a lot of questions to your classmates and teacher when you don't understand. • Relax and have fun. • If you are absent, please come see the teacher as soon as you return for make-up work. 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Unit 1, Getting Acquainted	Orientation; Introducing someone; Family, Preferences, Favorites	
	Week 2	Unit 1, Getting Acquainted	TV game show, <i>To Tell the Truth</i>	
	Week 3	Unit 2, Experiences	Talking about experiences; Talking about the past, School life	
	Week 4	Unit 2, Experiences	Ghost stories; Original projects	
	Week 5	Unit 3, Sports & Leisure	Talking about sports and leisure activities; Sport rules	
	Week 6	Unit 3, Sports & Leisure	Comparative/Superlative Potato Chip Taste Test	
	Week 7	Unit 4, Shopping & Money	Borrow/ recommend,/differences; Numbers, Money & Time	
	Week 8	Unit 4, Shopping & Money	TV Game Show: <i>The Price is Right</i>	
	-			-
	Week 9	Unit 8, Work	Part-time jobs, career plans, Interviewing; Good/bad points jobs	
	Week 10	Unit 8, Work	Summer Internship Discussion, Design/exchange business cards	
	Week 11	Unit 7, Movies & Television	Describing movies (<i>based on, directed by, stars, theme song, etc.</i>)	
	Week 12	Unit 7, Movies & Television	Talking about television, genre Make Summertime Word Cloud Fan	
	Week 13	Welcome Back, Unit 11, Music/Books	Talking about music and books and your favorite music/artist	
	Week 14	Unit 11, Music & Books	Sharing favorite song or book	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Review Games		
2 nd Semester	Week 16	Unit 5, Food	Talking about food, Describing Japanese food, Hawaiian food	
	Week 17	Unit 5, Food	5 Main Tastes Blindfold Taste Test; Potluck luncheon	
	Week 18	Unit 6, Travel	Making travel plans, Checking into a hotel, Making a complaint	
	Week 19	Unit 6, Travel	Country activity	
	Week 20	Singapore	Talking about Singapore; Poster Presentations to classmates	
	Week 21	Singapore	Follow-up to Singapore Trip	
	Week 22	Unit 9, Health	Talking about health and lifestyle, Giving advice; Exercise/fitness	
	Week 23	Unit 9, Health	Public Service Posters	
	-			-
	Week 24	Unit 10, Love & Marriage	Talking about love and marriage; Describing people; Invitations	
	Week 25	Unit 10, Love & Marriage	Love song(s)	
	Week 26	Holiday Celebrations	Christmas Video	
	Week 27	Unit 12, Culture & Places in Japan	Talking about Japanese culture/Prefectures	
	Week 28	Unit 12, Culture & Places in Japan	Japanese Culture Presentation to foreigner(s) living in Japan	
	Week 29	Unit 14, Review	The Question Game; Original role-play	
	Week 30	Unit 14, Review	Present original role-play; Trivia Quiz Game;	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Distractions Activity; Closing; Questionnaire		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
キャリアデザイン			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 1	集中	館 宜伸
科目概要			
<p>企業が技術系人材に望む要件は、基礎学力・技術力を備えていることは勿論であるが、その上で自律的・創造的であり、さらにコミュニケーションを通じて自らの考えを効果的に伝えることができることである。キャリアデザインでは、穴水湾自然学苑の静かな環境下において、修学などについて真剣に考え、明確に述べられるようにする。また、その過程を通じて、今後の進路を明確にするとともに、考える技術・書く技術・話す技術を学ぶ。</p>			
キーワード： 進路学習、キャリアデザイン			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「キャリアデザインノート」 配布プリント		「面接&エントリーシート」、高橋書店、坂本直文	科目：インターンシップ 資格：秘書検定 3級, 2級
評価方法			
評価項目	%	<p>下記の提出物について評価する。 聴講ノート ~ (各10点満点)、履歴書等(10点満点)、模擬面接(10点満点)。 (1) 学校集合からはじまり、第2日目17時まで本授業に参加した者について成績を評価する。この条件を満たさないものはF評価とする。ただし、特段の理由があるものについては、別途判断する。 (2) 上記の規定に関わらず、校則違反等により退苑を命ぜられた者の評価はFとする。 (3) 学習態度が不良な者については、その程度により減点する。減点が50を上回る場合もある。</p>	
提出物	60		
態度	20		
出席	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>本科目では、下記の事項について、研修し、将来の進路に活用する。 (1) 進路(就職・進学)決定準備の重要性と必要性を認識する。 (2) 進路決定に際し、自らを分析し表現できるようになる。 (3) 自らの現状を見定め、今後努力すべき点を明らかにする。 (4) 将来に向けて、今後の高専での修学を明確にする。 (5) 団体生活を通じ、「思いやりの心」を養い「マナー等」を体得する。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A, C	
問い合わせ・質問先		2階205室(地域連携教育センター)	

項目	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
後 学 期	1	オリエンテーション	緊急時における非常口の場所など安全の確保に関すること および研修期間中における基本的なルールなどについての 説明を体得する。	
	2	朝の集い	国旗・校旗の掲揚、体操および清掃分担の発表を行い、研 修に取り組む気持ちを新たにす。担当教員による5分間 講話を行なう。	
	3	夕べの集い	国旗、校旗の降納を行なう。担当教員による5分間講話を 行なう。	
	4	自己分析	自己分析について講義を受けるとともに聴講ノートを作成 する。これにより学生は、進路について真剣に考える契機 とするとともに、今回の合宿授業の意義を理解する。	
	5	応募書類対策	進路の応募書類対策について講義を受けるとともに聴講ノ ートを作成する。これにより学生は、進路について真剣に 考える契機とするとともに、今回の合宿授業の意義を理解 する。	
	6	コミュニケーション	コミュニケーションについて講義を受けるとともに聴講ノ ートを作成する。これにより学生は、進路について真剣に 考える契機とするとともに、今回の合宿授業の意義を理解 する。	
	7	面接対策	面接対策について講義を受けるとともに聴講ノートを作成 する。これにより学生は、進路について真剣に考える契機 とするとともに、今回の合宿授業の意義を理解する。	
	8	履歴書・自己紹介書作成	仮の就職希望先企業を設定し、履歴書・自己紹介書を作成 する。これにより、技術者を指すものとしての自分を、 文章で客観的に表現できることを目指す。	
	9	模擬面接	面接の受け方について説明を受けた後、各班別に模擬面接 を受け講評を得る。これにより面接のマナーを身につける とともに、技術者を指すものとしての自分を、その熱意 を、言葉で表現できることを目指す。	

平成 2 4 年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報数学			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	井上恵介
科目概要			
<p>情報量とは情報を量でとらえたものである。情報量は、情報の伝達や処理を効率良く高い信頼性を伴って行う技術に理論的基礎を与える。本講義ではまず、集合論や組合せ論などの離散数学および確率論の基礎を学習し、数学的準備を行う。そのうえで情報量の定義と性質について学び、さらに情報量と深い関係にあるエントロピーなどの基礎概念を学習する。さらに、シャノンが提案した通信系のモデルや情報源といった基本的諸概念、効率や信頼性を高めるための符号化法について学ぶ。</p>			
キーワード： 確率，情報量，エントロピー，通信系モデル，符号理論			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「情報数理の基礎と応用」，尾畑 伸明，サイエンス社 「新版 情報理論の基礎」，村田 昇，サイエンス社		科目：情報数学 ， 情報・統計理 論 資格：	
評価方法			
評価項目	%	定期試験は演習も含めた通常の授業の成果を確認することを目的とする。 小テストは單元ごとの理解の確認を目的とする。 授業態度や出席状況が不良の者については減点を行う。	
定期試験	50		
小テスト	50		
出席状況	欠課 1 回(50分)につき，2 点減 点。遅刻 1 回につき，1 点減点		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>ノートはしっかりととり、自己の学習に利用してください。 質問は遠慮なく、いつでもしてください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	D		
問い合わせ・質問先	2 階 2 1 0 室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	集合	集合の定義，基礎概念を理解でき，集合の演算，分配法則，ド・モルガンの法則を用いた計算ができる．	
	第 2 週			
	第 3 週	順列，組み合わせ，二項定理	定義を理解し，基本公式を計算できる．	
	第 4 週	群・半群・モノイド	二項演算，群，半群，モノイドの定義を理解し，計算できる．	
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週	確率論の基礎(1)	試行と事象，確率を理解でき，計算できる．	
	第 8 週	問題演習と小テスト	第 1 週から第 7 週までの内容に習熟する．	
-	前期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	確率論の基礎(2)	条件付き確率，ベイズの定理の意味，確率変数の基礎概念を理解でき，計算できる．	
	第 10 週			
	第 11 週	期待値，分散，標準偏差	期待値，分散，標準偏差を計算できる．	
	第 12 週			
	第 13 週	情報量	情報量が何かを理解できる．	
	第 14 週	問題演習と小テスト	第 9 週から第 13 週までの内容に習熟する．	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学	第 16 週	エントロピー	エントロピーが何かを理解でき，計算ができる．	
	第 17 週			
	第 18 週	通信系のモデル	シャノンの通信系モデルを理解できる．	
	第 19 週	情報源	情報源が何かを理解でき，計算ができる．	
	第 20 週			
	第 21 週	通信路	通信路のモデルについて理解できる．	
	第 22 週	符号化の基礎	符号化の基礎概念を理解できる．	
	第 23 週	問題演習と小テスト	第 16 週から第 22 週までの内容に習熟する．	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	効率の良い符号化	シャノンの第一定理の意味，効率の良い符号化を理解でき，簡単な符号化法を計算できる．	
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週	雑音のある場合の符号化	シャノンの第二定理の意味を理解できる．	
	第 28 週	誤り検出，訂正可能な符号化法	誤り検出，誤り訂正の意味について理解し，簡単な符号化法について計算できる．	
第 29 週				
第 30 週	問題演習と小テスト	第 24 週から第 29 週までの内容に習熟する．		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について，自己点検評価する．		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
システム制御			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	田村景明
科目概要			
<p>コンピュータはあらゆる分野において活用されており、この授業を通じて、情報技術のみならず、メカトロニクス分野について機械、電気・電子技術など幅広い分野を学ぶことによって、広い視野で物事を考えることができるようにする。また、理解を深めるため、必要に応じて実験をおこなう。</p>			
<p>キーワード：メカトロニクス，製図，CAD，センサ，アクチュエータ，A/D，D/A，arduino，C言語</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「最新メカトロニクス入門」，舟橋宏明，実教出版 配付資料</p>		<p>「Arduinoをはじめよう」，Massimo Banzi（著），船田巧（訳），オライリー・ジャパン</p>	<p>科目：・システム制御 ・計算機システム 資格：・組み込みソフトウェア技術者試験</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>欠課1回（50分授業）につき，2点減点する。 遅刻，早退それぞれ1回につき，1点減点する。 授業態度不良学生は評価項目に関係なく，減点する。</p>	
中間試験（2回）	35		
定期試験（2回）	35		
小テスト	10		
課題・宿題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をしっかりとすること。 ・質問があるときはその都度応じる。しかし，放課後は部活動指導その他の用事で不在となる時間帯も多いため，なるべく予約すること。 ・ノートを用意すること。 			
関連する本校の学習・教育目標		E，B	
問い合わせ・質問先		2階210号室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	ガイダンス, 概論	メカトロニクスの概要を理解する。	
	第 2 週	製図	製図の意義を理解する。	
	第 3 週	投影図	投影図を理解する。	
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週	立体的な図示法	等角図を理解する。	
	第 7 週		テクニカルイラスト, 展開図を理解する。	
	第 8 週	CADの基本操作。まとめ。	CADを理解する。第1週目～第8週目までまとめる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
期	第 9 週	機械の運動と機構	機械の運動と機構を理解する。	
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週	センサの基礎	メカトロニクスとセンサの関係を理解する。	
	第 13 週	機械量を検出するセンサ	ポテンシオメータを理解する。	
	第 14 週	物体を検出センサ。まとめ。	物体検出センサを理解する。第9週目～第14週目をまとめる	
	-	前学期定期試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	試験返却。確認する。	
後 学	第 16 週	その他のセンサ	温度センサ, 光センサを理解する。	
	第 17 週	マイコン開発環境	マイコンarduino開発環境を理解する。	
	第 18 週	デジタル入出力の基礎	LED点灯, スイッチ入力を理解する。	
	第 19 週	その他のデジタル入力	光センサを理解する。	
	第 20 週	アナログ入力	<ul style="list-style-type: none"> ・ポテンシオメータを理解する。 ・温度センサを理解する。 ・赤外線センサを理解する。 	
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週	まとめ	第16週目～第22週目をまとめる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	アクチュエータの基礎	アクチュエータを理解する。	
	第 25 週	駆動回路	トランジスタとリレーの利点・欠点を理解する。	
	第 26 週	アクチュエータの利用	直流モータを理解する。	
	第 27 週	駆動回路実験	トランジスタ, リレー駆動を理解する。	
	第 28 週	直流モータ実験	直流モータ制御を理解する (PWM制御: 疑似アナログ出力)。	
第 29 週				
第 30 週	まとめ	第24週目～第29週目までをまとめる。		
-	後学期定期試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	試験返却。確認する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
計算機システム			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	元木光雄
科目概要			
<p>マイクロコンピュータの基本的構成と動作の仕組みを理解する。まず、論理回路の基礎を学び、論理素子や演算回路、記憶素子などの理解を深める。その上で、マイクロコンピュータの構成要素と動作原理を学ぶ。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「アセンブリ言語スタートブック」, 高田美樹, 技術評論社	「試しながら学ぶAVR入門」, 土井, CQ出版 「すぐわかる! 組込み技術教科書」, 香取・立田, CQ出版	科目：計算機システム , システム制御 資格：基本情報技術者試験, 組込みソフトウェア技術者試験	
評価方法			
評価項目	%	<p>評価項目と独立に、学習態度評価を以下のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠課1回(50分授業)につき、2点減点 遅刻、早退それぞれ1回につき、1点減点 授業態度不良学生は評価項目に関係なく、減点 <p>提出物の遅れは、1週間毎に10%ずつ減点する</p>	
中間試験	30		
期末試験	30		
演習・課題	30		
小テスト	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>携帯電話や家電製品などでは、コンピュータの内部でプログラムがどのように動いているのかを意識しないと、安価で性能の良い製品は作れません。この講義ではその基礎知識を扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中にきちんとノートをとること (「ノートをとる」ということは「黒板をそのまま書き写す」ことではない) 復習をしっかりと行うこと。わからない場合には、教科書やノート、参考資料をよく調べ、それでもわからない場合にはきちんと質問すること 実験では、教科書や配布資料をしっかりと読み、何をしているのか理解して実験を行うこと。ただ実行するだけでは何の意味もありません 			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	2階211室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ガイダンス	講義の目的を理解する	
	第 2 週	論理回路の基礎	数を 2 進数で表現できる ブール代数が何かわかる 論理素子と簡単な論理回路の真理値表を計算できる	
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週	演算回路	半加算器・全加算器の真理値表を計算できる A L U を理解できる	
	第 7 週	記憶素子とメモリ	フリップフロップの動作を理解できる メモリの構成とデータの指定方法を理解する	
	第 8 週			
-	前期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	計算機の構成	計算機の構成を理解できる	
	第 10 週			
	第 11 週	機械語とアセンブラ	機械語, アセンブラ, アセンブリ言語を説明できる	
	第 12 週	アセンブラ演習 1	簡単なアセンブリプログラムの動作を理解できる	
	第 13 週			
	第 14 週			
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	達成度の自己点検を行う	
後 学 期	第 16 週	アセンブラ演習 2	サブルーチンコールの動作を理解できる	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週	マイコン実験 1	実際のマイコンでアセンブリプログラムを動作できる	
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週	マイコン実験 2	I O レジスタの使い方を理解できる	
	第 23 週			
	-	後期中間試験	(試験)	-
	後 学 期	第 24 週	マイコン実験 3	簡単な C 言語プログラムの動作を理解できる 実際のマイコンで C 言語プログラムを動作できる
		第 25 週		
		第 26 週		
		第 27 週	割り込み	割り込みの概念を理解する
		第 28 週		
第 29 週		マイコン実験 4	実際のマイコンで割り込みを用いたプログラムを動作できる	
第 30 週				
-		学年末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	達成度の自己点検を行う		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
コンピュータ演習			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	館 宜伸
科目概要			
<p>代表的なオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaの基礎を学習する。プログラミングで必要とされるファイル操作や文字列操作を中心に展開していく。また、利用するためのインターフェイスであるCUIとGUIの2種類の実践的な作成技法の習得を目指す。</p>			
<p>キーワード： Java言語, Eclipse, ファイル入出力, 文字列操作, CUI, GUI</p>			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「Java 2 アプリケーションづくりの初歩」, 三谷純, 翔泳社	「Java言語プログラミングレッスン下」, 結城浩, SoftBank Creative	科目：コンピュータ演習 , コンピュータ演習 資格：Javaプログラミング能力認定試験	
評価方法			
評価項目	%	成績は、評価項目に従って評価する。 なお、欠課1回(50分)につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な資料を忘れた場合も1点減点とする。	
定期試験	60		
課題	40		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>演習や実験中に発生したトラブルの対処は、良い経験になります。ただし、なぜトラブルが発生したのか、何が原因だったのか?などを自分で調査・発見にチャレンジしてください。また、原因やその解消方法などが判明したら、発生内容とともに記録しておきましょう。分析せずに適当に解決しただけでは次回同じ現象が発生しても解消できなくなります。コンパイルエラー会場よりも実行時エラー解消の方が難しいとは思いますが、あきらめずに取り組んでください。</p> <p>受講上の注意を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアの使い方など教科書に+ の内容を記録できるようにノートを用意すること 2. 課題の提出期限は必ず守ること 3. 演習・課題には納得するまで取り組むこと 4. 無断で席や教室から離れないこと 			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	2階207室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	ガイダンス	本授業の目的を理解できる	
	第 2 週	データ型・演算子・制御構文	基本型・参照型などの違いを理解できる	
	第 3 週	メソッド・配列	メソッドの仕組みを理解でき、適切にメソッド化できる	
	第 4 週	オブジェクト指向	オブジェクト指向の概念を理解できる	
	第 5 週	インスタンス・カプセル化	インスタンス生成やカプセル化を理解できる	
	第 6 週	コンストラクタ・継承	継承の概念や仕組みを理解できる	
	第 7 週	オーバーライド・抽象クラス	抽象クラスやインターフェイスを理解できる	
	第 8 週	継承と委譲	継承と委譲の違いを理解できる	
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	例外処理	例外処理の仕組みを理解し、適切にプログラミングできる	
	第 10 週			
	第 11 週	パッケージ	Javaのパッケージを理解できる	
	第 12 週	コレクション・フレームワーク	コレクション・フレームワークを理解できる	
	第 13 週			
	第 14 週	ファイル操作	ファイルやフォルダを作成するプログラムを作成できる	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検	
	後	第 16 週	ファイル入出力	ファイルヘデータを入出力できる
第 17 週				
第 18 週		文字列操作	ファイルの文字列を操作して、必要なデータを抽出できる	
第 19 週				
第 20 週				
第 21 週		CUI	コマンドライン入力による実行制御プログラムが作成できる	
第 22 週				
第 23 週				
-		後学期中間試験	(試験)	-
学		第 24 週	GUI	フレームの作成方法、ラベルやボタンの配置などの方法がわかる
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週	イベント処理の概念が理解できる		
	第 28 週	応用	オリジナルのプログラムを作成し、これまでの内容を定着させる	
	第 29 週			
	第 30 週			
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と就学成果について、自己点検評価する		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
創造実験			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	後	今澤明男、井上恵介
科目概要			
<p>実社会において情報技術で問題解決をはかる際に必要となる技術ならびに能力を育成する。そのために、問題の発見・問題の本質の把握から始め、情報技術を活かした解決方策の提案、解決のための具体的システムやソフトウェア等の設計・開発、方策の評価の一連のプロセスを、グループ活動を通じて体験する。これにより、創造的情報技術者に必要な分析力・構想力・コミュニケーション能力・管理能力を涵養する。</p>			
キーワード： 問題解決、ソフトウェア開発、オブジェクト指向、アジャイル開発			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
指定せず	<p>「なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか」小森裕介、技術評論社 「アジャイルサムライ 達人開発者への道」J. Rasmusson、オーム社</p>	科目：システム開発演習 資格：Javaプログラミング能力認定試験	
評価方法			
評価項目	%	成果物としてのソフトウェア、プレゼンテーション、報告書について評価し成績を算出します。 成果物、プレゼンテーションについては、原則としてはチームで同一評価とします。ただし、チームへの貢献度が非常に低い（または高い）場合は、それを考慮します。 報告書はチームで提出するものと個人で提出するものの2種類を要求します。チームで提出したのものについては原則としてチームで同一評価としますが、個人で提出したのものについては個人別に評価します。	
成果物	30		
プレゼンテーション	20		
チーム報告書	20		
個人報告書	20		
出席	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発を「問題解決」の視点からとらえます。単なるソフトウェア開発の授業ではないことに注意してください。 限られた資源と時間の中で有効なソフトウェアを開発する方法、すなわち「アジャイル開発」の考えも学びます。単なるソフトウェア作りを学ぶのではなく、柔軟で効率的な仕事のやり方を身につけるつもりで受講してください。 どのようにすれば自チームを「創造的な開発チーム」にできるかも課題のひとつです。この点にも留意して受講してください。 実装はJavaを用いることを想定しています。常にJavaの参考書を携帯してください。また、システム開発演習の教科書も携帯してください。 当科目は実験科目です。したがって、受講者は必ず学科指定の作業着を着用してください。 			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	2階206室(今澤)		

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前 学 期	第 1 週			
	第 2 週			
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週			
	-			-
	第 9 週			
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週			
-			-	
第 15 週				
後 学 期	第 16 週			
	第 17 週	問題の発見と整理ならびに情報技術による解決策の提案	コンピュータ・ソフトウェアで解決可能な問題を発見し整理するとともに、解決策を作り発表する。	
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週	ユーザストーリーの作成と整理	提案するソフトウェアの要件をリストアップし、重要性、実現可能性、開発の効率性の見地から評価し整理する。	
	第 21 週	モデリング	実用のための必要最小限の要件を満たすソフトウェアのモデリングを、オブジェクト指向に基づいて行う。	
	第 22 週			
	第 23 週	実装	モデリングをもとに実装を行う。	
	-			-
	第 24 週	実装と評価	実装を終了させ、評価を行う。	
	第 25 週	中間プレゼンテーション	第 1 イテレーションの結果を発表する。	
	第 26 週			
	第 27 週	第 2 イテレーション	第 1 イテレーションの成果物を改良する。	
	第 28 週			
	第 29 週	最終プレゼンテーションと報告書提出	第 2 イテレーションの成果をもとに、最終のプレゼンテーションを行うとともに報告書を提出する。	
第 30 週				
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	プレゼンテーションの評価等をもとに学修成果を自己点検する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
システム開発演習			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前	今澤明男、井上恵介
科目概要			
<p>ソフトウェア開発モデルに沿った開発プロセスを、演習を通して体験することにより、コーディング・アンド・デバッグ方式のプログラム作成からの脱却を図る。また、体験を通じてオブジェクト指向の基本的な考え方を体得し、応用できるようにする。さらに、グループ活動を通じて、技術的コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力、チームスピリットを育む。</p>			
<p>キーワード： ソフトウェア開発、Java、オブジェクト指向、モデリング、フレームワーク</p>			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか」小森裕介、技術評論社	「アジャイルサムライ 達人開発者への道」J. Rasmusson、オーム社	科目：コンピュータ演習、創造実験 資格：基本情報技術者、Javaプログラミング能力認定試験	
評価方法			
評価項目	%	演習科目ではあるが、定期試験ならびに中間試験も行い評価する。 普段の出欠・演習態度が不良の場合は、最大50点の減点をする。遅刻・早退も減点の対象とする。	
前学期中間試験	30		
前学期末試験	30		
演習課題	40		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 当科目は、オブジェクト指向によるソフトウェア開発について、演習を通じて理解を深めるものである。したがって、演習には積極的に取り組むこと。 2) 教科書は、独習を念頭に執筆されている。したがって予習・復習が容易である。予習・復習を欠かさないこと。 3) 授業時は、当科目の教科書とともに、自らにあったJavaのテキストを持参すること。 			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	2階206室(今澤)		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	オブジェクト指向の必要性	オブジェクト指向の利点と必要性を理解する。	
	第 2 週	オブジェクト指向でのソフトウェア開発	簡単なソフトウェア開発を体験し、開発プロセスの基礎を理解する。	
	第 3 週			
	第 4 週	オブジェクト指向でのプログラム拡張	継承を用いたプログラムの拡張を体験し、理解する。	
	第 5 週	ソフトウェアの振る舞いの変更	インタフェースを用いた拡張性の高いプログラムの作成を体験し、理解する。	
	第 6 週	複雑なソフトウェアの作成	やや複雑なソフトウェア開発を体験し、オブジェクト指向での開発プロセスの全体像を理解する。	
	第 7 週			
	第 8 週	復習	第 7 週までの内容を復習し、理解を深める。	
	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	既存のソフトウェアの再利用	似たようなソフトウェアを効率良く開発する際の基本的考え方と注意点を、体験により理解する。	
	第 10 週	再利用を考慮したソフトウェアの設計	似たような問題を抽象化してモデリングし、様々なソフトウェアに利用できるようにしたもの、すなわち「フレームワーク」の作り方を、体験を通じて理解する。	
	第 11 週			
	第 12 週	フレームワークを利用したソフトウェア開発	フレームワークを利用したソフトウェア開発を体験し、フレームワークの作り方と有用性を理解する。	
	第 13 週			
	第 14 週	復習	第 13 週までの内容を復習し、理解を深める。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却と解説をもとに、修学結果を点検し、自己評価する。		
後 学 期	第 16 週			
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-			-
	第 24 週			
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
	第 28 週			
	第 29 週			
	第 30 週			
	-			-
第 31 週				

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報システムI			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	藤澤 武
科目概要			
<p>高度な情報化社会となった今日、情報処理システムが扱うデータの量は膨大であり、かつ、データ量は加速度を増して日々増大している。データ処理の中心的役割を担うデータベースの役割は重要なものとなってきている。</p> <p>本科目では、リレーショナルデータベースを中心にデータベースの概論とSQL言語を学ぶ。また実習を通して実務的かつ効率的なデータベースシステムを構築する技術の修得をはかる。</p>			
キーワード： データベース，MySQL，正規化			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「改定新版 これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎」，谷尻かおり，技術評論社	「かんたんUML」，オージス総研	科目：ソフトウェア工学 資格：データベーススペシャリスト，Oracleマスター	
評価方法			
評価項目	%	<p>定期試験は事前に告知した閾値に得点が届かなかった学生を対象に再テストを行うことがある。</p> <p>実習課題は未提出の場合は0点とし、提出された課題の平均点を演習課題の成績とする。学年成績は、各学期分を平均し、総合評価する。</p> <p>総合評価時やむを得ない場合、準備期間をおいた後、1回のみ再テストを行う。</p> <p>学習態度の評価として以下の行為1回につき2点の減点を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻 途中退席 指示に従わない 授業の進行を妨害する行為 <p>その他、授業態度として不適切と判断される態度や行為</p>	
定期試験	50		
実習課題	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>データベースは実社会で最も利用されているソフトウェアの一つです。多くの分野でデータベースの知識は必要となりますのでしっかり理解してください。授業は実習を中心に行います。わからないことは必ず質問して授業中に解決するようにしてください</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E，B		
問い合わせ・質問先	2階209室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前期	第 1 週	オリエンテーション			
	第 2 週				
	第 3 週	オペレーション実習	サンプルアプリケーションのデータベース仕様を理解し、操作できるようになる。また、データベースの基本的な運用方法を学び、バックアップや復元ができるようになる。		
	第 4 週				
	第 5 週				
	第 6 週				
	第 7 週	SQL概説	SQLの基本的な文法と操作方法を理解する。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 8 週				
学	-	前学期中間試験	(試験)	-	
中期	第 9 週	インプリメント実習	データベースのモデリングを理解し、モデル通りにデータベースが構築できるようになる		
	第 10 週				
	第 11 週				
	第 12 週				
	第 13 週	SQL概説	高度なSQLの文法と操作方法を理解する。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 14 週				
	学	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検		
後期	第 16 週	デザイン実習	正規化を理解し、仕様書に基づいてデータベースのモデリングができるようになる。また、データベースモデルからデータベースが構築できるようになる		
	第 17 週				
	第 18 週				
	第 19 週				
	第 20 週	インプリメント実習	要求定義から始まるすべての工程を実際におこない、データベースを用いたアプリケーションを作成する		
	第 21 週				
	第 22 週				
	第 23 週	-	後学期中間試験	(試験)	-
後期	第 24 週	オペレーション実習	大規模なデータを扱うデータベースを構築して実際に運用を行う。実社会のシステムに近いデータベースの運用方法を身につける。		
	第 25 週				
	第 26 週				
	第 27 週				
	第 28 週	データベース概論	実習の復習を行いデータベースの基本的な知識への理解を深める。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 29 週				
	第 30 週				
	学	-	後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説及び自己点検			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報システム			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	元木光雄
科目概要			
<p>プログラムを作る際には、どのようにデータを格納するかということやデータの処理をどのように行うかということを考えなければならない。どのような方法を用いるかによってプログラムの性能が著しく異なることもある。本講義では、データの格納方法であるデータ構造と、処理手順すなわちアルゴリズムとを学習する。</p>			
キーワード： データ構造，アルゴリズム			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「データ構造とアルゴリズム」，杉原厚吉，共立出版		「アルゴリズム」のキホン」，杉浦賢，ソフトバンククリエイティブ	科目： 資格：基本情報技術者
評価方法			
評価項目	%	<p>評価項目と独立に、学習態度評価を以下のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠課1回(50分授業)につき、2点減点 遅刻、早退それぞれ1回につき、1点減点 授業態度不良学生は評価項目に関係なく、減点 <p>提出物の遅れは、1週間毎に10%ずつ減点する</p>	
中間試験	25		
期末試験	25		
演習・課題	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>データ構造とアルゴリズムは、効率的なプログラムを作成するための重要な概念です。「問題をどのように定式化し、どのように解くかを考える」という論理的なパズルを楽しめるようになってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中にきちんとノートをとること (「ノートをとる」ということは「黒板をそのまま書き写す」ことではない) 復習をしっかりと行うこと。わからない場合には、教科書やノート、参考資料をよく調べ、それでもわからない場合にはきちんと質問すること 			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		2階211室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	ガイダンス	アルゴリズムとプログラムの違いを理解し，記述を理解する	
	第 2 週	入力と出力	様々な問題に対する入力と出力を理解する	
	第 3 週	配列	配列の概念を理解する	
	第 4 週		配列に対するアルゴリズムの動作を行える	
	第 5 週	アルゴリズムの性能	アルゴリズムの性能評価基準と，オーダー表記を理解する	
	第 6 週	ソートアルゴリズム	データを整列（ソート）するアルゴリズムを考えられる	
	第 7 週		基本的なソートアルゴリズムの動作を行える	
	第 8 週	線形リスト	リスト構造の必要性を説明でき，操作ができる	
学	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	線形リスト構造	リスト構造を用いたアルゴリズムの動作を行える	
	第 10 週		スタックとキューの操作を行える	
	第 11 週	木構造	木構造を理解し，構築を行える	
	第 12 週		木構造の操作ができる	
	第 13 週		木構造を用いたアルゴリズムの動作を行える	
	第 14 週	卒業研究中間発表聴講	卒業研究でどのようなことが行われているか調査する	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検・再帰呼び出し	達成度の自己点検を行う．再帰呼び出しの概要を理解する	
	後	第 16 週	再帰呼び出し	再帰呼び出しを用いたアルゴリズムの動作を行える
第 17 週		再帰呼び出しを用いたアルゴリズムの設計を行う		
第 18 週		分割統治法	分割統治法の概要を理解する	
第 19 週			分割統治法を用いたアルゴリズムの動作を行える	
第 20 週			分割統治法を用いたアルゴリズムの設計を行う	
第 21 週		グラフ	グラフの構造を理解できる	
第 22 週			グラフ上の簡単なアルゴリズムの動作を行える	
第 23 週			グラフ上の問題とアルゴリズムを考えることができる	
-		後期中間試験	(試験)	-
学		第 24 週	貪欲法	貪欲法の概要を理解する
	第 25 週	貪欲法を用いたアルゴリズムの動作を行える		
	第 26 週	貪欲法を用いたアルゴリズムの設計を行う		
	第 27 週	動的計画法	動的計画法の概要を理解する	
	第 28 週		動的計画法を用いたアルゴリズムの動作を行える	
	第 29 週	卒業研究学年末発表会聴講	卒業研究でどのようなことが行われているか調査する	
	第 30 週	動的計画法	動的計画法を用いたアルゴリズムの設計を行う	
	-	学年末試験	(試験)	-
	第 31 週	自己点検自己評価	達成度の自己点検を行う	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
メディア情報			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	元木光雄
科目概要			
<p>コンピュータの発達により、画像処理やコンピュータグラフィックスは幅広い分野において大きな役割を担っている。本講義では、画像処理技術やコンピュータグラフィックス技術の基礎をJava言語によるGUIのプログラミングを通じて学ぶ。</p>			
<p>キーワード： GUI , Swing , 画像処理 ,</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
指定なし		<p>「Java 2」, 三谷純, 翔泳社 「ビジュアル情報処理」, CG-ARTS協会</p>	<p>科目：メディア情報 , コンピュータ演習 資格：Javaプログラミング能力認定試験 , C Gエンジニア検定</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>評価項目と独立に、学習態度評価を以下のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠課1回(50分授業)につき、2点減点 遅刻、早退それぞれ1回につき、1点減点 授業態度不良学生は評価項目に関係なく、減点 <p>提出物の遅れは、1週間毎に10%ずつ減点する</p>	
中間試験	25		
期末試験	25		
課題・演習	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 参考書 (コンピュータ演習 の教科書) を必ず携帯すること 他人 (webに掲載されているものを含む) のプログラムをコピーしても、実力はつきません。他人のプログラムは参考にとどめ、自分で考えながら、自力でプログラムを作るようにしてください。 コンピュータグラフィックスの作成を楽しんでください。 			
関連する本校の学習・教育目標		E , B	
問い合わせ・質問先		2階211室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	ガイダンス	メディア情報 ・ を通じた最終目標を理解する	
	第 2 週	JavaでのGUIプログラミング基礎	S w i n gを用いたフレームの作成ができる	
	第 3 週			
	第 4 週	光と色	コンピュータでの色の表現を理解し, Javaで色を扱える	
	第 5 週	画像の扱い	コンピュータでの画像の扱いと解像度・階調を理解する	
	第 6 週	画像フォーマットの種類	よく使われる画像フォーマットを理解する	
	第 7 週	画像の読み込み	画像ファイルを表示するプログラムを作成できる	
	第 8 週	Java2Dでの描画	Java2Dによる図形描画を行える	
学	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	Java2Dでの描画	様々な曲線を理解できる	
	第 10 週	ビットマップキャラクタ	ビットマップキャラクタのプログラムを作成できる	
	第 11 週		オリジナルのビットマップキャラクタを作成する	
	第 12 週	画像フォーマットの詳細	簡単な画像フォーマットの内部構造を理解する	
	第 13 週		画像ファイルを出力するプログラムの作成ができる	
	第 14 週	卒業研究中間発表聴講	卒業研究でどのようなことが行われているか調査する	
	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検・発表	達成度の自己点検を行う	
	後	第 16 週	画像処理	画像の拡大・縮小・回転が理解できる
第 17 週		補間の原理が理解できる		
第 18 週		画像の拡大・縮小・回転を行うプログラムの作成ができる		
第 19 週		画像処理	画素ごとのフィルタを理解する	
第 20 週			空間フィルタを理解する	
第 21 週			画像処理を行うプログラムの作成ができる	
第 22 週		Javaによるアニメーション	簡単なタイマーを使ったプログラムを作成できる	
第 23 週			移動を用いた簡単なアニメーションプログラムを作成できる	
-		後期中間試験	(試験)	-
学		第 24 週	アニメーション作品の作成	作品のアイデアをまとめることができる
	第 25 週	作品をプログラムとして表現できる		
	第 26 週			
	第 27 週	3 D C Gの基礎	3 D C Gモデリングの基礎を理解する	
	第 28 週		簡単な3 D C Gモデリングを行える	
	第 29 週	卒業研究学年末発表会聴講	卒業研究でどのようなことが行われているか調査する	
	第 30 週	3 D C Gの基礎	3 D C Gを表示するための簡単なプログラムを作成する	
	-	学年末試験	(試験)	-
	第 31 週	自己点検自己評価	達成度の自己点検を行う	

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
エンジニアリングマネジメントa			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前	小高有普
科目概要			
<p>発想内容の視覚化やコミュニケーションツールとして有効なスケッチスキルを習得する。エンジニアの発想にはモノとコトがあり、これらを自由に表現するための理論的フリーハンド描画方法を学ぶ。後半では習得したスキルを活かし、感性表現・伝達の訓練で実践的スキルの変換を目指す。</p>			
キーワード： コミュニケーションドローイング、エンジニアリングデザイン、デザインシンキング			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「アイデア・ドローイング 第2版」, 中村純生, 共立出版		なし	科目： 資格：
評価方法			
評価項目	%	<ol style="list-style-type: none"> 基礎演習課題の理解度を小テスト、成果課題として評価する。 基礎を理解したうえで、アイデアを本手法で表現し、習得しているかを作品として評価する。 未提出課題は減点評価される。 エンジニアリングマネジメントの学年成績はエンジニアリングマネジメントaとエンジニアリングマネジメントbの成績の平均とする。 	
演習・課題	15		
小テスト	20		
成果課題	20		
作品	30		
学習態度	15		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>・ドローイングの理解 エンジニアが発想や伝達をする際の有効性。 「形あるモノ」から「形のないコト」までを図で描き表わすことで、専門性を問わず誰にでも容易に伝達ができる手法。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		B, E	
問い合わせ・質問先		2階207室小高まで	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	コミュニケーションドローイングについて	図（ドローイング）による発想の記録と情報伝達の有効性を知る	
	第 2 週	表現法	立体物の構造把握ができる	
	第 3 週	表現法	立体物を観察し、デッサンができる	
	第 4 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 1 を提出できる	
	第 5 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 2 を提出できる	
	第 6 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 3 を提出できる	
	第 7 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 4 を提出できる	
	第 8 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 5 を提出できる	
	-			-
	第 9 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 6 を提出できる	
	第 10 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 7 を提出できる	
	第 11 週	表現法演習	立体の表現手法を理解し、演習 8 を提出できる	
	第 12 週	製品開発	現状商品の把握とアイデア抽出	
	第 13 週	製品開発	アイデアを表現できる	
	第 14 週	製品開発	他者に作品のアドバイスを受けて改善する	
-			-	
第 15 週	自己点検	最終課題の合評および自己点検		
後 学 期	第 16 週			
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-			-
	第 24 週			
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
	第 28 週			
	第 29 週			
	第 30 週			
-			-	
第 31 週				

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
エンジニアリングマネジメントb			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	後	館 宜伸
科目概要			
<p>ソフトウェア開発は単にプログラミング（コーディング作業）だけではなく、問題提起から始まり、テスト・納品までを含んでいる。むしろ、プログラミングは全工程の3割～4割といわれている。残る大半の割合であるプログラミング以外の工程を講義形式で行う。ものづくり開発で取り入れられている一連の工程などに対して、現在も必要とされている理由などを中心に議論するなどの演習も行う。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
指定なし	「ソフトウェア工学入門」，河村一樹，近代科学社	科目：ソフトウェア工学 資格：基本情報技術者	
評価方法			
評価項目	%	<p>成績は、評価項目に従って評価する。 エンジニアリングマネジメントの学年成績はエンジニアリングマネジメントaとエンジニアリングマネジメントbの成績の平均とする。 なお、欠課1回（50分）につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な物を忘れた場合も1点減点とする。</p>	
定期試験	60		
課題	20		
報告書	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>演習・実験は自ら積極的に参加し、十分に悩み、決定してください。実社会でも同様ですが、仕事・作業としてやらされていると感じてしまうと、何も身に付かず、辛いだけになってしまいます。率先して取り組んで、さらに喜びや楽しみを感じてください。仕事上の苦労や達成には、自分一人の力や努力だけではどうにもならないことが多く存在します。他人の存在の問題と重要性、チームの士気や健康などが、トラブルや達成感などに左右されることも学んでください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	B，E		
問い合わせ・質問先	2階207室		

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前 学 期	第 1 週			
	第 2 週			
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週			
	-			-
	第 9 週			
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週			
-			-	
第 15 週				
後 学 期	第 16 週	ガイダンス	授業の目標を理解する	
	第 17 週	ソフトウェア工学とは	ソフトウェア工学の意義を理解する	
	第 18 週	プロセスモデル	開発プロセスの各種モデルを理解する	
	第 19 週	問題発見・問題解決	問題を発見し、解決する技法を理解する	
	第 20 週	要件定義	システムの要件を挙げ、要件定義書を作成する	
	第 21 週	外部仕様	要件を分析し、外部仕様（設計）書を作成する	
	第 22 週	構造化技法	段階的な枠組みで規定していく過程を理解する	
	第 23 週	オブジェクト指向開発技法	分析や設計で UML を用いる理由を理解する	
	-	後学期中間試験	（試験）	-
	第 24 週	内部設計	外部仕様書を基に、内部設計書を作成する	
	第 25 週	ソフトウェアの品質	ソフトウェアの各品質について理解する	
	第 26 週	プログラミング	内部設計書に基づいて開発する	
	第 27 週	単体テスト	内部設計書に基づいたテストを実施する	
	第 28 週	結合テスト	外部仕様書に基づいたテストを実施する	
	第 29 週	システムテスト	要件定義書に基づいたテストを実施する	
第 30 週	取扱説明書作成	利用者向けの利用手順などを作成する		
-	後学期末試験	（試験）	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報・ビジネス英語			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	元木光雄, ブルース・ゲイロード
科目概要			
<p>コンピュータで用いられるソフトウェアやインターネット上のサービスには、海外で作られたものが数多くあり、日本語化されていないものも少なくない。また、ほとんどのプログラミング言語も英語がベースとなっている。そこで、このようなソフトウェアやサービスを使いこなしたり、さらには作ったりすることを目指すため、IT分野で用いられている英語を学習する。具体的には、プログラミングに必要な英語知識を身につけるほか、最近のIT業界の動向を英語で学習する。</p>			
キーワード：			
教科書		参考書	関連する科目・資格
指定なし		指定なし	科目：情報・ビジネス英語 資格：
評価方法			
評価項目	%	<p>評価項目と独立に、学習態度評価を以下のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠課1回(50分授業)につき、2点減点 遅刻、早退それぞれ1回につき、1点減点 授業態度不良学生は評価項目に関係なく、減点 <p>提出物の遅れは、1週間毎に10%ずつ減点する</p>	
定期試験	40		
Project and Presentation	60		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>コンピュータの世界にはもともと英語だったカタカナ言葉が氾濫しています。カタカナを丸暗記するのではなく、英語として意味を捉えられるようになりましょう。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		C, E	
問い合わせ・質問先		2階211室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	English on computers and the internet	Students can understand words on computers and the internet	
	第 2 週			
	第 3 週			
	第 4 週	Presentation 1	Students survey English application software	
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週	Presentation 2	Students survey English services	-
	-			
	第 9 週			
	第 10 週			
	第 11 週	English for programming	Students learn English required for programming	
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週	前学期末試験	(試験)	-
第 15 週	自己点検	達成度の自己点検を行う		
後 学 期	第 16 週	Reading Manuals	Read manual documents of English software	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週	Presentation	Students survey English application software	
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-			-
	第 24 週	Presentation	Students survey English services	
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
	第 28 週	Writing English Web pages	Students write English Web pages	
	第 29 週			
第 30 週				
-	後学期末試験			
第 31 週	自己点検自己評価	達成度の自己点検を行う		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
International Communication 1			Global Information Technology- 4th Year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Sarah Forbes & Le Nhung
Course Overview			
<p>In this course, you will learn basic design principles to make PowerPoint slides and posters that are different, simpler, more visual, more natural and more meaningful for your audience. You will also learn good physical delivery skills, such as eye contact, posture, and loud voice, to aid in effectively delivering your presentations. Together, these skills will help you overcome anxiety and gain confidence in making oral presentations in English.</p>			
<p>Keywords : presentation, design, PowerPoint, poster, visual, simplicity, contrast, physical skills</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
N/A		Handouts Internet Resources (http://www.presentationzen.com , http://www.pecha-kucha.org)	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> Teachers' assessment of the quality of students' presentations via rubric or check-list. Teachers' assessment of the quality of the visuals (PowerPoint slides/Poster) based on points covered in class. Successful completion of in-class assignments Class participation, effort, attitude, attendance graded with a rubric 	
Presentations and Visuals	50		
Class work	25		
Participation/ Effort/Attitude/ Attendance	25		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>Most people are nervous when they give a presentation; it's natural. The best way to overcome anxiety of making a presentation is to give many presentations. In this class, you will have the opportunity to make several presentations to help you become a more effective communicator. Even if you believe that you will never have to give a presentation in the future, this class will help you in three important ways: 1) your language skills will improve; 2) your organizational skills will improve and 3) your confidence in your own abilities will increase.</p> <p>Don't be afraid to ask questions for clarification and understanding ("<i>Once more please?</i>" "<i>What do you mean?</i>") Come prepared with a binder, pencil, class hand-outs, <i>and a USB to back up all your work.</i> Say hello and good-bye; bring positive energy, don't be shy, be respectful of yourself, your teacher and classmates; practice good ergonomics when working on the computer, and if you are absent, it is <u>your</u> responsibility to make arrangements with the teachers for make-up work.</p>			
Course Objectives		C, E	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Orientation & Introduction	Understand syllabus, grading policy; Getting to know each other	
	Week 2	<i>Presentation Zen</i>	Learn about the focus of this class; Computer & PPT Tutorial	
	Week 3	Village of 100 Presentation	Introduction to project; Design Principles 1; Quality visuals	
	Week 4	Village of 100 Presentation	Design Principle 2; Easy-to-read and understand graphs/charts	
	Week 5	Village of 100 Presentation	Design Principles 3; Contrast in color and text	
	Week 6	Village of 100 Presentation	Design Principles 4-5; Balance, white space, and harmony; Practice good physical skills and speaking	
	Week 7	Village of 100 Presentations	Deliver an effective collaborative presentation for filming	
	Week 8	Pecha-Kucha Presentation Intro. PowerPoint Design Principle 1	Introduction to Pecha-Kucha style and project; Photo tutorial	
	-			-
	Week 9	Pecha-Kucha Presentation PowerPoint Design Principle 2	Design an easy-to-understand graph, chart or table	
	Week 10	Pecha-Kucha Presentation PowerPoint Design Principle 3	Design slides with lots of contrast and clear focal point	
	Week 11	Pecha-Kucha Presentation PowerPoint Design Principle 4 & 5	Design balanced slides with lots of white space and harmony	
	Week 12	Pecha-Kucha Presentation – Note Cards & Delivery Skills Workshop	Draft note cards with key words only; Review physical skills	
	Week 13	Pecha-Kucha Presentation	Deliver an effective presentation	
	Week 14	Summer Internship Presentation Preparation	Research; Create slides that adhere to the 5 PowerPoint design principles	
-			-	
Week 15	Self-evaluation / Internship Pres.	Practice speaking out loud alone then in a small group, using good posture, eye contact, voice projection and inflection		
2 nd Semester	Week 16	International Gaming Poster Presentation – Designing Posters Intro	Be acquainted with the elements of good poster design: Layout, Visuals, Fonts, Color; Choose appropriate, interesting game	
	Week 17	International Gaming Poster	Include some of: Game description, Rating, Goal, Walk-through or FAQs, Controls, Tips, Cheats, Evolution of Game	
	Week 18	International Gaming Poster	Include remainder of: Game description, Rating, Goal, Walk-through or FAQs, Controls, Tips, Cheats, Evolution of Game	
	Week 19	International Gaming Poster	Make a Poster that adheres to the same 5 PowerPoint Design Principles and apply them to a poster (layout, visuals, etc.)	
	Week 20	Int'l. Gaming Poster Presentation	Draft note cards; Practice speaking out loud, then in a small group, w/ good posture, eye contact, voice projection/inflection	
	Week 21	Attend or Present at the 2 nd Annual Int'l. Gaming Conf. Poster Session	Attend or deliver presentation multiple times using good posture, eye contact, voice inflection and projection	
	Week 22	Attend or Present at the 2 nd Annual Int'l. Gaming Conf. Poster Session	Attend or deliver presentation multiple times using good posture, eye contact, voice inflection/projection	
	Week 23	Technology & Art Presentation	Introduction to assignment; Discuss, research and choose topic	
	-			-
	Week 24	Technology & Art Presentation	Turn in research; Make slide outline	
	Week 25	Technology & Art Presentation	Create slides that adhere to the 5 Power Point design principles	
	Week 26	Technology & Art Presentation	Create slides that adhere to the 5 Power Point design principles	
	Week 27	Technology & Art Presentation	Create slides that adhere to the 5 PowerPoint design principles	
	Week 28	Technology & Art Presentation	Create slides that adhere to the 5 PowerPoint design principles	
	Week 29	Technology & Art Presentation Delivery Skills Workshop	Draft Note Cards; Review effective physical skills; Rehearse out loud alone then in a small group	
	Week 30	Technology & Art Presentations	Deliver PowerPoint Presentation using good posture, eye contact, voice inflection/projection	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Make-up presentations; Questionnaire		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
電気電子工学			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	石黒泰治
科目概要			
<p>国際コミュニケーション情報工学科の学生が電気電子工学の基礎を学ぶことにより、情報系技術者として幅広い素養を身につけさせる。</p> <p>具体的には、直流理論、交流理論で電気工学の基礎を学び、半導体素子、アナログ回路、デジタル回路で電子工学、ハードウェアの基礎を習得する。</p>			
キーワード： 直流回路、交流回路、静電気、電磁気、電子回路、デジタル回路			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「精選電気基礎」新訂版 桂井 誠、岩本洋 実教出版 「電子技術」新訂版 岩本洋、実教出版			科目：電気電子工学科 資格：
評価方法			
評価項目	%	期末試験、中間試験を中心に理解度を判定するが、学期末には授業態度、レポート提出など総合的に評価する。	
期末試験	40		
中間試験	40		
授業態度	10		
レポート	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>この科目は、電気系、電子系、情報系技術者が基礎的な素養として、修得しなければならない、教科である。授業中にしっかり理解し、分からないところは質問し、授業時間中に解決していくことが重要である。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E、B	
問い合わせ・質問先		1階教員室（宮野）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	電気回路の電流と電圧	電流と電子、オームの法則を理解する	
	第 2 週	電気回路の計算	基礎的な直流回路の計算ができる。	
	第 3 週	電気回路の計算	キルヒホッフの法則を使って回路計算ができる。	
	第 4 週	電気回路の計算	複雑な直流回路の計算ができる。	
	第 5 週	抵抗の性質	導体の抵抗の性質や形状、温度による変化を理解する。	
	第 6 週	消費電力と発生電力	電力の概念とそれによる熱の発生について理解する。	
	第 7 週	磁石とクーロン法則	磁気のクーロンの法則、磁界について理解する。	
	第 8 週	電流による磁界	電流と磁界について理解する。	
学	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	電荷と電界	クーロンの法則、電界について理解する。	
	第 10 週	コンデンサの計算	コンデンサの考え方が理解できる。	
	第 11 週	コンデンサの計算	コンデンサの計算ができる。	
	第 12 週	正弦波交流	周波数、位相、実効値について理解する。	
	第 13 週	交流のベクトル表示	交流のベクトル表示、交流の和、差について理解する。	
	第 14 週	R、L、Cの各種回路	R、L、C単独の回路のベクトル表示	
	-	前期末試験	(試験)	-
後	第 15 週	自己点検		
	第 16 週	R - L - C直列回路	R - L - C直列回路が理解でき、基本的な計算ができる。	
	第 17 週	R - L - C直列回路	同	
	第 18 週	R - L - C並列回路	R - L - Cの並列回路の基本的な考え方が理解できる。	
	第 19 週	複素数によるベクトル表示	交流は複素数で表示できることが理解できる。	
	第 20 週	複素数による交流回路の計算	交流回路の複素数による計算が理解できる。	
	第 21 週	半導体素子	真性半導体、不純物半導体について理解する。	
	第 22 週	トランジスタ	トランジスタ増幅回路について理解する。	
	第 23 週	デジタル回路	論理素子について理解する。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	同	同	
	第 25 週	デジタル回路	簡単な論理回路について理解する。	
	第 26 週	同	同	
	第 27 週	パルス回路	パルスの発生について理解する。	
	第 28 週	パルス回路	マルチバイブレータについて理解する。	
第 29 週	同	同		
第 30 週	波形整形回路	各種波形整形回路について理解する		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価			

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
General English Skills II -- Extensive Reading			Global Information Technology- 4th Year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	2	1 & 2	Le Nhung
Course Overview			
<p>In this class, you will read a lot of easy, enjoyable books. <u>You</u> get to choose what <u>you</u> want to read from a selection of hundreds of book at <u>your</u> level. The focus will be on reading for pleasure and general understanding. You will read to build speed and reading fluency, as well as for language development in all skills (reading, writing, listening and speaking) and for vocabulary enrichment.</p> <p>To help create more independent readers and develop the habit of reading, you will be required to do some of the reading at home in order to meet the reading goals. You will have Sustained Silent Reading (SSR) time in every class though, much of class time will be spent on in-class fluency tasks based on the book you just finished reading.</p>			
Keywords : Extensive Reading			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
N/A		Penguin Graded Readers: Easy Starts, Level 1, Level 2, Level 3; Foundations Graded Readers; Scholastics Graded Readers; Graded Readers collection at KIT	Subjects : Literacy Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	There are no tests. The single most important factor in the grade is the number of books read. The goal is one book per week. Students will keep a weekly Reading Log to keep track of the books they have read, the number of books and the level at which they are reading. After finishing a book, students will respond to the book in a variety of follow-up assignments. In-class fluency tasks give students a chance to share what they've read. Class Participation: speaking/active listening, attitude and effort, as well as attendance	
Number of books read	50		
In-class Follow-up tasks	25		
Participation/ Effort/Attitude/ Attendance	25		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Most every class will have with a 20-minute Sustained Silent Reading block so please come to class on time so you do not to disrupt quiet reading time. • Bring a Reading Notebook (binder) and pencil. • <u>Don't</u> bring a dictionary, just skip over words you don't know and focus on general understanding so you don't slow down your reading. • If you are not enjoying a book, stop reading it and choose another one. • Read a variety of books from different genres -- even ones you don't usually read. • Take the summer vacation and winter vacation reading challenges. • Take the year-long reading challenge. 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week 1	Orientation; Introduction to Extensive Reading and ER Library; How to choose books	Review syllabus; Intro to ER; Learn to use the library and Weekly Reading Log; Find your reading level; Choose book (look at pictures/read blurb); SSR	
	Week 2	How to Record & Rate Books; Reading Reflection & Extension	Heroes and Villains; Record book in Weekly Reading Log; Rate book; Choose a new book; SSR	
	Week 3	Reading reflection & extension Vacation reading (Extra Credit)	Genre & Setting; Record and rate book; Choose new book; SSR; Choose book(s) & Reaction Report for Vacation	
	Week 4	Reading reflection & extension	Climax and Resolution; SSR	
	Week 5	Reading reflection & extension	Penguinville Board Game, SSR	
	Week 6	Reading reflection & extension	Bookmark, SSR	
	Week 7	Reading reflection & extension	Bookrack Signs, SSR	
	Week 8	Reading reflection & extension	Instant Book Report, SSR	
	-			-
	Week 9	Reading reflection & extension	The Best Part, SSR	
	Week 10	Reading reflection & extension	The Best Character, SSR	
	Week 11	Reading reflection & extension	Picture Questions, SSR	
	Week 12	Reading reflection & extension	Character Map, SSR	
	Week 13	Welcome Back	Collect Summer Reading Challenge Extension Activity Reports, SSR	
	Week 14	Reading reflection & extension	Challenge Results-Award Prizes; Toothpick Storytelling, SSR	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Share Favorite Books		
2nd Semester	Week 16	Reading reflection & extension	Change the Ending, SSR	
	Week 17	Reading reflection & extension	Life's Up's and Down's, SSR	
	Week 18	Reading reflection & extension	Movie Poster, SSR	
	Week 19	Reading reflection & extension	Change the Genre to Horror-Halloween, Horror Stories	
	Week 20	Reading reflection & extension	New Vocabulary, SSR	
	Week 21	Reading reflection & extension	Dramatic Reading, SSR	
	Week 22	Reading reflection & extension	Nice to Meet You!, SSR	
	Week 23	Reading reflection & extension	New Vocabulary, SSR	
	-			-
	Week 24	Reading reflection & extension	Christmas Gifts, SSR	
	Week 25	Reading reflection & extension	Collect Winter Reading Challenge Extension Activity Reports, SSR	
	Week 26	Reading reflection & extension	Challenge Results-Award Prizes; The Story & You, SSR	
	Week 27	Reading reflection & extension	Character Descriptions - Synonyms, SSR	
	Week 28	Reading reflection & extension	What Comes Next?, SSR	
	Week 29	Reading reflection & extension	Read with a Partner, SSR	
	Week 30	Reading reflection & extension	Match the Blurb-Book, SSR	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Questionnaire, Talk about Favorite Books, Reading Level 50 Book Challenge-Award Prizes		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
General English Skills II (Pop Culture)			Global Information Technology 4 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 2	1 & 2	Nathan Lurie
Course Overview			
<p>We will use popular youth culture (magazine articles, music, film, TV, computer games, internet articles, etc.) as a springboard from which to explore the English language that students want to learn and are exposed to outside of school, thus bridging the gap between formal and informal English-language learning. We will read popular culture articles that students can relate to and find interesting and then interact with each other to exchange opinions and ideas. We will learn lyrics to songs students have already encountered. We will learn lines to movies, TV programs and video games that students love to watch and play. The goal will be to become responsive, active and engaged learners of English while improving cultural literacy.</p>			
Keywords : Popular culture in the EFL classroom			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
Year-long subscription to <i>Crown Magazine</i> , Scholastic Mary Glasgow, London		Mary Glasgow's on-line support (video, audio, interactive language games & activities); A source bank of pop culture materials	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> • In-class work: magazine article work oral skills activities • Cooperative group-work Projects (projects graded using rubrics) • Daily Class Participation: active speaking/listening attitude effort attendance classroom language & questions 	
Class work	50		
Projects	20		
Participation	30		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come to class on time with your binder and pencil • Say hello and good-bye every class • Ask lots of questions • Don't worry about making mistakes, just talk. • Don't be shy • Relax, have fun and smile! • Be kind and friendly to everyone in class • Be responsible for making up missed work and finishing assignments • Take advantage of the vast amount of pop culture that is available to you outside of school (on the Internet, TV, films, radio, etc.) 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Introduction to course	Understanding syllabus, grading policy, Getting to know each other	
	Week 2	<i>The Simpsons</i> , TV program	Background information on Characters; Pre-, during- and post-viewing activities; Repeated viewings of accessible clips	
	Week 3	<i>The Simpsons</i> , TV program	Pre-, during- and post-viewing activities; Repeated viewings of accessible clips	
	Week 4	<i>The Simpsons</i> Video Game	Play the game for listening practice	
	Week 5	Popular Culture Magazine Article, March 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 6	Popular Culture Magazine Article, March 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 7	Popular Culture Song	Pre-listening/While-listening/Post-listening activities	
	Week 8	Popular Culture Song	Pre-listening/While-listening/Post-listening activities	
	-			-
	Week 9	Popular Culture Magazine Article, May 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 10	Popular Culture Magazine Article, May 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 11	Review Project	Choose group and topic, preparation, practice	
	Week 12	Review Project	Practice and present project to class	
	Week 13	Welcome Back – Summertime Popular Culture	What's hot this summer? A look at summer film, fashion & fads	
	Week 14	Summertime Popular Culture	What's hot this summer? A look at summer film, fashion & fads	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Review games/activities		
2 nd Semester	Week 16	Popular Culture Magazine Article, September 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 17	Popular Culture Magazine Article, September 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 18	Popular Culture Magazine Article, September 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 19	Popular Culture Song	Pre-listening/While-listening/Post-listening activities	
	Week 20	Popular Culture Song	Pre-listening/While-listening/Post-listening activities	
	Week 21	Popular Culture Magazine Article, November 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 22	Popular Culture Magazine Article, November 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 23	Popular Culture Christmas Songs	Pre-, While-, & Post-listening songs from <i>Arthur Christmas</i>	
	-			-
	Week 24	Popular Culture Film— (Ex.: <i>Arthur Christmas</i>)	View film & post-viewing activities	
	Week 25	Welcome Back	2012 Year in Review – Classroom Jeopardy! Game	
	Week 26	Popular Culture Magazine Article, January 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 27	Popular Culture Magazine Article, January 2012 Issue	Pre-reading/While-reading activities; Post-reading discussion	
	Week 28	Project	Choose group and topic, preparation	
	Week 29	Project	Project preparation, practice	
	Week 30	Project	Project presentations	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Questionnaire, make-up presentations		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
インターンシップ			グローバル情報工学科 4年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修2	夏期集中	館 宜伸
科目概要			
<p>夏期休業中に約2週間、県内外の企業で実習を行い、社会の厳しさや専門技術の発展ぶりなど、学校教育では得られない貴重な知識や考え方を、体験を通じて学ぶ。この体験は、将来社会人となるために極めて有用であり、また専門のエンジニアとして成長する糧となるものである。インターンシップ先での貴重な体験を報告書にまとめ提出するとともに、報告会において、その成果を発表する。</p>			
キーワード： インターンシップ、企業			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
なし	企業のパンフレットなど各専門科目の教科書や参考書	科目：キャリアデザイン 資格：なし	
評価方法			
評価項目	%	<p>企業での評価書に記載の評価を50%、構内での報告書・インターンシップ報告会による評価を50%とした割合で総合評価を行う。</p>	
企業での評価	50		
報告書・報告会	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>実習はアルバイトではない。逆に企業の大きな負担になっていること、企業の好意で実習をさせてもらっていることを忘れないこと。 遅刻は厳禁である。礼儀正しく行動すること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	A, C		
問い合わせ・質問先	2階205室(地域連携教育センター)		

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前期	第 1 週	研修先企業等との調整による。	体験により企業活動の概要を習得する。	
	第 2 週	以下空欄	以下空欄	
	第 3 週			
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週			
	第 8 週			
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週			
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週			
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検			
後期	第 16 週			
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週			
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
	第 28 週			
	第 29 週			
	第 30 週			
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
ビジネスシステム			グローバル情報工学科 4年(OP留学生対象)
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	学修 2	前・後	館 宜伸
科目概要			
<p>システムを運営するために必要なネットワークの知識と、サーバサイドプログラミングの基礎を習得する。前期はWebシステムに関する基礎を個人演習で学び、後期はグループ演習でWebシステムの運営について学習・体験する。</p>			
<p>キーワード： ネットワーク，クライアント・サーバ，Java言語，Eclipse，HTML，Webページ</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「これからはじめる すぐにわかる サブレット&JSP入門」，川崎克巳，秀和システム		「Java言語プログラミングレッスン上」，結城浩，SoftBank Creative	科目：コンピュータ演習，情報処理 資格：ITパスポート、基本情報技術者試験
評価方法			
評価項目	%	<p>「報告書」は、作成したプログラムをどのように考えて作ったかなどの説明がきちんとできているか、なぜうまくできたのか(うまくできなかったのか)ということの考察ができているか、論理的に文章を書けているかなどを評価する。 なお、欠課1回(50分)につき2点減点、遅刻1回につき1点減点とする。 また、授業を受ける上で必要な資料を忘れた場合も1点減点とする。</p>	
定期試験	50		
課題・宿題	30		
報告書	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>本授業は学修の単位であるため、1週間の授業に対して2時間分の課題や宿題が毎回出される。この課題や宿題を提出しない場合は、単位が認められない。</p> <p>演習中や課題に取り組んでいる最中に発生したトラブルは、不具合対処の良い経験になります。なぜトラブルが発生したのか、何が原因なのかを自分で調査・発見できるように試みてください。また、原因分析やトラブル解消方法などが判明したら、発生内容とともに記録しておきましょう。</p> <p>なお、受講上の留意点を以下に示します。これらは必ず守ってください。</p> <p>1. 時間内にできない場合は、放課後などに補習を申し出ること 2. 報告書などの提出物の期限を守ること</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E，B	
問い合わせ・質問先		2階207室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学	第 1 週	ガイダンス・ネットワーク基礎	授業の目的を理解し、ネットワークについて理解できる	
	第 2 週	インターネットとプロトコル	プロトコルやサーバの役割を理解できる	
	第 3 週	インストール	インストールと各種設定ができる	
	第 4 週	HTML演習	基本的なHTMLタグを用いてWebページが作成できる	
	第 5 週			
	第 6 週	HTML課題（設計）	Webページの設計ができる	
	第 7 週	HTML課題（制作）	設計したWebページを制作できる	
	第 8 週	HTML課題発表	自分が制作したWebページを説明できる	
-	前学期中間試験	（試験）	-	
期	第 9 週	サーバサイドプログラミング概要	サーバサイドプログラムを理解できる	
	第 10 週	Web演習（導入）	既存システムの導入でき、仕組みを理解できる	
	第 11 週			
	第 12 週	Web演習（変更）	既存システムを変更できる	
	第 13 週	Web課題（設計）	動的なWebページを設計できる	
	第 14 週	Web課題（制作）	設計した動的なWebページを制作できる	
	-	前学期末試験	（試験）	-
	第 15 週	自己点検	制作作品発表、および、自己点検	
後 学	第 16 週	Webシステムの基礎	Webシステムの基礎を理解できる	
	第 17 週	Webシステム課題（企画）	Webシステムをグループで企画することができる	
	第 18 週	Webシステム課題（設計）	グループで企画したWebシステムを設計できる	
	第 19 週	Webシステム課題（制作）	グループで設計したWebシステムを制作できる	
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週	中間発表	制作したWebシステムを説明できる	
	-	後学期中間試験	（試験）	-
	第 24 週	Webシステム課題（検討・改良）	改良点、反省点をWebシステムへ反映できる	
	第 25 週			
	第 26 週	Webシステム課題（運営）	運営マニュアルを作成できる	
	第 27 週	Webシステム課題発表	制作したWebシステムを説明できる	
	第 28 週	Webシステム引継	制作したWebシステムを引き継ぐことができる	
	第 29 週	Webシステム運営	引き継いだシステムを運用できる	
	第 30 週	Webシステムのトラブル対応	制作したWebシステムのトラブル対応ができる	
-	後学期末試験	（試験）	-	
第 31 週	自己点検自己評価	報告書作成、および、自己点検		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Data Processing III – OP			Global Information Technology 4 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Robert Songer, Omihito Matsushita
Course Overview			
<p>In the first three years at KTC, students have primarily become used to the operation of a graphical user interface (GUI) in operating systems such as Microsoft Windows. However, many complex web servers and networking devices require operators to have skill with a command line interface (CUI) such as those found in Unix operating systems. This course will focus on the acquisition and practice of the basic knowledge required of an entry-level Unix operator for using a Unix CUI. Material will be presented in English with Japanese support and an emphasis on effective self-study.</p>			
<p>Keywords : Unix, Command Line, Operating Systems, Technical English</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<p><i>Introduction to the Command Line: The Fat-Free Guide to Unix and Linux Commands</i> Nicholas Marsh Createspace</p>		Handouts & Activities	<p>Subjects : 情報システム Qualification Tests : LPIC試験 基本情報技術者試験</p>
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<p>Students will be graded on semester midterm and final exams, weekly homework assignments and participation in class.</p> <p>The periodic exams will be based on textbook material and technical English from the homework assignments.</p> <p>Homework assignments will be given each week to satisfy the required 1 hour of study time outside of class. These assignments will be based on reading from the book from which students select important English words and phrases. Students are expected to complete the assignments before class to prepare themselves for the next lesson.</p> <p>Participation will be evaluated according to attendance record and an attitude assessment from the teachers.</p>	
Periodic Exams	50		
Homework	40		
Attitude & Attendance	10		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>Please bring your materials to class every day. The materials you will need are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. A folder to carry papers 2. This syllabus for doing the self-check each week 3. Your textbook 4. Paper and a pencil for taking notes about English words 5. Dictionary (either electronic or online) <p>Don't be afraid to ask questions during class. Ask lots of questions. A big part of learning is asking questions and finding the answers. Try to understand the English in different ways until you find one that works the best for you.</p> <p>Most importantly, when you miss a class please see the teacher for the work you missed before the next class. You are responsible for completing all the work, not the teacher. So you are responsible for seeing the teacher when you are absent.</p>			
Course Objectives		E、B	
Office		KTC 31-209	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Course Introduction	Get to know the syllabus, your teacher, and your learning style	
	Week2	Introduction to Unix	Understand the basic traits of Unix operating systems	
	Week3	Command Line Basics	Learn the basics of operating a CUI, such as navigating the directory structure.	
	Week4			
	Week5	Advanced Shell Commands	Study advanced commands for the shell window. Prepare and present a mini lesson on a command of your choice.	
	Week6			
	Week7			
	Week8	Review	Review the commands so far and prepare for the midterm exam.	
	-	1st Semester Midterm	Exam	-
	Week9	Text Editing and Extraction	Learn about the different text editors and how to use them. Practice creating and manipulating documents.	
	Week10			
	Week11			
	Week12	Printing Commands	Practice printing documents using various commands.	
	Week13			
	Week14	Review	Review the commands so far and prepare for the midterm exam.	
-	1st Semester Final	Exam	-	
Week15	Self-evaluation	Understand your weak points from the 1 st semester material.		
2nd Semester	Week16	User Accounts and Groups	Understand the roles of user accounts and groups in an OS.	
	Week17	File and Directory Permissions	Learn how to control the security of files and directories with commands related to user permissions.	
	Week18			
	Week19			
	Week20	Process Control and Scheduling	Discover how to control running programs and manage the scheduling of tasks. Prepare and present a mini lesson on a command of your choice.	
	Week21			
	Week22			
	Week23	Review	Review the commands so far and prepare for the midterm exam.	
	-	2nd Semester Midterm	Exam	-
	Week24	Shell Scripts	Understand the basics of writing a script to execute a series of commands. Practice making scripts to run multiple commands at once.	
	Week25			
	Week26	Additional Topics	Explore additional commands from the book. Choose extra topics to learn about and teach to the class.	
	Week27			
	Week28	Original Script	Write an original script that shows the usefulness of your chosen commands. Present the script to the class and quiz them on it.	
	Week29			
	Week30	Review	Review the commands so far and prepare for the midterm exam.	
-	2nd Semester Final	Exam	-	
Week31	Self-evaluation/Closing	Understand your weak points from the class and do a final evaluation		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
人間と自然 a			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 3 / 2	集中講義	坂倉忠和・高橋丈雄
科目概要			
<p>池の平の自然あふれる充実した環境のもとで合宿を行い、自然への理解を深めるとともに、級友との友情を深める。また、5年間の研鑽をまとめ、これから社会でその成果を発揮するために、各自が専攻する分野での先輩の経験を学ぶとともに、自らが研究している課題について、研究の意義・研究の進め方・発表の仕方について考え、学ぶ。</p>			
キーワード： 人間力			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
指定せず	学生便覧2012	科目：人間と自然 ， 人間と自然 ，修学技法 インターンシップ， 人間と自然 b 資格：なし	
評価方法			
評価項目	%	成績は、「人間と自然 a」を75%、「人間と自然 b」を25%の重みとして、「人間と自然 」として評価する。「人間と自然 a」の評価基準は以下のとおりとする。 研修3日のうち、2日間以上出席した者について、本科目を履修したものと認め、成績評価を行う。出席状況については、2日間出席で30点、3日間出席で50点を付与する。学科研修、講演ならびに生活態度については、優秀なものには各々20点、10点、20点を付与し、態度・成果・貢献の度合いに応じて採点する。 ただし、研修中に校則違反があった場合、研修態度が著しく悪い場合には、上記にかかわらず減点もしくは履修したと認めないこともある。	
学科研修	20		
講演	10		
生活態度	20		
出席状況	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
事前に配付する資料に基づいて準備を行うこと。 また、集合時刻など集団生活のマナーを厳守すること。			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		(授業開講時) 池の平セミナーハウス1階・坂倉まで (それ以外) 高専3階31・315光学実験室・坂倉まで	

	授業項目	到達目標または行動目標	点検
1	オリエンテーション	科目の目的・スケジュールならびにセミナーハウス利用の注意受け、3日間の学習の体制を整える。	
2	朝の集い	国旗・校旗の掲揚、体操および清掃分担発表を行い、研修に取り組む気持ちを新たにす。	
3	学科研修(1)	自然と工学に関する課題に関し、グループで討議する。	
4	学科研修(2)	学科研修(1)の討議結果をまとめる。	
5	学科研修(3)	池の平の豊かな自然に触れ、自然への理解を深める。	
6	講演	聴講内容をもとに、社会人として・技術者としてのあるべき姿を考える。	
7			
8			
9			
10			

点検(自己評価):よく理解できた A B C D E まったくわからない

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
人間と自然 b			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 1 / 2	集中講義	坂倉忠和・元木光雄
科目概要			
<p>技術者は、自らの知識や技術を磨き上げるだけでなく、その専門分野について一般の人々に分かりやすく伝えるとともに、一般の人々の考えを専門分野に反映させる義務をもつ。本科目では、高専祭の場を用い、自らの研究テーマについて、また所属する研究室の研究内容について、一般の人々に分かりやすく、興味をもたれるよう、プレゼンテーション、ポスター、デモンストレーションなど様々な方法を用いて伝える。また、その反響をその後の研究に活かす。</p>			
キーワード： 人間力			
教科書		参考書	関連する科目・資格
指定せず		指定せず	科目：人間と自然 ， 人間と自然 ，修学技法， インターンシップ 卒業研究，人間と自然 a 資格：なし
評価方法			
評価項目	%	成績は、「人間と自然 a」を75%、「人間と自然 b」を25%の重みとして、「人間と自然 」として評価する。 「人間と自然 b」の評価項目は左記のとおりである。準備のための努力を重点的に評価する。	
パネル	25		
説明	25		
態度	50		
出席状況	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>パネル製作においては、パネルを製品と位置づけ、来場者のAIDMA（注意を引き付け、興味を喚起し、話を聞いてみたいと思わせ、聞こうと決断させ、実際に聞かせる）の一連の過程を考慮すること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		高専3階31・315 光学実験室・坂倉まで	

	授業項目	到達目標または行動目標	点検
1	パネルの作成	何を伝えるかを明確にする。	
2	素材作成	理解しやすいパネルにするために必要な説明文、図表を作成する。	
3	レイアウト	わかりやすいパネルとなるようレイアウトを考える。	
4	細部デザイン	魅力的なパネルとなるよう細部のデザインを考える。	
5	プロトタイプ製作	パネルの試作品をつくり、検討と改良を加える。	
6	パネル製作	パネルを製作する。	
7	シナリオ作成	説明のためのシナリオを作成する。	
8	プレゼンテーション練習	説明の練習をするとともに、シナリオの完成度を高める。	
9	プレゼンテーション	高専祭来場者にパネルを用いて説明を行う。	
10	まとめ	パネル製作ならびに高専祭来場者への説明から得られた知見をまとめる。	

点検(自己評価):よく理解できた A B C D E まったくわからない

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
科学技術史			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	学修 2	前・後	伊藤恒平、直江伸至、田村景明、今澤明男
科目概要			
<p>科学技術が今日の発展を向かえるまでの過程を知り、自らが学んでいる技術の人類の歴史における位置を理解する。また、科学技術についての見方の変遷についても学ぶ。さらに先人の努力と成果に触れる。以上により、科学技術についての視野を広め、技術者としての思考を深める。</p>			
<p>キーワード： 機械工学の歴史、電気工学の歴史、情報工学の歴史、科学の歴史</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
指定せず（プリントを配付する）		<p>「機械発達史」仲山秀太郎、大河出版、 「電気技術史概論」奥山修平他、ムイスリ出版、 「図解雑学コンピュータの歴史」山田宏尚、ナツメ社、 「新しい科学論」村上陽一郎、講談社</p>	<p>科目：専門全科目 資格：なし</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>定期試験、課題、プレゼンテーション等の評価結果を総合して科目としての評価を行う。ただし、授業態度が不良な者、出席が不良な者については減点をする。</p>	
前学期中間試験	20		
前学期末試験	20		
後学期中間試験	20		
後学期末試験	20		
課題等	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>本講義は学修単位であるため、1週間の授業に対して2時間分の課題が毎回出題される。この課題が出題されない場合は単位が認められない。</p> <p>当科目では、（1）機械工学の歴史、（2）電気工学の歴史、（3）情報工学の歴史、（4）科学の歴史、の4分野について、4人の教員が各自の専門に応じて授業を行う。目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）火の利用からはじまり、車輪や航空機といった身近な機械の歴史を通じて機械工学の基礎を深める。 2）電気工学の沿革に基づき、その技術思想・体系が説明できる。 3）コンピュータが発明される以前の計算方式からパソコンまでの歴史を通して、情報工学の基礎を深める。 4）古代から現代までの自然観の変遷ならびに近代から現代にかけての科学の変遷について説明できる。 5）今後の科学技術のあり方について自らの意見を述べることができる。 <p>なお、予習・復習ならびに課題の提出・プレゼンテーション等を要求する。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		B	
問い合わせ・質問先		1階124室（伊藤）1階115室（直江）2階210室（田村）2階206室（今澤）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	火の利用	人類文明発達の原点といえる火の利用と発火法について理解する。	
	第 2 週	車輪の発明	人類の道具の歴史の中で最重要の道具のひとつといえる車輪について理解する。	
	第 3 週	熱機関の歴史	動力源として重要な熱機関の歴史を理解する。	
	第 4 週	航空宇宙技術史	航空機と宇宙船に関する歴史を理解する。	
	第 5 週	自動制御の歴史	自動制御の歴史について理解する。	
	第 6 週	ロボット開発の歴史	ロボット開発の歴史について理解する。	
	第 7 週	軍事技術史	科学技術の発達と密接な関係にある軍事技術の歴史について理解する。	
	第 8 週	製品から見た電気工学	製品から見た電気工学を理解する。	
	-	前期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	電磁気現象の成立	電磁気現象と諸法則の成立について理解する。	
	第 10 週			
	第 11 週	電信技術の展開	電磁波の発見と電信技術について理解する。	
	第 12 週	機器とシステムの確立	諸法則を応用した機器・システムについて理解する。	
	第 13 週			
	第 14 週	復習と整理	第 8 週から第 13 週までの内容を見直し整理する。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説にもとづき学習成果の自己点検を行う。		
後 学 期	第 16 週	計算の歴史	コンピュータが発明される以前の計算方式について理解する。	
	第 17 週	コンピュータの歴史 1	コンピュータとデジタルの関わりについて理解する。	
	第 18 週	コンピュータの歴史 2	現代のコンピュータのしくみについて理解する。	
	第 19 週	コンピュータの歴史 3	ソフトウェアの歴史を理解する。	
	第 20 週	マイコンの歴史	電卓から現代のパソコンまでの歴史を理解する。	
	第 21 週	インターネット技術	インターネットを実現する技術について理解する。	
	第 22 週	情報化社会の未来	近未来社会で活躍するコンピュータについて理解する。	
	第 23 週	古代ギリシャの自然観	古代と現代の自然観の相違について認識する。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	近代科学革命	近代科学革命の背景と近代科学の特徴を理解する。	
	第 25 週	進化論の誕生	進化論が生まれた背景と自然淘汰の考えを理解する。	
	第 26 週	進化論の展開	進化論が現在の自然観・人間観に与える影響を理解する。	
	第 27 週	複雑系科学の発祥	複雑系科学が生まれた背景を理解する。	
	第 28 週	複雑系科学の現在	複雑系科学が提示する重要概念を理解する。	
	第 29 週	科学の歴史と将来	科学の歴史を概観し今後のあり方について考える。	
第 30 週	まとめ	科学技術についての自らの考えをまとめる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説にもとづき学習成果の自己点検を行う。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
哲学			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	三宅浩史
科目概要			
<p>哲学的な思想に関心があるが、取りかかりにくいという受講生各位にその手ほどきをする。そのためにこの授業では、三木清が『哲学入門』（岩波新書、1940）において論述している内容を、こちらで用意したテキストを通して追っていく。三木は、いわゆる西田哲学を批判的に継承した人物の一人である。上掲の著述で示されていることは、日常においてわれわれが行為する世界の真のありようである。それを理解するために学生は、日々の人間の行為についての反省が求められることになる。西田幾多郎に続く三木清の思想は、いわば更新された新しい価値観への道標とも言えるであろう。その価値観に触れることで、世界を担う学生の精神的な礎を確かなものにしたい。</p>			
キーワード： 行為、真理的意味			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「三木清「哲学入門」パラフレーズ」, 三宅浩史, 風詠社		「西田幾多郎」, 大澤正人, 現代書館	科目： 資格：
評価方法			
評価項目	%	<p>定期試験・・・6割の比重を置きます。（中間・期末各3割）</p> <p>小レポート・・・授業への参加度を見るために、適宜提出してもらいます。毎回、特に課題は定めません。授業内容、あるいは授業の進め方等について気がついたことを所見（感想）として書いて提出してください。</p> <p>平常点・・・授業時の受講態度等について評価します。</p>	
定期試験	60		
小レポート	20		
平常点	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>この科目は「総合教育科目」の一環であり、受講生各位が自身の教養の幅を広めるためのものです。「哲学」ということで、「何やら面倒くさいムズカしいことをやるのではないか!？」と思われているでしょう。哲学という限り、抽象的な局面は避けえないところがあります。しかし、なるべく私たちの具体的な日常のありように照らし合わせた授業にしたいと思っています。つまり、「日頃私たちは何を、どのようにして行っているのか?」について反省することです。そうした反省が、どういうところからなされているのかに気付くことから、話を進めて行きたいと思っています。そこで、ひとまず肩の力を抜いて、テキストと一緒に読んでいきましょう。</p> <p>ノートを授業時に取るようにしていただきたいのですが、用語の暗記よりも、全体の連関をつかむという方向で受講して下さい。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		教務室（宮野）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前期	第 1 週	はじめに (授業ガイダンス)	西田哲学の概要と三木の生涯を理解する。	
	第 2 週	出発点	哲学とは何かを考察する。	
	第 3 週	人間と環境 (1)	世界を真にとらえる視野を開く。	
	第 4 週	人間と環境 (2)	人間が「主体」となることの意味をつかむ。	
	第 5 週	本能と知性 (1)	人間が環境に適応する二つの仕方を学ぶ。	
	第 6 週	本能と知性 (2)	「知性」の本質に迫る。	
	第 7 週	経験	経験的知識の本性をとらえ、習慣の意味を再考する。	
	第 8 週	常識 (1)	「常識」の特性について理解する。	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	常識 (2)	「常識」と「良識」をめぐる社会の二重性という事態をとらえる。	
	第 10 週	科学 (1)	「科学」と「常識」の関係を理解する。	
	第 11 週	科学 (2)	「科学」の営みの本質を眺める。	
	第 12 週	哲学 (1)	なぜ哲学的な見方が要求されるのかを問う。	
	第 13 週	哲学 (2)	「主体」に生じる「自覚」について考察する。	
	第 14 週	哲学 (3)	「自覚」の本質を見つめる。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後期	第 16 週	真理 (1)	人が「知る」という事態に纏わる難点をつかむ。	
	第 17 週	真理 (2)	「主体的真理」へのアプローチの仕方を理解する。	
	第 18 週	模写と構成 (1)	「模写説」から「構成説」への移行のようすをとらえる。	
	第 19 週	模写と構成 (2)	「構成説」から「行為の立場」に立つ必然性を理解する。	
	第 20 週	経験的と先験的 (1)	「主観主義」の成立過程を理解する。	
	第 21 週	経験的と先験的 (2)	「主観主義」の限界を注視する。	
	第 22 週	経験的と先験的 (3)	「行為的直観」がとらえる「表現」に着目する。	
	第 23 週	物 関係 形 (1)	哲学における実体概念の推移を理解する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	物 関係 形 (2)	「形」が歴史的なものであることをとらえる。	
	第 25 週	物 関係 形 (3)	「形成説」への理解を深める。	
	第 26 週	知識の相対性と絶対性 (1)	知識を得る仕方への反省的視野を養う。	
	第 27 週	知識の相対性と絶対性 (2)	「行為の立場」から「歴史主義」を見つめ返す。	
	第 28 週	知識の倫理 (1)	なぜ知識に倫理が求められるのかを理解する。	
	第 29 週	知識の倫理 (2)	哲学史上に表れている知識の倫理を学ぶ。	
	第 30 週	知識の倫理 (3)	真理の認識が、いかに倫理に関わるかをとらえる。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
心理学			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	学修 2	前・後	花崎有紀子
科目概要			
<p>心理学は心を科学的に探求する学問である。本科目の目的は、心理学を通じて人間行動の法則性を学び、人間観を科学的な視点から養うことにある。心理学は、教育、サービス業、製造業など種々の分野に応用されているため、将来、社会に貢献すべき本校学生にとって、心理学を通して人間行動を理解することの意義は大きいと考えられる。また、受講する学生は青年期に相当している。本科目が、青年期の発達課題といわれる「自我同一性 (ego identity)」に向き合う一助となり、自己理解を促す機会となれば幸いである。</p>			
キーワード： 心理学入門、知覚心理学、発達心理学、性格心理学、社会心理学			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「コンパクト新心理学ライブラリ 1 心理学」、梅本堯夫・大山正・岡本浩一、サイエンス社		より理解を深めたい受講生へ向けた文献を授業中に紹介する。	資格：心理学検定
評価方法			
評価項目	%	<p>各学期末の期末試験では、講義全体を通して習得した心理学の基本概念、基礎用語、人間理解の方法についての知識と理解を確認する(45%)。</p> <p>各学期の途中で、小テストを数回課して、理解度の確認を行う(35%)。</p> <p>授業態度・出席状況は、講義への積極的な関わり、出欠状況確認のための一言カードへの記載内容などで評価する(20%)。</p> <p>最終的な成績は、各評価項目を加味して総合的に評価する。</p>	
期末試験	45		
小テスト	35		
授業態度	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>講義では、それぞれの心理学領域についての基礎概念や基礎用語の説明を行い、それぞれの領域の視点から、人間の行動がどのように理解されるかを概説する。授業内容に応じて、適宜、レジュメやプリントを配布する。</p> <p>授業の展開によっては、予定していた内容を消化できない場合があることを予め断っておく。また、受講生の興味・関心によっては、授業内容を変更することもある。予定していた内容が消化できなかった場合には、受講生から希望を聴取し、講義内容を変動して対処する。</p> <p>「心理学」はカウンセリングなどの臨床心理学だけに限らず、さまざまな領域を扱う幅の広い学問である。初めて学ぶ方がほとんどだと思われるが、先入観にとらわれず、様々な分野の心理学について、興味を持って受講してほしい。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		A	
問い合わせ・質問先		教務室(宮野)	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	人の心はどうしてわかるかの概略について理解できる		
	第 2 週	歴史と方法	心理学の歴史の概略を理解できる	
	第 3 週		心理学の方法の概略を理解できる	
	第 4 週	感覚と知覚	感覚の一般的性質を理解できる	
	第 5 週		色覚について理解できる	
	第 6 週		空間知覚と運動の知覚をについて理解できる	
	第 7 週	学習	学習とは何かを説明できる	
	第 8 週		学習におけるさまざまな原理を理解できる	
-			-	
後 学 期	第 9 週	学習	学習におけるさまざまな原理を理解できる	
	第 10 週	記憶	記憶とは何かを理解できる	
	第 11 週		記憶の種類を理解できる	
	第 12 週		記憶と忘却について理解できる	
	第 13 週	意識・言語	意識について理解できる	
	第 14 週		言語について理解できる	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	動機づけと情動	動機づけと情動の基礎について理解できる	
	第 17 週		動機づけについて理解できる	
	第 18 週		情動について理解できる	
	第 19 週	発達	臨界期と敏感期について理解できる	
	第 20 週		発達初期に関する理論について理解できる	
	第 21 週		さまざまな発達理論について理解できる	
	第 22 週		さまざまな発達理論について理解できる	
	第 23 週	性格	人格のとらえ方について理解できる	
	-			-
	第 24 週	性格	人格検査について理解できる	
	第 25 週		心理的な個人差について理解できる	
	第 26 週	対人関係	対人魅力について理解できる	
	第 27 週		リーダーシップ理論について理解できる	
	第 28 週		対人関係論について理解できる	
第 29 週	集団について理解できる			
第 30 週	ストレスとこころ	ストレスとは何かを説明できる		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
倫理			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	大崎富雄
科目概要			
<p>私たちが生きる現代社会は複雑な構造を持ち、そこから派生する諸現象は混沌とした様相を呈している。これら現代社会が直面する倫理的課題を、人間というものを様々な角度から分析、捉え直す「人間とは何か」という思考を基軸に、これまでの知の全体像を、学域を超えて考察する。</p>			
キーワード： 人間 思考 生命 地球 宇宙 環境			
教科書		参考書	関連する科目・資格
なし。必要に応じプリントを配布		授業中に紹介する	科目： 資格：
評価方法			
評価項目	%	成績は期末試験・中間試験・レポート・学習態度などを総合的に判断し評価する	
期末試験	50		
中間試験	30		
レポート	15		
学習態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは板書したものだけでなく、口頭での説明も書くこと。 ・授業で紹介する参考文献は読むように心がけること。 ・様々な事象を多角的に捉え、徹底的に思考する習慣を身に付けること 			
関連する本校の学習・教育目標			A
問い合わせ・質問先			1階104室（教員室）

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前期	第 1 週	ガイダンス/人間の現在	応用倫理学の方法を理解できる。	
	第 2 週	宇宙・地球・生命	宇宙・地球・生命の基本的概念を理解できる。	
	第 3 週	人間の科学 ()	人間研究の現在の状況を理解できる。	
	第 4 週	人間の科学 ()	人間研究の現在の状況を理解できる。	
	第 5 週	哲学の概念と方法 ()	ギリシア以来の哲学的思考法を理解できる。	
	第 6 週	哲学の概念と方法 ()	ギリシア以来の哲学的思考法を理解できる。	
	第 7 週	生・存在するということ ()	存在することとは何か、その意味を理解できる。	
	第 8 週	生・存在するということ ()	存在することとは何か、その意味を理解できる。	
	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	死 ()	人類における死の概念の特質を理解できる。	
	第 10 週	死 ()	人類における死の概念の特質を理解できる。	
	第 11 週	死 ()	人類における死の概念の特質を理解できる。	
	第 12 週	宗教とは何か ()	宗教の初期的形態、その特質を理解できる。	
	第 13 週	宗教とは何か ()	キリスト教・イスラム教の思考の特質を理解できる。	
	第 14 週	宗教とは何か ()	仏教哲学の思考、東洋的思考の特質を理解できる。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後期	第 16 週	歴史哲学 ()	歴史哲学の方法を理解できる。	
	第 17 週	歴史哲学 ()	歴史哲学の方法を理解できる。	
	第 18 週	科学の方法 ()	科学の方法論、その特質を理解できる。	
	第 19 週	科学の方法 ()	科学の方法論、その特質を理解できる。	
	第 20 週	心理学の方法 ()	西洋的心理学の方法論、その特質を理解できる。	
	第 21 週	心理学の方法 ()	東洋的意識概念、その特質を理解できる。	
	第 22 週	現代の倫理的課題 ()	現代の倫理的課題の状況を理解できる。	
	第 23 週	現代の倫理的課題 ()	現代の倫理的課題の状況を理解できる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	バイオエシックス ()	生命の倫理的課題の状況を理解できる。	
	第 25 週	バイオエシックス ()	生命の倫理的課題の状況を理解できる。	
	第 26 週	バイオエシックス ()	生命科学と生命倫理について理解できる。	
	第 27 週	バイオエシックス ()	生命科学と生命倫理について理解できる。	
	第 28 週	環境倫理 ()	環境とは何か、その定義を理解できる。	
	第 29 週	環境倫理 ()	地球科学、環境科学について理解できる。	
	第 30 週	環境倫理 ()	環境ホルモンについて理解できる。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
英語資格技術			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	学修 2	前・後	大原しのぶ
科目概要			
<p>TOEIC、工業英検（4級）、実用英検（準2級）、センター試験、観光英検（3級）など様々な形式の英語資格試験の問題を英語の語順のまま意味を理解することを意識しながら回答することで英語力を向上させることと、毎週リスニングの宿題をすることで、英語の音に慣れることを目的とする。</p>			
<p>キーワード： TOEIC、英語資格試験、英語の語順、英語の音</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「徹底対策TOEIC TESTリスニング」、山下光洋・村松美映子・Peter Keyes・Wayne I Phipp, 鶴見書店</p>		<p>英和辞典 「総合英語フォレスト6訂版」、石黒昭博監修, 桐原書店</p>	<p>科目：国際英語コミュニケーションI, 英語総合技能I 資格：TOEIC, TOEIC Bridge, 実用英検, 工業英検, 観光英検</p>
評価方法			
評価項目	%	<p><u>定期試験</u>： 定期試験は学習した内容のリーディング、文法、単熟語をその範囲とし、リスニングは含まない。 <u>小テスト</u>： 各単元終了後に行われる文法小テストや単熟語の小テスト。 <u>宿題</u>： 学修の科目なので授業1時間分に相当するリスニングや次回の授業の予習プリントとし、授業の2日前に提出する。 <u>授業態度</u>： 忘れ物も含み5%以上の減点もある。</p>	
定期試験	45		
小テスト	20		
宿題	30		
授業態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>毎週課される宿題を丁寧に授業に臨むのとそうでないのでは、授業の理解度、TOEICやその他の資格試験の点数の伸びが全く違ってきますので、宿題は必ず丁寧に、年度末に年間の総合勉強時間が分かるよう所定の用紙に時間数を記入して下さい。</p> <p>配布プリントはファイルし復習に役立つよう整理して下さい。</p> <p>様々な形式の英語資格試験に対応できるだけの基礎力をつけることを意識して積極的に練習問題に取り組んで下さい。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		C	
問い合わせ・質問先		1階301室（教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	授業概要の説明	どのように受講するか、どのように宿題をするかの確認。	
	第 2 週	リスニング模擬テスト (TOEIC Bridge)	年度末にリスニングの伸長を計る資料とする。	
	第 3 週	文法 (TOEIC, TOEIC Bridge) 練習問題	TOEIC, TOEIC Bridgeに出題される文法事項の傾向を認識する。	
	第 4 週	品詞	品詞 (動詞、副詞、形容詞、名詞) の違いを理解する。	
	第 5 週	品詞	TOEIC, TOEIC Bridgeに出題される品詞の問題に慣れる。	
	第 6 週	品詞の復習、小テスト	品詞を習得する。	
	第 7 週	時制 (Tense)	現在形、過去形、未来形を正しく理解する。	
	第 8 週	相 (Aspect)	完了形、進行形を正しく理解する。	
	-			-
	第 9 週	時制と相の練習問題	TOEIC, TOEIC Bridgeに出題される時制と相の問題に慣れる。	
	第 10 週	時制と相の復習、小テスト	時制と相を習得する。	
	第 11 週	TOEIC Bridgeの購読	TOEIC Bridgeの購読の問題を解くコツを習得する。	
	第 12 週	TOEICの購読	TOEICの購読の問題を解くコツを習得する。	
	第 13 週	単語小テスト、工業英検 (A)	II, VII (単語) の傾向の認識、I の英文の意味の把握。	
	第 14 週	工業英検 (A) 前期末テスト対策	III の英文の意味を把握し正しい答えを選ぶ。前期学習範囲の理解	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後 学 期	第 16 週	工業英検 (A)	I V, V, V I の英文の意味を把握し、正しい答えを選び。	
	第 17 週	工業英検 (B)	I・I I I の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 18 週	工業英検 (B)	I V, V, V I の英文の意味を把握し、正しい答えを選び。	
	第 19 週	工業英検小テスト	既習の内容が理解できているか確認。	
	第 20 週	センター試験	8 ~ 17 の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 21 週	センター試験	18 ~ 26 の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 22 週	センター試験	27 ~ 31 の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 23 週	センター試験の復習と小テスト	既習の内容が理解できているか確認。	
	-			-
	第 24 週	実用英検	文法問題の英文の意味を把握し、文法事項も理解する。	
	第 25 週	実用英検	英作問題の英文の意味を把握し、文法事項も理解する。	
	第 26 週	実用英検	購読問題の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 27 週	実用英検の復習と小テスト	既習の内容が理解できているか確認。	
	第 28 週	観光英検	2, 3 の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
	第 29 週	観光英検	4, 5 の英文の意味を把握し、正しい答えを選ぶ。	
第 30 週	後期末テスト対策	後期学習範囲の理解。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
数学特論			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	学修 2	前・後	松本昇久
科目概要			
<p>より高度な工学の分野には、これまでのように、単に与えられた問題の解答を求めるだけでは不十分であり、その根底にある理論的な裏づけを、数学を用いて理解することが不可欠となってくる。本科目では、4年次まで学んできた微分積分・線形代数の内容をさらに発展させ、工学でのさまざまな領域で用いられる「ベクトル解析・ラプラス変換・フーリエ解析・複素関数」の数学的な基本概念について学習し、工学の道を歩く際に必要となる数学的な土台を形成することを目的とする。</p>			
キーワード： ラプラス変換、フーリエ級数 ベクトル値関数、複素関数			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「新訂応用数学」、高遠・斎藤他、大日本図書	「新訂線形代数」 「新訂微分積分」 「新訂微分積分」 はすべて、高遠・斎藤他、大日本図書	科目：基礎数学、基礎数学、 微分積分、微分積分、 線形代数、線形代数 資格：	
評価方法			
評価項目	%	<p>本講義は学修単位であるため、1時間の授業に対して2時間分の課題が毎回出題される。この課題が提出されない場合は単位が認められない。</p> <p>試験：授業における講義内容と演習の成果を総合的に判断することを主とする。試験（100点満点）の平均の6割を評価に加える。</p> <p>課題：本講義が学修単位であるために提出が必須となっている課題は、授業内容の理解度や演習量を判断するための材料として用い、評価の3割を占める。</p> <p>授業態度：授業態度が不良の者については評価からの減点を行う。</p>	
試験	60		
課題	30		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>(1) 理解できるまで考え続け、自ら学び取るという姿勢を身に付けること！</p> <p>(2) 質問は遠慮なくすること！ ただし、単に「わからない」ではなく、「自分が理解できたところはどこまでなのか」、「どの部分からが、理解できないのか」が伝わるように質問すること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	D, E		
問い合わせ・質問先	2階215室（数理教員室）		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	ラプラス変換の定義	ラプラス変換の定義が理解できる。	
	第 2 週	ラプラス変換の基本性質	ラプラス変換の基本的な概念が理解できる。	
	第 3 週		ラプラス変換を具体的に計算で求めることができる。	
	第 4 週	ラプラス変換の表	ラプラス変換の表が理解できる。	
	第 5 週		ラプラス変換の表を利用し、ラプラス変換できる。	
	第 6 週	逆ラプラス変換	逆ラプラス変換の基本的な概念が理解できる。	
	第 7 週		逆ラプラス変換を具体的に計算で求めることができる。	
	第 8 週	ラプラス変換の応用	微分方程式に応用し、その解を求めることができる。	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	フーリエ級数の定義	周期 2 の関数におけるフーリエ級数の定義を理解できる。	
	第 10 週		一般の周期の関数におけるフーリエ級数の定義を理解できる。	
	第 11 週	フーリエ級数の展開	周期 2 の関数をフーリエ級数に展開できる。	
	第 12 週		一般の周期関数をフーリエ級数に展開できる。	
	第 13 週	フーリエ変換の定義	フーリエ変換の定義が理解できる。	
	第 14 週	フーリエ変換の表	フーリエ変換表を利用できる。	
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検	
後 学 期	第 16 週	複素数の定義	複素数の定義が理解できる。	
	第 17 週		複素数を用いて、具体的な計算ができる。	
	第 18 週	複素数の絶対値、偏角	複素数の絶対値、偏角、極形式等の基本概念が理解できる。	
	第 19 週		複素数の絶対値、偏角、極形式に関する基本的な計算ができる。	
	第 20 週	複素関数	複素関数の定義が理解できる。	
	第 21 週		複素関数の基本性質とその例を理解できる。	
	第 22 週	正則関数	正則関数の定義が理解できる。	
	第 23 週		正則関数の基本性質とその例が理解できる。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	ベクトルの定義と基本性質	空間内のベクトルの定義が理解できる。	
	第 25 週		空間内のベクトルの基本性質とその例が理解できる。	
	第 26 週	ベクトルの外積	ベクトルの外積の定義が理解できる。	
	第 27 週		ベクトルの外積を具体的に求めることができる。	
	第 28 週	ベクトル関数	ベクトル関数の定義が理解できる。	
第 29 週	ベクトル関数に関わる事項が理解できる。			
第 30 週	ベクトル関数の応用	曲線をベクトル関数で表し、微分法により解析できる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
デザイン概論			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	小高有普
科目概要			
<p>日常生活の中で日々疑問を持ち、それを問題解決する能力は、エンジニアとして必要不可欠な能力である。本講義では、これを体得すべく数名のグループにより新しい発想、価値を創出して行く訓練をする。実社会の中で行われるエンジニアリング活動同様に、数名によるアイデア創出や問題解決は、実践的な経験による社会人としてのあるべき協調性、自主性、統括性、探究心などを身につける。テーマに添った新しいものを、プロセスを踏んで生み出すことを習得する。</p>			
キーワード： エンジニアリングデザイン、デザインシンキング、コミュニケーションドローイング			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
なし。必要に応じプリントを配布	なし	科目： 資格：	
評価方法			
評価項目	%	<ol style="list-style-type: none"> 個人課題 ~ 中間発表 の提出物を基礎課題として評価する。 グループ課題 ~ 中間発表 を成果課題として評価する。 成果発表と最終提出物を作品として評価する。 皆出席を30とし、グループ内での非協力的な行動などがあれば減点とする 	
基礎課題	15		
成果課題	25		
作品	30		
学習態度	30		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ol style="list-style-type: none"> エンジニアが開発する際のプロセスを理解する。 チーム作業なので全員協力してやること。チーム内で非協力的者は減点対象とする。 作業計画はチーム内で決め、役割も個々に平均的に与えること。 モデルに必要な道具は各自で揃えること。(学校にあるもの以外) 			
関連する本校の学習・教育目標	B, E		
問い合わせ・質問先	2階209室小高まで		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	デザイン概論について	ものづくりにおけるエンジニアデザインについて理解する	
	第 2 週	個人課題	課題に添ったテーマの創出をする	
	第 3 週	個人課題	テーマの具体策を考える	
	第 4 週	グループディスカッション	役割分担、工程表の作成/グループで進行する方法を学ぶ。	
	第 5 週	グループ課題	個々が持ち込んだテーマのディスカッション	
	第 6 週	グループ課題	グループでテーマを選択する/意思決定をする	
	第 7 週	グループ課題	テーマ発表準備	
	第 8 週	グループ課題	テーマ発表	
	-			-
	第 9 週	グループ課題	テーマの改善及び情報収集	
	第 10 週	グループ課題	アイデアを出す アイデアの出し方を学ぶ	
	第 11 週	グループ課題	アイデアに対しての分析、採用決定をする	
	第 12 週	グループ課題	具体案とその調査、検討	
	第 13 週	グループ課題	具体案とその調査、検討	
	第 14 週	中間発表準備	情報のまとめ	
-			-	
第 15 週	自己点検	情報のまとめ及び、今までのプロセスチェック		
後 期	第 16 週	中間発表	中間発表と評価、改善検討	
	第 17 週	グループ課題	改善策のまとめ	
	第 18 週	グループ課題	モデル作成計画と役割分担 モデルの構想	
	第 19 週	グループ課題	モデル作成	
	第 20 週	グループ課題	モデル作成	
	第 21 週	グループ課題	モデル作成	
	第 22 週	中間発表	モデル評価、改善検討	
	第 23 週	グループ課題	改善モデル作成	
	-			-
	第 24 週	グループ課題	改善モデル作成	
	第 25 週	グループ課題	プレゼンにあたっての計画、役割分担、構想	
	第 26 週	グループ課題	プレゼンテーション用資料作成	
	第 27 週	グループ課題	プレゼンテーション用資料作成	
	第 28 週	グループ課題	プレゼンテーション用資料作成	
	第 29 週	発表準備	発表のための資料まとめ、原稿準備	
	第 30 週	成果発表	チームごとに発表する	
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	授業と修学成果を自己点検する。		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Advanced English II (Comics)			Computer Engineering & International Communications 5 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	2	1 & 2	Sarah Forbes
Course Overview			
<p>Comics and graphic novels are popular for a reason. They give us images to complement stories, their pictures offer clues to interpret what we read, and their action-packed pages keep us engaged. This genre of literature is vast and exciting, offering many opportunities for discovery of culture and language. In this course, you will explore English through a variety of comic-based activities, including reading, discussion, comic creation, filling in blank comics, and examining comics over time. We will focus on comic elements like paneling and scripting, but also on the unique language and humor that can be found in comics.</p>			
<p>Keywords : Comics, editorial cartoons, graphic novels, literacy</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
N/A		Newspaper comic strips, English graphic novels, online resources, Handouts	Subjects : Literacy Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> • Initial assessment to evaluate students' English comic reading level and interests. • Rubrics to evaluate student completion of classroom activities, and discussions and cooperation with classmates. • Student effort and enthusiasm in class assessed through teacher observation and student rubric. • Comic journals will be reviewed for depth and completion. • Projects will include student-generated comics, oral and written comic scripting, character profiles, and oral reports. 	
Class work & Comic journal	40		
Projects	30		
Participation/ Effort/Attitude/ Attendance	30		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>If you enjoy reading comics and graphic novels (<i>manga</i>), then use your enjoyment of this literature to engage in this course. You will sometimes need to read things different from your usual choice of reading material, but try your best to see the value in everything we read or look at. Try to use English as much as you can when discussing comics for extra practice. Don't be afraid to have fun with English, and make mistakes! Also, don't be afraid to draw, even if you don't feel you have artistic talent, you can produce interesting comic pictures.</p> <p>In your free time, read English versions of your favorite <i>manga</i>, and use free online comic websites to enhance classroom learning. Share what you are reading with your teacher and friends, and try to talk about and use the language you learn through reading.</p>			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

	Week	Contents	Achievement Goals	Check
1st Semester	Week 1	Orientation & Introduction	Get to know comics and our comic interests	
	Week 2	Going Graphic	Explore the art of comics & graphic novels, create comic journal (weekly or bi-weekly submission required)	
	Week 3	Comic format & Graphic Language	Discuss elements of comic art and dialogue, such as paneling and sounds, and examine various comics for these elements	
	Week 4	Make – A - Title	Determine comic topic and find a title	
	Week 5	Sequencing & Predicting: Add – A – panel	Expand an existing comic with a new panel	
	Week 6	Funny or not?	Look at and discuss various cartoons for their funny factor	
	Week 7	Comic Conversation: Fill – It – Up	Choose a comic with deleted text and fill it up with your own text and story line	
	Week 8	Comic Report	Report to the class on your ongoing comic study journal	
	-			-
	Week 9	Editorial Panel Detectives	Explore editorial cartoons, the messages and meanings	
	Week 10	Editorial Panel Detectives	Group research and data analysis of editorial cartoons	
	Week 11	Editorial Panel Detectives	Report on research with examples, or create your own cartoon	
	Week 12	From Comic to Animation	View an animated version of a graphic novel - <i>Persepolis</i>	
	Week 13	Wordless Comics	Scripting – Creating oral scripts	
	Week 14	Wordless Comics	Scripting – Creating written scripts / Act-it-out	
-			-	
Week 15	Comic Report	Report to the class on your ongoing comic study journal.		
2nd Semester	Week 16	Time Traveler	Examine comics from different time periods	
	Week 17	Time Traveler	Choose a research focus within “comics through time”	
	Week 18	Time Traveler	Research your focus in available comics over time.	
	Week 19	Time Traveler	Present on your research, your section of the “comic time line”	
	Week 20	Graphic Novels	Explore culture through graphic novels	
	Week 21	Graphic Novels	Look at sections of graphic novels to compare and contrast	
	Week 22	Graphic Novels	Character Report Card – Choose a graphic novel favorite	
	Week 23	Comics from Scratch	Determine Production Teams and Topics	
	-			-
	Week 24	Comics from Scratch	T-chart and research, narrow topic	
	Week 25	Comics from Scratch	Plotting the story – Page plots and panel descriptions	
	Week 26	Comics from Scratch	Roughing In – Drawing up the pictures	
	Week 27	Comics from Scratch	Captions and Dialogue on panel description page	
	Week 28	Comics from Scratch	Editing & Revisions	
	Week 29	Comics from Scratch	Lettering, inking, and coloring	
	Week 30	Comics from Scratch	Finishing	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Final Comic Journal Report		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Advanced English II (Computer)			Computer Engineering & International Communications 5 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 2	1 & 2	Bruce Gaylord
Course Overview			
<p>In this class, students will use a variety of innovative computer and web-based English applications to produce English content including individual and group writing and presentation activities. Students will also be introduced to several new web-based tools to create imaginative English projects. They will share their activities, presentations and projects with their classmates.</p>			
<p>Keywords : Word Processing Applications, Presentation applications, Web-based English applications and tools</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
None		Instructor-designed materials hand-outs, online resources and electronic documents.	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Students will be evaluated on: <ul style="list-style-type: none"> • Individual and group writing activities • Individual and group presentation activities • Individual and group presentations • Web-based activities and projects • Participation and attitude 	
Activities and Presentations	45		
Projects	45		
Participation	10		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>This is an English computer class and students are expected to try to communicate in English and they are expected to use the English operating system at all times.</p> <p>Students should come to class with a positive attitude, ready to work to the best of his or her ability. Students are expected to finish work on time. If a student misses a class, he or she is expected to make up missed work.</p> <p>Students must keep an up-to-date file and bring it and a pencil/pen to every class.</p>			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Class syllabus, goals, mechanics	Student understands the syllabus and how class will be taught.	
	Week2	Word Processing Application 1	Student can use toolbars and icons; save and move a document.	
	Week3	Activity #1	Student can start a new document and input information.	
	Week4	Activity #2	Student can complete assigned activity.	
	Week5	Word Processing Application 2	Student can use toolbars and icons; save and move a document	
	Week6	Activity #1	Student can start a new document and input information.	
	Week7	Activity #2	Student can complete assigned activity.	
	Week8	Presentation	Student can plan and present a writing activity to classmates.	
	-			-
	Week9	Web-based Tool	Student can use the user interface; save and move a document.	
	Week10	Activity	Student can start a new “document” and input information.	
	Week11	Online Activity	Student can use the user interface; save and move a document.	
	Week12	Activity	Student can start a new “document” and input information.	
	Week13	Presentation Application 1	Student can use the User Interface and save and move a document.	
	Week14	Activity #1	Student can start a new presentation and create suitable content.	
-			-	
Week15	Self-evaluation			
2nd Semester	Week16	Activity #2	Student can start a new presentation and input information.	
	Week17	Presentation	Student can plan and present a project to classmates.	
	Week18	Presentation Application 2	Student can use the User Interface and save and move a document.	
	Week19	Activity #1	Student can start a new presentation and create suitable content.	
	Week20	Activity #2	Student can start a new presentation and create suitable content.	
	Week21	Oral Presentation	Student can present project to classmates for peer evaluation.	
	Week22	Presentation Application 3	Student can use the User Interface and save and move a document.	
	Week23	Activity #1	Student can start a new presentation and create suitable content.	
	-			-
	Week24	Activity #2	Student can start a new presentation and create suitable content.	
	Week25	Presentation	Student can plan and present a project to classmates.	
	Week26	Web-based Tool	Student can use the user interface; save and move a document.	
	Week27	Activity	Student can start a new “document” and create suitable content.	
	Week28	Online Activity	Student can use the user interface; save and move a document.	
	Week29	Activity	Student can start a new “document” and create suitable content.	
	Week30	Last class	School and teacher surveys.	
-			-	
Week31	Self-evaluation/Closing			

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Advanced English II (Conversation)			Computer Engineering & International Communications 5 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 2	1 & 2	Le Nhung
Course Overview			
<p>Learning a language is more than just learning words and grammar; it's about learning the culture of the target language, too. In this class, students' understanding of English culture will be broadened through reading features and articles on contemporary topics and issues. This course will expand students' vocabulary and reinforce language skills by carefully leveled activities. Students will practice the language through accessible and fun quizzes, puzzles, and polls. Commenting on the stimulating stories gives students the chance to practice their comprehension of the story. Videos of real teens will allow students to practice their listening comprehension.</p>			
Keywords : English conversation course			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
Year-long subscription to <i>Team Magazine</i> , Scholastic Mary Glasgow, London		Mary Glasgow's on-line support (video, audio, interactive language games & activities)	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<ul style="list-style-type: none"> • In-class work: magazine article work oral skills activities • cooperative group-work Projects (projects graded using rubrics) • Daily Class Participation: active speaking/listening attitude effort attendance classroom language & questions 	
Class work	40		
Projects	30		
Participation	30		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<ul style="list-style-type: none"> • Come to class on time with your binder and pencil • Say hello and good-bye every class • Ask lots of questions to your teacher and classmates when you don't understand • Don't worry about making mistakes, just talk. • Don't be shy • Relax, have fun and smile! • Be kind and friendly to everyone in class • Be responsible for making up missed work and finishing assignments • Take advantage of the online resources available through your magazine subscription 			
Course Objectives		C	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Introduction to course	Understanding syllabus, grading policy; Getting to know each other	
	Week 2	Magazine Article, March 2012 Issue	Overview of latest issue; Pre-reading activities, Read article, Comprehension check activities, Grammar and vocabulary exercises, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio and read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.	
	Week 3	Magazine Article, March 2012 Issue		
	Week 4	Magazine Article, March 2012 Issue		
	Week 5	Magazine Article, March 2012 Issue		
	Week 6	Magazine Article, May 2012 Issue		Overview of latest issue; Pre-reading activities, Read articles, Comprehension check activities, Grammar and vocabulary exercises, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio and read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.
	Week 7	Magazine Article, May 2012 Issue		
	Week 8	Magazine Article, May 2012 Issue		
	-			-
	Week 9	Magazine Article, May 2012 Issue	Pre-reading activities, Read article, Comprehension check activities, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio, read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.	
	Week 10	Magazine Article, May 2012 Issue		
	Week 11	Project	Choose topic and format (video, audio, text), preparation, practice	
	Week 12	Project	Project practice & presentations	
	Week 13	Welcome Back, Summertime	Make a Word Cloud Fan about summertime activities.	
	Week 14	Summertime	Review games/activities	
-			-	
Week 15	Self-evaluation			
2 nd Semester	Week 16	Magazine Article, Sept. 2012 Issue	Overview of latest issue; Pre-reading activities, Read article, Comprehension check activities, Grammar and vocabulary exercises, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio and read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.	
	Week 17	Magazine Article, Sept. 2012 Issue		
	Week 18	Magazine Article, Sept. 2012 Issue		
	Week 19	Magazine Article, Sept. 2012 Issue		
	Week 20	Magazine Article, Sept. 2012 Issue		Comment on the articles and comment on classmates' comments.
	Week 21	Magazine Article, Nov. 2012 Issue	Overview of latest issue; Pre-reading activities, Read article, Comprehension check activities, Grammar and vocabulary exercises, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio and read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.	
	Week 22	Magazine Article, Nov. 2012 Issue		
	Week 23	Christmas Song	Pre-, While-, & Post-listening song from <i>Arthur Christmas</i>	
	-			-
	Week 24	Christmas Video	View film & post-viewing activities	
	Week 25	Welcome Back	2012 Year in Review – Classroom Jeopardy! Game	
	Week 26	Magazine Article, Jan. 2013 Issue	Overview of latest issue; Pre-reading activities, Read article, Comprehension check activities, Grammar and vocabulary exercises, Watch the accompanying video, Video follow-up activities, Listen to the accompanying audio and read transcripts, do the interactive activities, comment on the article and comment on classmates' comments.	
	Week 27	Magazine Article, Jan. 2013 Issue		
	Week 28	Magazine Article, Jan. 2013 Issue		
	Week 29	Project	Choose topic and format (video, audio, text), preparation, practice	
	Week 30	Project	Project practice & presentations	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Questionnaire, make-up presentations		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
応用数学			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	宮田一郎
科目概要			
<p>応用数学 を引き継いで、2階の常微分方程式の解法を学び、さらに、1変数関数の定積分を2変数関数の定積分である2重積分へと拡張する。2階常微分方程式においては、定数係数で斉次・非斉次のさまざまな線形・非線形微分方程式の解法を学び、演習によってその解法に習熟する。また、2重積分においては、1変数関数の定積分の求め方をうまく組み合わせることによって、2重積分の値が計算できるようになることを理解し、いくつかの立体図形の体積を求めることを通して、計算力を強化する。</p>			
<p>キーワード： 微分方程式の一般解・1つの解，2重積分，極座標変換，変数変換</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「新訂 微分積分」 高遠・斎藤，大日本図書		「やさしく学べる微分積分」 石村園子，共立出版 「やさしく学べる微分方程式」 石村園子，共立出版	科目：応用数学 資格：
評価方法			
評価項目	%	試験は演習も含めた通常の授業の成果を確認することを主とする。	
定期試験	70		
演習・課題	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>理解できないことがあれば、自分で調べるなり質問するなりして速やかに解決しておくこと。これを放っておくとますます理解困難になります。特に数学はこの傾向が強い科目なのでこのことは十分心得ること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		D	
問い合わせ・質問先		2階215室（数理教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	斉次線形微分方程式	特性方程式を解くことができる。	
	第 2 週	斉次線形微分方程式	特性方程式の解の種類を判別することができる。	
	第 3 週	斉次線形微分方程式	特性方程式を用いて、斉次微分方程式の一般解を求めることができる。	
	第 4 週			
	第 5 週	非斉次線形微分方程式	右辺がさまざまな関数の非斉次微分方程式の 1 つの解を求めることができる。	
	第 6 週	非斉次線形微分方程式		
	第 7 週	非斉次線形微分方程式		
	第 8 週	非斉次線形微分方程式		
-	前学期中間試験	(試験)	-	
第 9 週	非斉次線形微分方程式	非斉次微分方程式の一般解を求めることができる。		
第 10 週				
第 11 週				
第 12 週	いろいろな線形微分方程式	定数係数でない微分方程式の一般解を求めることができる。		
第 13 週				
第 14 週	総合演習	前期で学んだ解法を問題に応じて適用することができる。		
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検		
後 学 期	第 16 週	不定積分の復習	3年で学習した不定積分の計算ができる	
	第 17 週	定積分の復習	3年で学習した定積分の値を求めることができる。	
	第 18 週	2重積分	2重積分の計算ができる。	
	第 19 週	領域	領域と不等式の関係を理解できる。	
	第 20 週	領域付き 2重積分	領域が全て定数の 2重積分の計算ができる。	
	第 21 週	領域付き 2重積分	領域に変数が含まれている 2重積分の計算ができる。	
	第 22 週	体積	2重積分を用いて、立体の体積を求めることができる。	
	第 23 週	第22週までのまとめ	第16週から第22週までの授業の理解度を確認する。	
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	極座標の復習	領域を極座標で表すことができる。	
	第 25 週	極座標変換	極座標による変換を使って 2重積分の計算ができる。	
	第 26 週			
	第 27 週	変数変換の導入	領域のヤコビアンを求めることができる。	
	第 28 週			
第 29 週	変数変換	変数変換を使って 2重積分の計算ができる。		
第 30 週	総合演習	後期で学んだ解法を問題に応じて適用することができる。		
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
メカトロニクス			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	田村景明
科目概要			
<p>メカトロニクス の授業内容を基礎として、フィードバックシステムの制御、コンピュータと周辺装置間の通信技術を。後半では、arduinoマイコンを使用して自律型ロボットをグループで製作する過程を体験することによって、コンピュータと周辺装置とのインターフェイスおよびそのプログラミング技術を習得する。また、グループ単位でロボットの製作を行う。</p>			
<p>キーワード： PC , フィードバック制御 , ロボット製作 , arduino , C 言語</p>			
教科書		参考書	関連する科目・資格
<p>「最新メカトロニクス入門」, 舟橋宏明, 実教出版 配付資料</p>		<p>「創造実験 指導書」, 田村景明・坂倉忠和・館 宜伸, 金沢工業高等専門学校</p>	<p>科目：・メカトロニクス ・計算機システム 資格：・組込みソフトウェア技術者試験</p>
評価方法			
評価項目	%	<p>課題, 宿題の配点にはロボット製作, 発表, 報告書等を含む。 欠課1回(50分授業)につき, 2点減点する。 遅刻, 早退それぞれ1回につき, 1点減点する。 授業態度不良学生は評価項目に関係なく, 減点する。</p>	
前学期中間, 前学期末試験	35		
後学期中間, 後学期末試験	35		
小テスト	10		
課題・宿題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・創造実験 (4年), メカトロニクス (4年) 科目の復習をしっかりと行うこと。 ・ノートに記録を取ること。 ・ロボット製作では1グループにつき, 1台のロボットを製作する。 ・ロボット製作時には次の点に注意する。 <ul style="list-style-type: none"> 安全に注意すること。 グループ内でよくコミュニケーションをとること。 自分の分担について責任をはたすこと。 週報を書くこと。 			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		2階210号室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 期	第 1 週	ガイダンス, P C の概要		
	第 2 週			
	第 3 週	シーケンス制御の実際	シーケンス制御の例を理解する。	
	第 4 週			
	第 5 週	フィードバック制御の特性	フィードバック制御の特性を理解する。	
	第 6 週	伝達関数	伝達関数を理解する。	
	第 7 週			
	第 8 週	ブロック線図の等価変換。まとめ	ブロック線図の等価変換を理解する。第 8 週目までをまとめる。	
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
期	第 9 週	P I D 制御	比例制御, 積分制御, 微分制御を理解する。	
	第 10 週			
	第 11 週	P I D 制御の実際	P I D 制御の例を理解する。	
	第 12 週			
	第 13 週	シリアル通信	R S - 2 3 2 C 通信を理解する。	
	第 14 週	ノイズ対策。まとめ。	ノイズ対策を理解する。第 9 ~ 14 週目までをまとめる。	
	-	前学期定期試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	試験返却, 確認する。	
後 期	第 16 週	ロボット製作演習のガイダンス	ロボット製作について, 安全, 作業内容を理解する。	
	第 17 週	ロボットの設計	ロボットの設計書を作成する。	
	第 18 週	ロボットの走行系の講義・製作 ・講義 ・ハードウェア ・制御プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・モータ制御回路を理解する。 ・モータ制御プログラムを理解する。 ・モータの動作試験手順を理解する。 ・ギヤボックスを理解する。(ギヤ比の決定, 組み立て) ・ロボット本体の組み立てを理解する。 	
	第 19 週			
	第 20 週			
	第 21 週			
	第 22 週	ロボットの走行系動作試験	走行試験手順, 不具合箇所の発見および解決方法を理解する。 第 16 ~ 23 週目までをまとめる。	
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	センサの講義・動作試験	センサを理解する。	
	第 25 週	センサの実装, 試験, 走行調整	ロボット本体にセンサを実装し, 動作試験とその不具合の対処法を理解する。	
	第 26 週			
	第 27 週	ロボットの走行調整	制御アルゴリズムの調整, 総合動作テストを理解する。	
	第 28 週			
第 29 週	発表(競技会)	実際にロボットを走行させ, 発表することができる。		
第 30 週	ロボット製作の報告書作成	ロボット製作についてまとめる。		
-	後学期定期試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	試験返却, 確認する。		

平成 2 4 年度 学習支援計画書

科目名			クラス
卒業研究			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 6	前・後	坂倉忠和・今澤明男・藤澤武・館宜伸・ソングーロバート
科目概要			
<p>4年次までに情報技術者の基礎となる専門科目を学び、英語による国際コミュニケーション能力を育ててきた。卒業研究はその集大成である。5年次の科目ともリンクしながら、各自が情報工学の各分野の課題から1つのテーマを選択し、少人数のグループ単位あるいは個人でそのテーマに取り組む。口頭やパネルディスカッションなどによる中間発表、学年末の研究論文の作成、発表などを通じて、取り組んだ結果を明確にする。</p>			
キーワード：ものづくり，研究，制作，創作，調査，卒業論文			
教科書		参考書	関連する科目・資格
必要に応じて、担当教員より資料の配布を行う。必要に応じて資料（教科書等）を購入しなければならないことがある。		必要に応じて、LCより参考図書入手する必要がある。	科目：これまでの科目すべて 資格：特になし
評価方法			
評価項目	%	<p>評価の各項目は以下の通りである。</p> <p>「発表」は中間発表、学年末発表の内容を評価する。 「予稿・論文」は予稿原稿、卒業論文、およびその他の提出書類によって評価を行う。研究の質や成果の評価もこの項目に含まれる。 「活動状況」は活動態度、および活動週報を評価する。</p>	
発表	20		
予稿・論文	60		
活動状況	10		
出席状況	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>卒業研究での活動は、羅針盤を持たない航海に似ている。行き着いた場所は目指した場所ではないかもしれないし、誰も知らない貴重な発見があるかもしれない。また、一人では解決できない課題に遭遇するかもしれない。そのときには仲間や教員と十分な議論を行い、臆することなく新たな目標に向かって進んで欲しい。</p> <p>なお、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <p>毎週、活動内容を記録すること。 研究用ノートを準備し、アイデアや問題点を記録しておくこと。 質問は遠慮なくすること。 知識を確実に自分のものにするため、復習をすること。 放課後や長期休業中も自主的に活動し、最善を尽くすこと。</p> <p>卒業論文の予稿集は、後日製本印刷され概要集として発行される。また、卒業論文は製本され、LCの蔵書として永久保存される。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E, B	
問い合わせ・質問先		3階315室（光学演習室）	

	日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検
前 学 期	第 1 週	ガイダンス	(科目の性質上、詳細に記述することはできない。)	
	第 2 週	班決め・テーマの決定	テーマの検討を行い、目標を設定する。	
	第 3 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 4 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 5 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 6 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 7 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 8 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	-			-
	第 9 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 10 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 11 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 12 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 13 週	中間発表の準備	中間発表に向けて準備を整える。	
	第 14 週	中間発表	研究概要を分かりやすく説明する。	
-			-	
第 15 週	自己点検	活動週報などから前期の取り組みを振り返り、自己評価を行う。		
後 学 期	第 16 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 17 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 18 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 19 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 20 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 21 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 22 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 23 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	-			-
	第 24 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 25 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 26 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 27 週	活動継続	個別の目標を達成する。	
	第 28 週	学年末発表会の準備	発表会の準備を行う。	
	第 29 週	学年末発表会	学年末発表を行う。発表後に質問回答や修正を行う。	
	第 30 週	提出書類などの整備	卒業論文・予稿の手直し、および LC 登録書を完成させる。	
-			-	
第 31 週	自己点検自己評価	1 年間の取り組みを振り返り、自己評価を行う。		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Information Technology Laboratory II			Computer Engineering and International Communication, 5th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Akio Imazawa, Robert Songer
Course Overview			
<p>Students are assumed to have a basic ability to use programming structures and variables. Building upon programming experiences in previous years, the students will practice developing and modifying object-oriented software applications. From the very beginning, class activities will focus on the Java Swing library of graphical user interface (GUI) objects. In the second semester, students will work with a special role in a team to plan, execute, and evaluate a software localization project translating English software into Japanese. Instruction will be given in English with Japanese support and a focus on self-evaluation.</p>			
<p>Keywords : Object-Oriented Programming, Java, Eclipse IDE, Localization, Project Management</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<p>All materials will be provided on the internal course website: http://cle2.kanazawa-tc.ac.jp/CLE2Hub2.0/</p> <p>Additionally, object cards created by the teacher will be given out as a programming reference.</p>		<p>Java API Specification (linked from the course website) 改訂新Java言語入門 Eclipseによる体験学習Javaではじめるアルゴリズム入門</p>	<p>Subjects : 情報工学演習 コンピュータ演習</p> <p>Qualification Tests : Javaプログラミング能力認定試験</p>
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<p>At the least, students must complete the assignments and goals given to them.</p> <p>In addition, students will be asked to do self-evaluations on the course website in which they reflect on their own learning. They will be evaluated on their ability to reflect on what they learned; what they understood the least; how they can improve next time; and, at the completion of an assignment, the quality of their product and performance.</p> <p>The team project in the second semester includes various responsibilities allocated by team roles; presentations in the pre-project and post-project phases; and peer evaluations.</p>	
Self-Evaluation	10		
Assignments	50		
Team project	40		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>Come to class every day ready to challenge yourself. Concentrate on the material for the duration of the class. Unrelated activities during work time will earn you an absence for that hour. This one rule will be strictly enforced. Aside from that, you are free to study the material in whatever way is best for you.</p> <p>Do not be afraid to fail the first time you try something. Success is 99% failure. Write about your failures in your self-evaluation and explore ways to do better. If you do not understand something, you should ask about it.</p> <p>Remember:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. When in class, concentrate on the class and nothing else. 2. Bring your object cards with you to class every week. 3. Be aware of your own learning process and ways to improve. 			
Course Objectives		E、B	
Office		KTC 31-206、 KTC 31-209	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Class Introduction	Website usage, forming communities and a preliminary quiz	
	Week2	Introduction to Java Swingx	Make a “Hello World!” application for console and dialog box output	
	Week3		Extend “Hello World!” into an English conversation program	
	Week4	Thinking in Objects	Practice making window objects and passing parameters to method calls	
	Week5	Images and Labels Display	Begin an Icon Gallery application that displays icon images in a window	
	Week6		Learn about programming scope and continue working on Icon Gallery	
	Week7		Finish work on the Icon Gallery application	
	Week8	Buttons and Actions	Understand the basic concepts of buttons, action events and listeners	
	-			-
	Week9	Buttons and Actions	Look at an example program using buttons and action listeners	
	Week10	Button Game Development	Create buttons with state that turn on and off	
	Week11		Build a prototype for the button game using multiple buttons	
	Week12		Review the Button Game goals and finish the prototype	
	Week13		Use a 1-dimensional array to build a row of buttons	
	Week14		Use a 2-dimensional array to build a grid of buttons	
-			-	
Week15	Self-evaluation	Finish Button Game and complete a final self-evaluation report		
2nd Semester	Week16	Testing & Debugging	Investigate and fix bugs in a given application	
	Week17			
	Week18	Progress Management	Form teams and develop an IT project schedule	
	Week19	Project Planning	Develop a risk plan for the translation project	
	Week20	Project Proposal	Prepare a project proposal presentation	
	Week21	Pre-Project Presentations	Present on the translation project plan and schedule	
	Week22	Software Introduction	Investigate the source code of the English software	
	Week23	Software Localization	Understanding internationalized software	
	-			-
	Week24	Mid-Project Review	Practice a team review of the completed project work	
	Week25	Software Translation	Learn about character encoding issues in software development	
	Week26	Localization QA	Address quality assurance issues of localization	
	Week27	Project Wrap-up	Finish project work and submit all deliverables	
	Week28	Post-Project Review	Review the project and create a final presentation	
	Week29	Project Postmortem	Finish the project postmortem presentations	
	Week30	Postmortem Presentations	Present the project postmortems	
-			-	
Week31	Self-evaluation/Closing	Final self-evaluation and feedback		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
データベース			国際コミュニケーション情報工学 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	藤澤 武
科目概要			
<p>高度な情報化社会となった今日、情報処理システムが扱うデータの量は膨大であり、かつ、データ量は加速度を増して日々増大している。データ処理の中心的役割を担うデータベースの役割は重要なものとなってきている。</p> <p>本科目では、リレーショナルデータベースを中心にデータベースの概論とSQL言語を学ぶ。また実習を通して実務的かつ効率的なデータベースシステムを構築する技術の修得をはかる。</p>			
キーワード： データベース，MySQL，正規化			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「改定新版 これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎」，谷尻かおり，技術評論社	「かんたんUML」，オージス総研	科目：ソフトウェア工学，卒業研究 資格：データベーススペシャリスト，Oracleマスター	
評価方法			
評価項目	%	<p>定期試験は事前に告知した閾値に得点が届かなかった学生を対象に再テストを行うことがある。</p> <p>実習課題は未提出の場合は0点とし、提出された課題の平均点を演習課題の成績とする。学年成績は、各学期分を平均し、総合評価する。</p> <p>総合評価時やむを得ない場合、準備期間をおいた後、1回のみ再テストを行う。</p> <p>学習態度の評価として以下の行為1回につき2点の減点を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻 途中退席 指示に従わない 授業の進行を妨害する行為 <p>その他、授業態度として不適切と判断される態度や行為</p>	
定期試験	50		
実習課題	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>データベースは実社会で最も利用されているソフトウェアの一つです。多くの分野でデータベースの知識は必要となりますのでしっかり理解してください。授業は実習を中心に行います。わからないことは必ず質問して授業中に解決するようにしてください</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E，B		
問い合わせ・質問先	2階209室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検		
前期	第 1 週	オリエンテーション			
	第 2 週				
	第 3 週	オペレーション実習	サンプルアプリケーションのデータベース仕様を理解し、操作できるようになる。また、データベースの基本的な運用方法を学び、バックアップや復元ができるようになる。		
	第 4 週				
	第 5 週				
	第 6 週				
	第 7 週	SQL概説	SQLの基本的な文法と操作方法を理解する。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 8 週				
学	-	前学期中間試験	(試験)	-	
中期	第 9 週	インプリメント実習	データベースのモデリングドキュメントを理解し、内容どおりにデータベースが構築できるようになる		
	第 10 週				
	第 11 週				
	第 12 週				
	第 13 週	SQL概説	高度なSQLの文法と操作方法を理解する。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 14 週				
	学	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検		
後期	第 16 週	デザイン実習	正規化を理解し、仕様書に基づいてデータベースのモデリングができるようになる。また、データベースモデルからデータベースが構築できるようになる		
	第 17 週				
	第 18 週				
	第 19 週				
	第 20 週	インプリメント実習	要求定義から始まるすべての工程を実際におこない、データベースを用いたアプリケーションを作成する		
	第 21 週				
	第 22 週				
	第 23 週				
学	-	後学期中間試験	(試験)	-	
後期	第 24 週	オペレーション実習	大規模なデータを扱うデータベースを構築して実際に運用を行う。実社会のシステムに近いデータベースの運用方法を身につける。		
	第 25 週				
	第 26 週				
	第 27 週				
	第 28 週	データベース概論	実習の復習を行いデータベースの基本的な知識への理解を深める。必要に応じてビデオ教材を用いる		
	第 29 週				
	第 30 週				
	学	-	後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説及び自己点検			

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
通信ネットワーク			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修2	前・後	松本 裕
科目概要			
<p>インターネットやLANの普及等によって、仕事や生活に大きな影響を及ぼしているデジタルデータ通信ネットワークの基礎を学習する。情報の符号化技術、変調技術、多重化技術、同期方式、誤り制御方式、暗号化、データ圧縮方式、伝送制御技術、通信プロトコル等の基礎を理解した後、それらの応用としてのインターネット、WAN及びLANについて学習する。</p>			
キーワード： インターネット，LAN，TCP/IPプロトコル，WAN			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
「ネットワーク通信技術入門」, 佐藤 健, 翔泳社	「日経NETWORK」, 日経BP社 「80のキーワードから学ぶ基本ネットワーク技術」, Gene + 伊藤将人, 翔泳社	科目：創造実験 資格：工事担任者，ITパスポート，基本情報技術者	
評価方法			
評価項目	%	<p>前期に行う通信技術の基礎は、試験によって評価する。 後期に行うLAN及びインターネットは、主として課題作業で評価する。理解力、構成力、表現力等を評価し、詳細な評価基準及び評価要領は別途示す。また、試験によっても評価する。 10%は、学習態度によって評価する。</p>	
期末試験	30		
中間試験	30		
課題作業	30		
学習態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>通信技術の基礎は、前期に講義し、試験によって評価する。後期は、インターネット及びLANを題材とした課題作業を行い、行った結果を発表する。他の学生に聞いてもらいたい、と思うような作業を行うことが極めて重要である。過去、非常に優れたプレゼンを行った学生もいれば、読み方さえわからずに壇上に立った学生もいる。後者の場合には、再発表を行う。また、基本的事項は、試験によって評価する。</p> <p>ファイルを準備して、配布した参考資料及び練習問題を毎時間ごとに綴じること。定期的に確認し、学習態度に加える。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E, B		
問い合わせ・質問先	1階118室		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	データ通信方式	基本的な通信方式、同期方式及び多重化方式がわかる。	
	第 2 週	情報の符号化技術	アナログデータをデジタルデータに変換する過程がわかる。	
	第 3 週	デジタルデータ伝送方式	ベースバンド伝送方式の各種伝送波形を識別できる。	
	第 4 週	光ファイバ伝送方式	原理及び特性がわかる。	
	第 5 週	待ち行列	M/M/1モデルを使用して、待ち行列の計算ができる。	
	第 6 週	誤り制御方式	CRC方式によって、誤りの検出ができる。	
	第 7 週	データ圧縮方式	ハフマン符号化法によって、データ圧縮ができる。	
	第 8 週	これまでの復習		
学	-	前学期中間試験	(試験)	-
	第 9 週	データ圧縮方式	各種のメディアに対応した圧縮方式の概要がわかる。	
	第 10 週	デジタルデータ交換方式	パケット交換方式の概要と利点がわかる。	
	第 11 週	伝送制御	HDLC制御手順の概要と利点がわかる。	
	第 12 週	情報の保護と暗号化	DES方式、RSA方式及びMI X方式の概要がわかる。	
	第 13 週	OSI基本参照モデル	OSI基本参照モデルの概要と、その意義がわかる。	
	第 14 週	これまでの復習		
	-	前学期末試験	(試験)	-
後	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検	
	第 16 週	課題の説明 / 工大LAN見学	工大LANシステムの概要がわかる。	
	第 17 週	インターネット	インターネットの概要がわかる。	
	第 18 週	TCP/IPプロトコルスイート	プロトコル全体の概要がわかる。	
	第 19 週	TCP/IPプロトコルスイート	重要なプロトコルの概要がわかる。	
	第 20 週	発表 / LANとWANの概要	LANとWAN(インターネット)の相違がわかる。	
	第 21 週	発表 / イーサネット	イーサネットの概要と各種規格の特性がわかる。	
	第 22 週	発表 / LAN中継装置	ルータ及びスイッチの相違と、VLANの利点がわかる。	
	第 23 週	これまでの復習		
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	発表 / サーバ	LANに必要なサーバの概要がわかる。	
	第 25 週	発表 / セキュリティ	有線LANの主要なセキュリティ確保手段の概要がわかる。	
	第 26 週	発表 / WAN接続サービス	広域イーサ、IP-VPN及びインターネットVPNの利害得失がわかる。	
	第 27 週	発表 / 無線LAN	各種無線LANの特性及びセキュリティ確保手段の概要がわかる。	
	第 28 週	仮想化	各種の仮想化技術の概要とその利点がわかる。	
第 29 週	セキュリティ脅威と企業の対応	セキュリティ脅威と企業の対応状況の実情がわかる。		
第 30 週	これまでの復習			
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
マルチメディア			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	坂倉忠和
科目概要			
<p>現在、インターネット上では画像や音声などの種々の情報を統合したマルチメディアが利用されている。これらのマルチメディア情報はデジタル信号である。本講義では、主としてデジタル信号処理技術の基礎を学ぶ。特に、音声に対する信号処理に焦点を当て、実際に演習を行うことで、信号処理に関する理解を深める。また、画像や音声などの情報を統合したマルチメディア情報の作成方法を学習する。</p>			
キーワード： マルチメディア，信号処理，シンセサイザ，3DCG			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
原則として毎授業時にプリントを配布する。	「はじめてのBlender」山崎聡，工学社 「3DキャラクタアニメーションBlender」トニー・マレン，アスキー	科目：コンピュータグラフィックス 資格：マルチメディア検定ベーシック	
評価方法			
評価項目	%	<p>コンピュータによる演習が中心となるため、作品および課題に対する評価の大部分の割合を占めている。未提出の作品、課題が1つでもあれば、単位は認定されない。注意すること。 演習に対して、積極的に取り組むことが前提となっているため、取り組みに関する評価項目を設定しない。そのような取り組み姿勢が見られない場合には、全体の評価から減点する。</p>	
学期末試験	40		
作品	40		
課題	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>種々の分野の技術を統合して、最終的にデジタルコンテンツを作成します。これらは手間を掛けることで、より一層、素晴らしい作品になることでしょう。苦勞しながら、かつ、楽しみながら学習を進めていきましょう。なお、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <p>配布プリントを綴じるためのファイルを用意すること。また、参照しやすいように整理しておき、授業時には必ず持参すること。 (音声に関する)演習時には、各自、イヤホンやヘッドフォンを準備すること。 課題は提出期限までに、必ず完成させて提出すること。 配布プリントや資料をしっかりと読み、まず、自分で良く考えること。それでも分からない場合には、質問をして必ず解決すること。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	E，B		
問い合わせ・質問先	3階315室(光学演習室)		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	Mathematica	Mathematicaの基本操作が分かる。	
	第 2 週	純音の作成	純音を作成することができる。	
	第 3 週	音の合成	種々の純音を合成することができる。	
	第 4 週	フーリエ解析	簡単な周波数分析を行うことができる。	
	第 5 週	時間包絡	音声に対して、時間包絡を設定することができる。	
	第 6 週	F M音源	F M理論の概要が分かる。	
	第 7 週	音声データの作成	簡易シーケンサの仕組みが分かる。	
	第 8 週	音声の編集	簡単な音声の編集方法が分かる。	
	-			-
	第 9 週	作品の制作 (音声)	作品のアイデアをまとめることができる。	
	第 10 週		旋律部を作成することができる。	
	第 11 週		伴奏部を作成することができる。	
	第 12 週	Blenderの基本操作	基本操作 (配置、移動、拡大・縮小など) ができる。	
	第 13 週		回転体によって、オブジェクトを生成できる。	
	第 14 週		曲線からオブジェクトを生成できる。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	学期末試験の結果などにより、達成度を把握する。		
後 学 期	第 16 週	Blenderの基本操作	下絵を使ったやや複雑なモデリングを行うことができる。	
	第 17 週		カメラやライティングなどの設定方法が分かる。	
	第 18 週	作品の制作 (3DCG)	題材を選定することができる。	
	第 19 週		題材をオブジェクトとして表現できる。	
	第 20 週		チュートリアルを完成させることができる。	
	第 21 週	アニメーションの作成	(移動を用いた) 簡単なアニメーションを作成できる。	
	第 22 週		頂点アニメーションを作成できる。	
	第 23 週		カメラワークによるアニメーションを作成できる。	
	-			-
	第 24 週	アニメーションの作成	Armatureによるアニメーションを作成できる。	
	第 25 週	作品の制作 (アニメーション)	作品のアイデアをまとめることができる。	
	第 26 週		アイデアをアニメーションとして表現できる。	
	第 27 週		音声と統合し、デジタルコンテンツを作成できる。	
	第 28 週	信号処理システム	簡単なデジタル信号を種々の信号の和で表現できる。	
	第 29 週	線形時不変システム	たたみ込みによる信号の表現方法が分かる。	
第 30 週	z 変換	簡単な信号に対する z 変換を求めることができる。		
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
ソフトウェア工学			国際コミュニケーション情報工学 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	履修 2	前・後	藤澤 武
科目概要			
<p>ソフトウェアの開発者は、技術的・時間的・人的・その他の色々な制約がある中で要求されている機能と品質を備えたソフトウェアを作らなければならない。そのためにはどうしたら良いかを学ぶ。 本講義では、ソフトウェア開発における各工程を実際に疑似体験することにより基本的な考え方や各工程で採用されている技法を学ぶ。これによりソフトウェア開発者に必要とされる知識を総合的に身に付けることをねらいとする。</p>			
キーワード： ソフトウェア工学，UML			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「図解入門よくわかる 最新ソフトウェア開発の基本」，谷口功，秀和システム		「90分で学べる RFPの作り方」，日経BP かんたんUML，オーグス総研	科目：卒業研究 資格：
評価方法			
評価項目	%	演習課題は未提出の場合は0点とし、提出された課題の平均点を演習課題の成績とする。学年成績は、各学期分を平均し、総合評価する。 総合評価時やむを得ない場合、準備期間をおいた後、1回のみ再テストを行う。 学習態度の評価として以下の行為1回につき2点の減点を行う 遅刻 途中退席 指示に従わない 授業の進行を妨害する行為 その他、授業態度として不適切と判断される態度や行為	
演習課題	50		
定期試験	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>本授業ではチームによる作業、または複数の人とコミュニケーションをおこなう作業を重視しています。自ら積極的に参加し課題に取り組む姿勢が大切です。この演習によって、実社会に出れば必ずぶつかる多くの疑似体験ができると思います。また、仕事とは突き詰めると分業のことであり、自分の力や努力だけでなく他人の力を借りなければ成果を出せないこと、逆にチームプレイがうまく行けば個人で達成できる成果を大きく上回る成果をあげられることを学んでください</p> <p>課題の提出期限は守ること。 演習中に種々の問題、ハードルにぶつかると思います。チームワークを発揮して自力で克服するように努力してください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E，B	
問い合わせ・質問先		2階209室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	オリエンテーション	ソフトウェア工学の概要を理解する	
	第 2 週		ソフトウェア開発の理論と工程の全体像を理解する	
	第 3 週	要件定義演習	アイデアを出し合って開発するシステムを決定し、RFPを作成する。RFPを他のチームにプレゼンテーションする。	
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週	要求分析演習	他のチームが作成したRFPから要求分析を行い、システム提案書と要求仕様書を作成する。	
	第 8 週			
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	要求分析演習	要求仕様書のレビューを行う。レビュー結果をふまえてアップデートする	
	第 10 週			
	第 11 週	デザイン演習	要求仕様書に基づいて外部設計を行い、外部設計書を作成する。このとき後戻りが発生した場合は要求仕様書のアップデートも行う。	
	第 12 週			
	第 13 週			
	第 14 週			
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検	
後 学 期	第 16 週	デザイン演習	外部設計書に基づいて内部設計書とプログラム設計書を作成する。このとき後戻りが発生した場合は外部設計書のアップデートを行う	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週	オペレーション演習	総合テストケースと運用テストケースを作成する。テストケースを元に実際にテストを行い報告書を作成する	
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	後 学 期	第 24 週	オペレーション演習	運用マニュアルの作成を通して、セットアップ、バックアップ、復旧、データ更新といったシステム運用について理解する。
		第 25 週		
		第 26 週		
		第 27 週		
		第 28 週	まとめ	いままで作成した全てのドキュメントのアップデートを行い納品物を作成する。納品物の検収作業をおこなう。
		第 29 週		
第 30 週				
-		後学期末試験	(試験)	-
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説及び自己点検		

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Business English			Computer Engineering and International Communications 5 th Year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Required	履修 2	1 & 2	Bruce Gaylord and Omihito Matsushita
Course Overview			
<p>In this course, students will develop English technical communication skills for real-life “workplace” situations and will broaden their overall knowledge of English business communication. They will learn how to gather, organize, and present information effectively according to audience and purpose. Target language will be introduced through carefully designed exercises and activities. Each language skill will be followed by a hands-on activity or project that reinforces the learning objective, recycles the target language and provides real-world experience.</p>			
<p>Keywords : Business English, Business communication, Business skills, Business</p>			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
None		Instructor-designed materials handouts, electronic documents and on-line resources.	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Evaluation methods include: <ul style="list-style-type: none"> • Exercises and activities • Projects • Hands-on activities • Reports • Presentations • Vocabulary Tests • Participation and attitude 	
Exercises, Reports, and Presentations	40		
Projects and Hands-on activities	40		
Tests	10		
Participation and Attitude	10		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>This is an English class and students are expected to try their best to communicate with their teachers and classmates in English -- trying hard will be rewarded. When using a computer students are expected to use the English operating system.</p> <p>Students should come to class with a positive attitude, ready to work to the best of their ability. Students are expected to finish assignments on time. If a student misses a class, he or she is expected to make up missed work. Students are encouraged to use a computer in the computer room after school to complete unfinished or missed activities.</p> <p>Students must keep an up-to-date file and bring it and a pencil/pen to every class.</p>			
Course Objectives		C	
Office		Bruce Gaylord - 31.211; Omihito Matsushita - 31.315	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1st Semester	Week1	Class syllabus, goals, mechanics	Student understands the syllabus and how class will be taught.	
	Week2	Introduce English vocabulary	Students start acquiring English technical vocabulary, idioms and collocations.	
	Week3	Activity 1	Build - Test - Modify - Test	
	Week4	Activity 1	Report	
	Week5	Activity 2	Build - Test - Modify - Test	
	Week6	Activity 2	Report	
	Week7	Activity 3	Build - Test - Modify - Test	
	Week8	Activity 3	Present	
	-			-
	Week9	English vocabulary	Additional English technical vocabulary, idioms and collocations.	
	Week10	Project 1	Plan - Build	
	Week11	Project 1	Build - Test - Modify	
	Week12	Project 1	Test	
	Week13	Project 1	Report	
	Week14	Project 1	Present	
-	Test	English vocabulary	-	
Week15	Self-evaluation			
2nd Semester	Week16	Project 2	Plan - Build	
	Week17	Project 2	Build - Test - Modify	
	Week18	Project 2	Test	
	Week19	Project 2	Report	
	Week20	Project 2	Present	
	Week21	Project 3	Plan - Build	
	Week22	Project 3	Build - Test - Modify	
	Week23	Project 3	Test	
	-			-
	Week24	Project 3	Report	
	Week25	Project 3	Present	
	Week26	Project 4	Plan - Build	
	Week27	Project 4	Build - Test - Modify	
	Week28	Project 4	Test	
	Week29	Project 4	Report	
	Week30	Project 4	Present	
-	Test	English vocabulary	-	
Week31	Self-evaluation/Closing			

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
国際英語コミュニケーション			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	学修 2	前・後	大原しのぶ
科目概要			
<p>前年度に引き続きTOEICの得点向上を目指す。企業が新入社員に求めるスコアが430～660とされているので、より多くの学生が430点獲得できる実力を身につけるとともに、高得点を目指す学生に対してはさらに充実した課題で対応していく。</p>			
キーワード：			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
<p>「新TOEICテストコーパス英単語」、高橋基治、神崎正哉、高橋書店 「Seize the main points of the TOEIC」、林裕二ほか、金星堂</p>	<p>英和辞典 「新TOEICテスト文法・語彙問題ルール14」、松本茂監修、旺文社</p>	<p>科目：英語資格技術 資格：TOEIC, TOEIC Bridge</p>	
評価方法			
評価項目	%	<p><u>定期試験：</u> 定期試験はリーディング、文法、単熟語をその範囲とし、リスニングは行わない。 <u>小テスト：</u> 単元終了後に行う文法小テスト、「新TOEICテストコーパス英単語」からの単語テスト。 <u>宿題：</u> 学修の科目なので授業1時間分に相当するリスニング、単語、文法、リーディングの宿題を授業の2日前に提出する。 <u>授業態度：</u> 忘れ物も含み5%以上の減点もある。</p>	
定期試験	45		
小テスト	20		
宿題	30		
授業態度	5		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>毎週課される宿題を丁寧に授業に臨むのとそうでないのとでは、授業の理解度、TOEICの点数の伸びが全く違ってきますので、宿題は必ず丁寧に、年度末に年間の総合勉強時間が分かるよう所定の用紙に時間を記入して下さい。</p> <p>リスニングの宿題に費やした時間は必ずリスニング力向上に反映されるので、何度も何度も理解できるまで繰り返し聞いて下さい。</p> <p>配布プリントはファイルし復習に役立つよう整理して下さい。</p> <p>資格試験のための授業は単調になりがちですが、理解できた時の喜びを感じられるよう積極的に授業に臨んで下さい。</p>			
関連する本校の学習・教育目標	C		
問い合わせ・質問先	1階301室(職員室)		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	授業概要の説明	どのように受講するか、どのように宿題をするかの確認。	
	第 2 週	第 9 章 関係詞・代名詞	仮主語、使役動詞、代名詞を理解する。	
	第 3 週	第 9 章 関係詞・代名詞	関係代名詞、関係副詞を理解する。練習問題に正しく答える。	
	第 4 週	第 9 章の復習と小テスト	関係詞、代名詞を習得する。	
	第 5 週	第 9 章 購読	ウェブサイト形式の購読に慣れる。	
	第 6 週	第 10 章 仮定法	条件文（直説法）と仮定法過去の違いを理解する。	
	第 7 週	第 10 章 仮定法	仮定法過去と仮定法過去完了の違いを理解する。	
	第 8 週	第 10 章 仮定法	仮定法現在を理解する。	
	-			-
	第 9 週	仮定法の復習と小テスト	仮定法を習得する。	
	第 10 週	第 10 章 購読	表形式の購読に慣れる。	
	第 11 週	第 11 章 受動態	受動態の基本用法を理解する。	
	第 12 週	第 11 章 受動態	助動詞、不定詞、使役を含む受動態を理解する。	
	第 13 週	受動態の復習と小テスト	受動態を習得する。	
	第 14 週	前期末テスト対策	前期学習範囲の理解。	
-	前期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案返却・解説および自己点検。		
後 学 期	第 16 週	第 11 章 購読	広告形式の購読に慣れる。	
	第 17 週	第 12 章 否定・疑問	NOT以外の否定の表現を理解する。	
	第 18 週	第 12 章 否定・疑問	間接疑問文、付加疑問文を理解する。	
	第 19 週	否定・疑問の復習と小テスト	否定・疑問を習得する。	
	第 20 週	第 12 章 購読	新聞記事、論説記事形式の購読に慣れる。	
	第 21 週	REVIEW TEST 3	第 9 章～12 章の文法事項を理解する。	
	第 22 週	REVIEW TEST 3	第 9 章～12 章の購読を理解する。	
	第 23 週	新公式問題集テスト2の文法パート	既習の文法事項が理解できているか確認。	
	-			-
	第 24 週	新公式問題集テスト2の文法・購読パート	既習の文法事項、問題の購読が理解できているか確認。	
	第 25 週	新公式問題集テスト2の文法・購読パート	既習の文法事項、問題の購読が理解できているか確認。	
	第 26 週	新公式問題集テスト2の文法・購読パート	既習の文法事項、問題の購読が理解できているか確認。	
	第 27 週	模擬テスト(TOEIC) リスニング	4年次の年度初めに行ったTOEICのスコアとの伸長を計る。	
	第 28 週	模擬テスト(TOEIC)リスニング、文法	4年次の年度初めに行ったTOEICのスコアとの伸長を計る。	
	第 29 週	模擬テスト(TOEIC) 購読	4年次の年度初めに行ったTOEICのスコアとの伸長を計る。	
	第 30 週	後期末テスト対策	後期学習範囲の理解。	
-	学年末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説および自己点検。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
時事英語			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	学修 2	前・後	宇都宮隆子
科目概要			
<p>実際の英字新聞、インターネットで取り上げられている英文記事を題材にニュース英語に親しみ、読み方を学ぶ。ニュース英語に登場する語彙を分野別に学び、語彙を増やすことも目標とする。また、授業時間以外にも、興味のある英文記事を自身で選び読み進めていくことが求められる。幅広い分野の英文記事に慣れ親しみ、自身の読んだ記事を要約したり、単語リストなども作成していく。</p>			
キーワード： ニュース英語			
教科書		参考書	関連する科目・資格
The Japan Times News Digest/ニュース英語キーワード2011、ジャパントイムズ		The Japan Times News Digest Vol. 29 -Vol. 33 英字新聞	科目：英語科目全般 資格：TOEIC, 英検
評価方法			
評価項目	%	<p>期末試験：前期末及び学年末の2回試験を行う。 小テスト：「ニュース英語キーワード2011」に紹介されている重要語彙、および授業内で学習する語彙などを中心に出題する。学期中、計10回実施。 グループ課題：グループごとに自分たちの好きな英文記事を選び、記事の内容理解に欠かせないキーワードを見つけ要約する。パワーポイント等を使い、その内容をクラスで発表する。学期中、各グループ2回の発表を行わなくてはならない。 リーディング：「時事英語」のクラスでは授業中だけでなく、授業時間外にも自主的に英文記事を読むことが必要とされる。授業外では週2つ以上の記事を読むことを目標とする。読んだ記事のキーワードリスト・日本語の要約を用紙に書き、毎回提出。 授業態度：授業内プリントやアクティビティーに積極的に取り組んでいるか、また人の発表をしっかりと聞いているかなどの態度を評価していく。</p>	
期末試験	50		
小テスト	10		
グループ課題	10		
授業内外リーディング	20		
授業態度	10		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> - ニュース英語を難しいものと捉えず、「あの出来事のことを、英語ではどのように言うのか」というように、自分の知識が少しずつ増えることを楽しむようにする。 - 本科目では授業以外の時間、自発的に課題に取り組まなくてはならない機会が多い。受け身の学習だけではなく、自律的な学習姿勢を身につけることも重要となる。 - 辞書の活用は、自律的学習者になるための基本である。 - グループ課題では各々分担した仕事を、責任を持って行い、他の人の迷惑にならないようにする。 - 授業外リーディング課題は、毎週2つ以上の記事を読むことを目標とする。記事は英字新聞、インターネットの英文記事等から自分の興味のあるものを選ぶ。（* どのような英字新聞・ウェブサイトがあるかは、別紙参照） 			
関連する本校の学習・教育目標		C、E	
問い合わせ・質問先		1階103号室（教員室）	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	英文ニュース英語の特徴 / Quiz 1	英字新聞の紙面構成、英文記事の特徴を理解することができる。	
	第 2 週	「災害」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 3 週	Quiz 2 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 4 週	グループ課題についての説明	グループ発表の取り組み方について理解することができる。	
	第 5 週	「災害」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 6 週	Quiz 3 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 7 週	グループ発表 1	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 8 週	「政治・外交」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	-			-
	第 9 週	Quiz 4 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 10 週	グループ発表 2	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 11 週	「スポーツ」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 12 週	Quiz 5 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 13 週	グループ発表 3	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 14 週	復習	第 1 週から第 13 週までの復習。	
-	前学期末試験	(試験)	-	
第 15 週	自己点検	答案用紙返却及び、これまでの学習進捗状況の確認。		
後 学 期	第 16 週	「国際」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 17 週	Quiz 6 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 18 週	グループ発表 4	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 19 週	「国際」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 20 週	Quiz 7 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 21 週	グループ発表 5	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 22 週	「経済」関連の記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 23 週	Quiz 8 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	-			-
	第 24 週	グループ発表 6	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 25 週	「社会」に関する記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 26 週	Quiz 9 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 27 週	グループ発表 7	自分たちの読んだ記事を要約し、英語で説明することができる。	
	第 28 週	「文化」に関する記事を読む	内容理解に必要な重要語彙を理解し大意をつかむことができる。	
	第 29 週	Quiz 10 / 英字新聞を読む	興味のある記事を選んで読み、大意をつかむことができる。	
	第 30 週	復習	第 16 週から第 29 週までの復習。	
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について自己評価する。		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
計算機システム			国際コミュニケーション情報工学 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	藤澤 武
科目概要			
<p>コンピュータはソフトウェアとハードウェアの両方がそろって初めて動作する。本科目ではコンピュータのハードウェアの基本構成、および各構成要素の詳細について学習する。 さらに、ハードウェアとソフトウェアとの関係や、障害復旧やトラブルシューティングについても学習することによってハードウェアのメンテナンスやサポートといった実務に直結した知識も身につける。</p>			
キーワード：OS，ハードウェア，トラブルシューティング，大規模システム			
教科書		参考書	関連する科目・資格
「A+ Essentials テキスト220 - 701対応版」，TAC株式会社		「A+ Essentials 問題集」，TAC株式会社	科目：卒業研究， ソフトウェア工学 資格：CompTIA A+
評価方法			
評価項目	%	<p>課題は未提出の場合は0点とし、提出された課題の平均点を演習課題の成績とする。学年成績は、各学期分を平均し、総合評価する。 総合評価時やむを得ない場合、準備期間をおいた後、1回のみ再テストを行う。</p> <p>学習態度の評価として以下の行為1回につき2点の減点を行う 遅刻 途中退席 指示に従わない 授業の進行を妨害する行為 その他、授業態度として不適切と判断される態度や行為</p>	
定期試験	50		
課題	50		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>本科目ではハードウェアだけではなくOSといったソフトウェアについても学習することでハードウェアとソフトウェアの関係についても学習します。</p> <p>コンピュータの基本構成と基本動作はその誕生以来少しも変わっていません。コンピュータの最も基本となるハードウェアやシステム構成に関する知識を深めることはあらゆる分野の情報技術者にとって役立ちます。</p> <p>自分が興味ある分野や卒業研究との関係を常に意識しながら学んでください。</p>			
関連する本校の学習・教育目標		E，B	
問い合わせ・質問先		2階209室	

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前 学 期	第 1 週	コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史とコンピュータの仕組みを理解する	
	第 2 週			
	第 3 週	PCの構造	コンピュータの構成要素である電源、BIOS、バス・拡張バス、チップセット、CPU、メモリ、インターフェース・外部記憶装置、そして入出力装置について理解する	
	第 4 週			
	第 5 週			
	第 6 週			
	第 7 週	ノートPC	ノートPCのハードウェアに固有の特徴について理解する	
	第 8 週	まとめ	これまでの授業内容を整理しまとめることで理解を深める	
-	前学期中間試験	(試験)	-	
後 学 期	第 9 週	トラブルシューティング	トラブルシューティングに関する基本的な知識を体系的に身につけ、実習を通して理解を深める	
	第 10 週			
	第 11 週			
	第 12 週			
	第 13 週	オペレーティングシステム	WindowsOSの概要と設定方法を理解する	
	第 14 週			
	-	前学期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却・解説及び自己点検	
後 学 期	第 16 週	ケーススタディ	Googleの基盤システムについて、どのようにして巨大で高速なシステムを構築しているのかを調査し理解する	
	第 17 週			
	第 18 週			
	第 19 週			
	第 20 週	ケーススタディ	演習課題を通してソフトウェアシステムのハードウェア構成が設計できるようになると共にシステム構成図が作成できるようになる	
	第 21 週			
	第 22 週			
	第 23 週			
	-	後学期中間試験	(試験)	-
	第 24 週	WindowsOSの管理	WindowsOSの基本的な機能の管理、ユーザアカウントの管理、デバイス・ディスク・ファイルの管理方法とトラブルシューティングについて習得する	
	第 25 週			
	第 26 週			
	第 27 週			
第 28 週	まとめ	全体を通して学んだことを総括し、体系的に整理することで理解を深める。必要に応じてビデオ教材を用いる		
第 29 週				
第 30 週				
-	後学期末試験	(試験)	-	
第 31 週	自己点検自己評価	答案返却・解説及び自己点検		

平成24年度 学習支援計画書

科目名			クラス
情報理論			国際コミュニケーション情報工学科 5年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
選択	履修 2	前・後	今澤明男
科目概要			
<p>情報理論は、情報の伝達をいかに効率良く、高い信頼性を伴って行うかを考える学問である。本講義ではまず、集合論や組合せ論などの離散数学および確率論の基礎を学習し、数学的準備を行う。続いてエントロピーなどの基礎概念を学習する。さらに、シャノンが提案した通信系のモデルや情報源といった基本的諸概念、効率や信頼性を高めるための符号化法について学習する。</p>			
<p>キーワード： 集合、順列・組合せ、確率、情報量、エントロピー、通信系、符号化</p>			
教科書	参考書	関連する科目・資格	
原則として毎授業時にプリントを配付する。	「情報理論のエッセンス」平田廣則、昭晃堂 「わかりやすいデジタル情報理論」塩野充，オーム社	科目：通信ネットワーク 資格：基本情報処理技術者	
評価方法			
評価項目	%	<p>演習に積極的に取り組むことを前提に評価を行う。これを怠った場合は、単位の修得は困難になる。出欠・学習態度が不良の場合は、50点を限度として減点する。遅刻・早退も減点の対象とする。</p>	
前学期中間試験	20		
前学期末試験	20		
後学期中間試験	20		
後学期末試験	20		
小テスト等	20		
合計	100		
受講上のアドバイス			
<p>やや複雑な確率の計算や対数の計算が出てきます。解答を見て「分かった」で済ませずに、しっかり自分で解いてみて「出来た」を積み重ねていくことが大切です。なお、受講上の注意点を以下に示します。これらは必ず守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として毎週プリントを配付します。当科目用のファイル(A4サイズ)を必ず準備し、配付プリント等を復習しやすいように丁寧に保管・管理すること。 2) 演習問題に306F必ず納得するまで取り組むこと。 3) 質問は遠慮なくすること。 			
関連する本校の学習・教育目標	E		
問い合わせ・質問先	2階206室(今澤)		

日程	授業項目	到達目標または行動目標	点検	
前	第 1 週	集合論の基礎	集合に関する基本事項を理解し、基本演算を出来るようにする。	
	第 2 週			
前	第 3 週	順列と組合せ	順列ならびに組合せの算出をできるようにする。	
	第 4 週			
前	第 5 週	復習	第 4 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	第 6 週	確率 (1)	確率の意味を理解し、単純な事象の確率を求められるようにする。	
第 7 週				
前	第 8 週	復習	第 7 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	-	前期中間試験	(試験)	-
前	第 9 週	確率 (2)	独立事象を組み合わせた事象の確率を算出できるようにする。	
	第 10 週	確率 (3)	確率変数の期待値、分散、標準偏差を算出できるようにする。	
前	第 11 週	確率 (4)	条件付き確率について理解する。	
	第 12 週	確率 (5)	ベイズの定理を理解する。	
前	第 13 週	復習	第 12 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	第 14 週	情報量	情報量の定義を理解する。	
前	-	前期末試験	(試験)	-
	第 15 週	自己点検	答案返却をうけ、それまでの修学成果を自己点検評価する。	
後	第 16 週	情報量の計算	情報量の計算をできるようにする。	
	第 17 週	平均情報量	平均情報量を算出できるようにする。さらに条件付きエントロピーを算出できるようにする。	
第 18 週				
後	第 19 週	シャノンの通信系モデル	シャノンの通信系モデルについて理解する。	
	第 20 週	情報源のモデル	情報源のモデルについて理解する。	
後	第 21 週	通信路モデル	代表的な通信路を、行列および線図で表現できるようにする。さらに、伝送情報量を算出できるようにする。	
	第 22 週			
後	第 23 週	復習	第 22 週までの内容について復習し、理解を深める。	
	-	後期中間試験	(試験)	-
後	第 24 週	高効率の符号化	シャノン・ファノの符号化法ならびにハフマンの符号化法について理解する。	
	第 25 週			
後	第 26 週	誤り訂正符号	簡単な誤り訂正符号について理解する。	
	第 27 週	ハミング符号	ハミング符号を作成でき、誤り訂正のためのシンδροーム表を作成できるようにする。	
第 28 週				
後	第 29 週	巡回符号	巡回符号について理解する。	
	第 30 週	復習	第 29 週までの内容について復習し、理解を深める。	
後	-	学年末試験	(試験)	-
	第 31 週	自己点検自己評価	年間の授業と修学成果について、自己点検評価する。	

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
English Writing			Computer Engineering & International Communications 5 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 2	1 & 2	Ian Stevenson
Course Overview			
<p>Students will learn composition skills by receiving instruction in the following: the writing process, organization, sentence writing, paragraph development, and punctuation. Students will work with the teacher, in pairs, and in small groups to review and edit their writing. The composition skills will be applied to a variety of writing topics and types. The types of writing will include instructions (technical writing), comic books, personal stories, summaries, letters, paragraphs, interviews, and poems. Students will also keep a weekly free-writing journal. In preparation for writing, the students will read examples of the different types of writing.</p> <p>Each student will create a professional-looking scrapbook for a final project. It will be a compilation of some of their finished writing pieces and serve as a reminder of their progress in writing and good efforts.</p>			
Keywords : recursive writing, composition, scrapbooks, journals			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
<p style="text-align: center;"><u>Write Away Right Away</u> David Martin EFL Press, 2010.</p>		Handouts	<p>Subjects : Qualification Tests :</p>
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	<p>Students will be evaluated in class on each step of the writing process. Participation and effort will be assessed in bookwork, writing first drafts, giving and receiving feedback in pairs and small groups, reviewing and editing, and writing final drafts. The final drafts of writing are considered tests, and will be evaluated based on the writing focus for that assignment. Journal writing will be submitted and evaluated for effort, length and progression of length throughout the year.</p>	
Book & Class Assignments	15		
Rough Drafts	25		
Final drafts/ Scrapbook	35		
Journal/ Attendance	25		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>It is absolutely necessary for you, as a student, to come to class regularly and on time. Most classes will begin with 15 minutes designated to journal writing on various topics. If you miss class, it is your responsibility to make arrangements to meet the teacher outside of class to get missed class work and information about assignments. You can't make up missed journals, however.</p> <p>The focus of this class is about using and enjoying the process of writing to create writing you and your audience can enjoy. Finishing the final draft isn't the only goal of writing. Enjoy the process of recursive writing and you will be amazed at how your pieces improve from one stage to the next, until finally you're left with a final draft that is worthy of an audience.</p> <p>You CANNOT use on-line translation software – writing a sentence in Japanese and then putting it into a translation engine to be translated into English is not writing. Also, you CANNOT cut and paste from a website without crediting the source. If you do either, you will get a 0 for the assignment.</p>			
Course Objectives		C, E	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Introductions/ Survey	Get acquainted and oriented. Designing a t-shirt that is about you.	
	Week 2	Persona poems	Write <i>Persona</i> poems. Introduce scrapbooks and Moodle.	
	Week 3	Weather poems	Add <i>Persona</i> poems to scrapbook. Write <i>Weather</i> poems.	
	Week 4	Unit 1—Sentences & paragraphs	Convert information to sentences, capitalization, and punctuation.	
	Week 5	Unit 2 – Descriptive writing	Use of present tense, contractions, descriptive adjectives, etc.	
	Week 6	Unit 2 – Descriptive writing	Write according to the rules of spatial order. Using conjunctions.	
	Week 7	Unit 2 – Descriptive writing	Edit and write final draft using process writing.	
	Week 8	Unit 5 – Technical writing	Use of imperative tense, sequence words, and lists.	
	-			-
	Week 9	Unit 5 – Technical writing	Edit rough drafts, and create a poster.	
	Week 10	Unit 6 – Expository writing	Compare and Contrast. Identify differences between ideas.	
	Week 11	Unit 10 – Expository writing	Compare and contrast holidays, festivals, countries, etc.	
	Week 12	Unit 10 – Expository writing	Create a festival, compare and contrast it with other festivals.	
	Week 13	Unit 6 – Persuasive writing	Use statements, adjectives, evidence, and arguments to persuade.	
	Week 14	Unit 6 – Persuasive writing	Make a persuasive promotional flyer/pamphlet for your festival.	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Complete unfinished work, share, and add to scrapbooks.		
2 nd Semester	Week 16	Units 5 & 12 – Peer feedback	Peer edit and complete promotional flyer/pamphlet.	
	Week 17	Unit 8 – Letters	Write a formal persuasive letter.	
	Week 18	Unit 8 – Letters	Write a formal letter/email requesting information.	
	Week 19	Unit 9 – Letters	Write an informal instructional note.	
	Week 20	Unit 7 – Narrative writing	Read a folk/pourquoi story. Brainstorm your own story.	
	Week 21	Unit 7 – Narrative writing	Map your own pourquoi story and begin to write.	
	Week 22	Unit 7 – Narrative writing	Write a pourquoi story.	
	Week 23	Unit 7 – Narrative writing	Peer proofread/edit and illustrate the stories.	
	-			-
	Week 24	Scrapbook/Catch up work class	Finish and share work and add beauty and style to scrapbooks.	
	Week 25	Unit 7 – Narrative writing	Read a news story. News story rough draft and peer edit.	
	Week 26	Unit 7 – Narrative writing	Develop your story	
	Week 27	Unit 7 – Narrative writing	Revising based on peer feedback.	
	Week 28	Unit 10 – Summarize information	Write a review	
	Week 29	Unit 10 – Summarize information	Review a movie rough draft.	
	Week 30	Unit 10 – Summarize information	Peer edit and final drafts.	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Reflect on the year using forms/methods studied during the year.		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.

Learning Support Plan (2012)

Course			Class
Discussion			Computer Engineering & International Communications 5 th year
Required or Elective	Credits	Semesters	Instructor 担当教員
Elective	履修 2	1 & 2	Nathan Lurie
Course Overview			
<p>Students will watch movies and have discussions with the topics introduced in the movies. In order to discuss the topics, students should understand the story thoroughly. This will be done through studying characters in the movies and the dialogues between the characters. Also students will learn discussion skills such as expressing opinions, agreeing/disagreeing, and interrupting politely to be able to have discussion more strategically.</p>			
Keywords :			
Textbook		Reference Materials	Related Subjects & Qualification Tests
Topic Talk Issues by Kirsty McLean EFL Press		Handouts	Subjects : Qualification Tests :
Evaluation Method			
Evaluation Percentage	%	Students will be evaluated basically on their participation and in-class works. Students will receive a self-evaluation form at the end of every class so that they can measure their own performances. The class work includes any speaking or written activities done in class. In order to complete the class work successfully, students are encouraged to help each other and ask for help from the teacher.	
Participation, effort, attitude	50		
In-class works/ project	50		
Total	100		
Advice from Instructor to Students for Class			
<p>Come to class on time with your textbook. When you miss out a class, please come to the teacher for a make-up.</p>			
Course Objectives		C, E	
Office		KTC 31-103	

Week	Contents	Achievement Goals	Check	
1 st Semester	Week 1	Intro to Course	Greeting: Name games, Introduction PPT, Syllabus explanation	
	Week 2	<i>Truman Show:</i>	Talk about celebrities and images, Watch the first half of the movie	
	Week 3	<i>Truman Show: 1/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 4	<i>Truman Show:</i>	Predict the second half of the movie and watch it	
	Week 5	<i>Truman Show: 2/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 6	<i>Truman Show:</i>	Discuss how TV can influence what you think or do	
	Week 7	<i>Truman Show:</i>	Make a comic of the movie	
	Week 8	<i>My Big Fat Greek Wedding:</i>	Talk about marriage, Watch the first half of the movie	
	-			-
	Week 9	<i>My Big Fat Greek Wedding:1/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 10	<i>My Big Fat Greek Wedding:</i>	Predict the second half of the movie and watch it	
	Week 11	<i>My Big Fat Greek Wedding:2/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 12	<i>My Big Fat Greek Wedding:</i>	Make a comic of the movie	
	Week 13	<i>My Big Fat Greek Wedding:</i>	Study discussion languages regarding interrupting	
	Week 14	<i>My Big Fat Greek Wedding:</i>	Discuss about family values and different cultures	
-			-	
Week 15	Self-evaluation	Review with games or a project		
2 nd Semester	Week 16	<i>Dead Poet's Society:</i>	Talk about schools in Japan , Watch the first half of the movie	
	Week 17	<i>Dead Poet's Society: 1/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 18	<i>Dead Poet's Society:</i>	Predict the second half of the movie and watch it	
	Week 19	<i>Dead Poet's Society: 2/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 20	<i>Dead Poet's Society:</i>	Study discussion languages regarding agree/disagree	
	Week 21	<i>Dead Poet's society:</i>	Discuss what people learn at school, like/dislike about school	
	Week 22	<i>October Sky:</i>	Talk about the first satellite, Watch the first half of the movie	
	Week 23	<i>October Sky: 1/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	-			-
	Week 24	<i>October Sky:</i>	Predict the second half of the movie and watch it	
	Week 25	<i>October Sky: 2/2</i>	Study the characters and the conversation dialogues	
	Week 26	<i>October Sky:</i>	Study discussion languages regarding expressing opinions	
	Week 27	<i>Super Size Me:</i>	Talk about Mc Donald's in Japan, Watch the first half of the movie	
	Week 28	<i>Super Size Me: 1/2</i>	Predict the second half of the movie and watch it	
	Week 29	<i>Super Size Me: 2/2</i>	Analyze the characters and study the conversation dialogues	
	Week 30	<i>Super Size Me:</i>	Discuss the change of the Japanese diet	
-			-	
Week 31	Self-evaluation/Closing	Review with games or a project		

Check (Self-Evaluation) : I understand well. ← A B C D E → I don't understand at all.